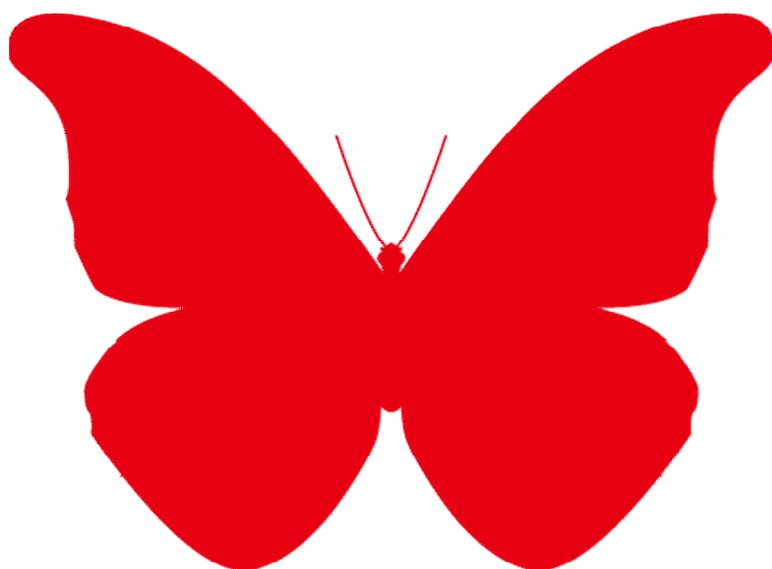


昆虫類・クモ類



山口県の昆虫類・クモ類の概要

昆虫・クモ類は種類の多い生物集団で 2015 年末現在、山口県で 26 目 462 科 8,236 種（昆虫類：25 目 419 科 7,943 種、クモ類：1 目 43 科 293 種）が確認されている。これは 2002 年発行の‘レッドデータブックやまぐち’と比較すると 78 科 1,437 種も増えたことになる。野生生物のなかで特に昆虫類は種数の多い種群で、この中でコウチュウ目（101 科 2,892 種）とチョウ目（65 科 2,506 種）はもっとも多い分野である。

本来カテゴリーのランクを決定する場合、種数が定まっただけで、かつ担当者が継続して調査活動をしていることが望ましいわけだが、2002 年の選定時から続けて携わった方は限られている。しかも毎年新たな種が多く発見されるなど、実態は刻々変化する過程の中でその推移を見極めることは非常に困難を伴うことになる。よって 2015 年時点の目録から一律の基準を設けて絶滅危惧種を選定することは、各分野間の温度差を考えた場合、無理が生じてくるため掲載種は各担当者の判断に基づき選定している。

種を選定する際の基準となるものは積み重ねられたデータにほかならない。このたびの掲載種を見た場合、ランク別けされた分野で例えば、トンボ目やチョウ目の蝶類では情報不足種として見直しされた種は一種類も選定されていない。反面コウチュウ目やハチ目、ハエ目では圧倒的に情報不足種の方がランク付けされた種より多い結果となっている。このことは種類の多さもさることながら、その種の実態を把握するまでに至らないといえる。またチョウ目の蛾類のように種数が多いにも関わらず、ランク付けされた種が少なく限られ、目によっては情報不足種だけ選定された分野もある。

これから判るようにトンボ目やチョウ目の蝶類の場合は、既に県内に生息する種数が決定され調査も県内のほぼ全域に渡り調べられてきた結果、選定種の推移が分析できたからといえる。昆虫相の解明は採集と観察による記録の集積が基本となる。これは同好者の数と活動量によって大きく左右されるため、目によってはほとんど解明されていない分野もあるが、今回の見直しでは 13 目 105 科 392 種（昆虫類：12 目 102 科 388 種、クモ類：1 目 3 科 4 種）を、山口県の昆虫・クモ類としてレッドデータブックやまぐち 2019 に掲載することになった。

レッドデータブックやまぐち（2002）と比較すると新たに絶滅種や絶滅危惧 I A 類に選定された種が見られる反面、カテゴリーのランクのアップやダウンが生じたり、前回の選定から対象外になるなど全ての分野でカテゴリーの変更が見られる。このことは生き物である限り固定される種は存在しないということで、地球の温暖化など様々な気象条件により予想もしないような災害に見舞われた場合など、小さな生物群である昆虫やクモ類にとっては大きな影響を受けることは必至となる。この様に生き物を対象とする限り環境の変化とともに絶えず状況は推移するため、定期的な見直しは今後も不可欠なことになる。

21 世紀は共生の時代だといわれ 18 年が経過した。生物多様性についても事あるたびに叫ばれた節目の年に、山口県のレッドデータブックやまぐち 2019 が完成することは大変意義深いことである。これからの保全活動に役立つ資料として活用されることを期待するものである。

おわりに、この見直し調査にあたり現地調査の活動にご協力いただき、貴重な生態写真の提供を受けた山口むしの会の管 哲郎氏（宇部市）をはじめ、山本匡章氏（下関市）、相本篤志氏（防府市）、吉原太一氏（周南市）ならびに、ご支援をいただいた会員諸氏および会員外の樋口尚樹氏（萩市）、浴井 遥氏（周南市）にも感謝したい。また昆虫類の標本写真の撮影にあたり、ご理解いただいた山口県立山口博物館殿にも心より厚くお礼申しあげます。

【執筆者：後藤 和夫】

(昆虫類執筆担当者)

(全員山口むしの会会員)

氏 名	役 職	担 当 分 野(目)
後藤和夫	会長	総括
稲田博夫	副会長	チョウ(蝶類)
福田竹美	事務局長	ナナフシ・バッタ・カマキリ・アミメカゲ ロウ
五味 清	地区幹事・事務局補佐	チョウ(蝶類)
伊ヶ崎伸彦	地区幹事	カメムシ
椋木博昭	地区幹事	コウチュウ
下野誠之	山口むしの会会員	コウチュウ
辻 雄介	山口むしの会会員	コウチュウ
中村 孝	保全委員	ハチ
柿沼 進	山口むしの会会員	ハエ
川元 裕	地区幹事	ハチ・ハエ
後藤益滋	山口むしの会会員	トビケラ
重中良之	保全委員	チョウ(蛾類)
村田 淳	地区幹事	チョウ(蛾類)
伴 一利	地区幹事	トンボ
協力者		
管 哲郎	山口むしの会会員(監査)	
山本匡章	山口むしの会会員(保全委員)	
吉原太一	山口むしの会会員	

(クモ類執筆担当者)

増原啓一(日本蜘蛛学会会員)

【昆虫類】 山口県レッドリスト2018 (分類群順)

●絶滅 (EX) 13種

トンボ目

アオハダトンボ
コフキヒメイトトンボ

Calopteryx japonica
Agriocnemis femina oryzae

コウチュウ目

ダイコクコガネ
フタスジカタビロハナカミキリ
ツマキトラカミキリ
モンクロベニカミキリ
ヒゲナガカミキリ
オオルリハムシ

Copris (Copris) ochus
Brachyta bifasciata japonica
Xylotrechus (Xylotrechus) clarinus
Purpuricenus (Sternoplistes) lituratus
Monochamus (Monochamus) grandis
Chrysolina (Erythrochrysa) virgata

ハエ目

シロスネアブ
トラツリアブ

Tabanus miyajima
Anastoechus nitidulus nitidulus

チョウ目(チョウ)

ミドリシジミ
ヒョウモンモドキ
ヒメヒカゲ

Neozephyrus japonicus
Melitaea scotosia
Coenonympha oedippus

●絶滅危惧 I A類 (CR) 17種

トンボ目

モートンイトトンボ
ヒヌマイトトンボ
ベッコウトンボ

Mortonagrion selenion
Mortonagrion Hirosei
Libellula angelina

コウチュウ目

ヨドシロヘリハンミョウ
シロヘリハンミョウ

Callytron inspeculare inspeculare
Callytron yuasai yuasai

ハエ目

カキヌマホソニクバエ

Goniophyto kakinumai

チョウ目(チョウ)

キバネセセリ
ホシチャバネセセリ
ヘリグロチャバネセセリ
コキマダラセセリ
ギフチョウ
カシワアカシジミ
カラスシジミ
クロシジミ
ヒメシジミ
オオウラギンヒョウモン
クロヒカゲモドキ

Burara aquilina
Aeromachus inachus
Thymelicus sylvaticus
Ochlodes venatus
Luehdorfia japonica
Japonica onoi
Fixsenia w-album
Niphanda fusca
Plebejus argus
Fabriciana nerippe
Lethe marginalis

●絶滅危惧 I B類 (EN) 17種

トンボ目

コバネアオイトトンボ
オオイトトンボ
オグマサナエ
コサナエ
キイロヤマトンボ

Lestes japonicus
Paracercion sieboldii
Trigomphus ogumai
Trigomphus melampus
Macromia daimoji

コウチュウ目

セアカオサムシ
ツノコガネ
スジグロボタル西日本亜種
(キンキスジグロボタル)
オオキノコムシ
ヨツボシカミキリ
ルリボシカミキリ

Carabus (Hemicarabus) tuberculatus
Liatongus minutus
Pristolycus sagulatus adachii
Encaustes cruenta praenobilis
Stenygrium quadrinotatum
Rosalia (Rosalia) batesi

ハエ目

ハマツルギアブ	<i>Acrosathe obsoleta</i>
モモボソヒラズムシヒキ	<i>Stichopogon gracilifemur</i>
チョウ目(チョウ)	
ミヤマチャバネセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i>
ウスイロオナガシジミ	<i>Antigius butleri</i>
クロツバメシジミ	<i>Tongeia fischeri</i>
ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice</i>
●絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 36種	
トンボ目	
ネアカヨシヤンマ	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>
ホンサナエ	<i>Shaogomphus postocularis</i>
キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryeri</i>
ハネビロエゾトンボ	<i>Somatochlora clavata</i>
アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>
ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>
バッタ目	
カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i>
カメムシ目	
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>
タガメ	<i>Kirkaldyia deyrolli</i>
イトアメンボ	<i>Hydrometra albolineata</i>
コウチュウ目	
ムツモンコムズギワゴミムシ	<i>Tachys (Paratachys) plagiatus shimosae</i>
ダイセンツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus (Trichotichnus) daisenus</i>
ダイセンナガゴミムシ	<i>Pterostichus (Daisenialoe) fujimurai</i>
ダイセンミズギワナガゴミムシ	<i>Pterostichus (Paralianoe) daisenicus daisenicus</i>
ジュウクホシテントウ	<i>Anisosticta kobensis</i>
オオクロカミキリ	<i>Megasemum quadricostulatum</i>
ヒゲジロホソコバネカミキリ	<i>Necydalis (Necydalisca) odai</i>
アカジマトラカミキリ	<i>Anaglyptus (Akajimatora) bellus bellus</i>
アオカミキリ	<i>Schwarzerium quadricollis</i>
チャイロチビヒラタカミキリ	<i>Phymatodes (Phymatodellus) infasciatus</i>
セダカコブヤハズカミキリ山口亜種	<i>Parechthistatus gibber tanakai</i>
ヒメビロウドカミキリ	<i>Acalolepta degener degener</i>
イネネクイハムシ	<i>Donacia provostii</i>
アミメカゲロウ目	
キバネツノトンボ	<i>Libelloides ramburi</i>
トビゲラ目	
カタツムリトビケラ	<i>Helicopsyche yamadai</i>
チョウ目(ガ)	
オオミノガ	<i>Eumeta variegata</i>
サツマニシキ	<i>Erasmia pulchella</i>
フチグロトゲエダシャク	<i>Nyssiodes lefuarius</i>
チョウ目(チョウ)	
ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>
ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta</i>
ハヤシミドリシジミ	<i>Favonius ultramarinus</i>
ミヤマカラスシジミ	<i>Fixsenia mera</i>
スギタニルリシジミ	<i>Celastrina sugitanii</i>
クモガタヒョウモン	<i>Nephargynnis anadyomene</i>
ホシミスジ	<i>Neptis pryeri</i>
オオヒカゲ	<i>Ninguta schrenckii</i>
●準絶滅危惧 (NT) 59種	
トンボ目	
オツネトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>
アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>
サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryeri</i>
アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>

ルリボシヤンマ	<i>Aeshna juncea juncea</i>
アオサナエ	<i>Nihonogomphus viridis</i>
ミヤマサナエ	<i>Anisogomphus maacki</i>
ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryeri</i>
エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea</i>
バッタ目	
ハネナシコオロギ	<i>Goniogryllus sexspinosus</i>
ヤマトマダラバッタ (ヤマトバッタ)	<i>Epacromius japonicus</i>
カメムシ目	
エゾゼミ	<i>Auritibicen japonicus</i>
エゾハルゼミ	<i>Terpnosia nigricosta</i>
オオミズムシ	<i>Hesperocorixa kolthoffi</i>
ケシウミアメンボ	<i>Halovelia septentrionalis</i>
ババアメンボ	<i>Gerris (Gerris) babai</i>
エサキアメンボ	<i>Limnopus esakii</i>
シロヘリツチカメムシ	<i>Canthophorus niveimarginatus</i>
クチブトカメムシ	<i>Picromerus lewisi</i>
コウチュウ目	
アイヌハンミョウ	<i>Cicindela (Cicindela) gemmata aino</i>
ミズギワアトキリゴミムシ	<i>Demetrius marginicollis</i>
コガタノゲンゴロウ	<i>Cybister (Cybister) tripunctatus lateralis</i>
クロゲンゴロウ	<i>Cybister (Melanectes) brevis</i>
ヒメオオクワガタ	<i>Dorcus montivagus montivagus</i>
ゴホンダイコクコガネ	<i>Copris (Copris) acutidens</i>
クロカナブン	<i>Rhomborhina (Rhomborhina) polita</i>
オオチャイロハナムグリ	<i>Osmoderma opicum</i>
オオヒラタハナムグリ	<i>Neovalgus fumosus</i>
クロマダラタマムシ	<i>Nipponobuprestis (Nipponobuprestis) querceti</i>
キンイロエグリタマムシ	<i>Endelus (Endelus) collaris collaris</i>
フタコブルリハナカミキリ	<i>Stenocorus (Eutoxotus) caeruleipennis</i>
トラフカミキリ	<i>Xylotrechus (Xyloclytus) chinensis kurosawai</i>
イッシキキモンカミキリ	<i>Glenea (Glenea) centroguttata</i>
キンイロネクイハムシ	<i>Donacia japona</i>
ミツギリゾウムシ	<i>Baryrhynchus (Eupsalomimus) poweri</i>
アミメカゲロウ目	
ツマグロカマキリモドキ	<i>Austroclimaciella quadrituberculata</i>
ハチ目	
ニッポンハナダカバチ	<i>Bembix niponica</i>
キアシハナダカバチモドキ	<i>Stizus pulcherrimus</i>
キバラハキリバチ	<i>Megachile xanthothrix</i>
ハエ目	
オオシマハナアブ	<i>Sericomyia sachalinica</i>
ゴヘイニクバエ	<i>Sarcophila japonica</i>
トビゲラ目	
シロフツヤトビケラ	<i>Parapsyche maculata</i>
チョウ目(ガ)	
オキナワルリチラス	<i>Eterusia aedeia</i>
ハネホソトガリミズメイガ	<i>Eristena sp.</i>
アキヨシトガリエダシヤク	<i>Hypoxystis pulcheraria</i>
カバイロシヤチホコ	<i>Ramesa tosta</i>
ダイセンセダカモクメ	<i>Cucullia mandschuriae</i>
ギンモンセダカモクメ	<i>Cucullia jankowskii</i>
アオモンギンセダカモクメ	<i>Cucullia argentea</i>
チョウ目(チョウ)	
スジグロチャバネセセリ	<i>Thymelicus leoninus</i>
スジボソヤマキチョウ	<i>Gonepteryx aspasia</i>
ルーミスジミ	<i>Arhopala ganesa</i>
ウラキンシジミ	<i>Ussuriana stygiana</i>

ウラクロシジミ
シルビアシジミ
オオウラギンスジヒョウモン
ウラギンヒョウモン
オオムラサキ
ウラナミジャノメ

●情報不足 (DD) 246種

ナナフシ目

ヤスマツトビナナフシ

バッタ目

オオオカメコオロギ
スオウササキリモドキ

カマキリ目

ヒメカマキリ
ヒナカマキリ

カメムシ目

ミゾナシミズムシ
ナガミズムシ
クヌギヒイロカスミカメ
オオアシナガサシガメ
ヒラタトガリカメムシ

コウチュウ目

キベリマルクビゴミムシ
ルイスハンミョウ
コニワハンミョウ
カワラゴミムシ
キバナガミズギワゴミムシ
キバネキバナガミズギワゴミムシ
ウミミズギワゴミムシ
カオルコミズギワゴミムシ
ドウイロハマベゴミムシ
ハマベゴミムシ
ウミホソチビゴミムシ
アキヨシメクラチビゴミムシ
ナカオドウメクラチビゴミムシ
オオメクラチビゴミムシ
ジャクチサンヌレチゴミムシ
ヒラタマルゴミムシ
ツヤキベリアオゴミムシ
チョウセンゴモクムシ
ダイミョウアトキリゴミムシ
エサキクロモリヒラタゴミムシ
オオダイオオナガゴミムシ中国・四国亜種
ヒコサンナガゴミムシ山口亜種
キュウシュウナガゴミムシ
ゲンゴロウ
エンマムシモドキ
アラメエンマムシ
アキヨシヒロズアリヅカムシ
オオツノハネカクシ
ナカネメダカオオキバハネカクシ
キンボシマルズオオハネカクシ
マダラクワガタ
ネプトクワガタ
オオクワガタ
チビクワガタ
マメクワガタ
オニクワガタ

Iratsume orsedice
Zizina emelina
Argyronome ruslana
Fabriciana adippe
Sasakia charonda
Ypthima multistriata

Micadina yasumatsui

Loxoblemmus magnatus
Asymmetricercus suohensis

Acromantis japonica
Amantis nawai

Cymatia apparens
Hesperocorixa mandshurica
Pseudoloxops miyamotoi
Gardena melinarthrum
Brachymna tenuis

Nebria (Paranebria) livida angulata
Cicindela (Cicindela) lewisi lewisi
Cicindela (Cicindela) transbaicalica japonensis
Omophron (Omophron) aequale aequale
Cillenus (Desarmatocillenus) yokohamae
Cillenus (Novicillenus) aestuarii
Sakagutia marina
Tachys (Paratachys) kaorutanakai
Pogonus (Pogonus) itoshimaensis
Pogonus (Pogonus) japonicus
Perileptus (Perileptus) morimotoi
Rakantrechus (Uozumitrechus) etoi etoi
Stygiotrechus parvulus
Trechiana pluto
Apatrobus (Apatrobus) jakuchiensis
Cosmodiscus platynotus
Chlaenius (Chlaenites) spoliatus motschulskyi
Harpalus (Harpalus) crates
Cymindis (Menas) daimio
Platyagonum esakii
Pterostichus (Paralianoe) biexcisus subparallelus
Pterostichus (Pterostichus) hikosanus kaorui
Pterostichus (Pterostichus) kyushuensis
Cybister (Scaphinectes) chinensis
Syntelia histeroides
Hister salebrosus subsolanus
Takaorites coiffaiti
Bledius (Bledius) salsus
Megalopinus (Megalopinus) japonicus
Ocypus (Ocypus) weisei
Aesalus asiaticus asiaticus
Aegus laevicollis subnitidus
Dorcus hopei binodulosus
Figulus binodulus
Figulus punctatus
Prismognathus angulalis angulalis

ルリクワガタ
ニシコルリクワガタ
ミツノエンマコガネ
オオダイセマダラコガネ
コカブト (コカブトムシ)
キョウトアオハナムグリ
アカマダラハナムグリ
アオアシナガハナムグリ
トラハナムグリ
トゲヒラタハナムグリ
オニチャイロツヤハダコメツキ (オニツヤハ)
ヒメハネピロアカコメツキ
クロサワツヤケシコメツキ
キイロホソツツシンクイ
ヤマトヒメメダカカッコウムシ
ミドリオオキスイ
タイショウオオキノコ
ルリヒラタムシ
ハガタホソナガクチキ
ジュウニホシナガクチキ
クビアカホソナガクチキ
ミツオホシハナノミ
クリイロヒゲハナノミ
ベーツヒラタカミキリ
テツイロハナカミキリ
ケプトハナカミキリ
モウセンハナカミキリ
クロサワヘリグロハナカミキリ
クロオオハナカミキリ
クロソンホソハナカミキリ
ヒラヤマコブハナカミキリ
ホンドニセハイイロハナカミキリ
オオアオカミキリ
チャイロホソヒラタカミキリ
ケナガカミキリ
タキグチモモプトホソカミキリ
クビアカモモプトホソカミキリ
オガサワラチャイロカミキリ
キュウシュウトゲバカミキリ
シマトゲバカミキリ
ヤツボシシロカミキリ
ヨツボシシロオビゴマフカミキリ
ハンノキカミキリ
ジュウモンジニセリングカミキリ
タグチホソヒラタハムシ
モリモトタマノミハムシ
ヒメゴマダラオトシブミ
アカサビシギゾウムシ
タカハシトゲゾウムシ
コカタピロゾウムシ
タイワンアカナガクイムシ

ハチ目

オオナギナタハバチ
シリグロチュウレンジ
マツノクロホシハバチ
ツマグロシダハバチ
ムモンムネアカハバチ
ババシロアシマルハバチ

Platycerus delicatulus delicatulus
Platycerus viridicuprus viridicuprus
Onthophagus (Parascatonomus) tricornis
Exomala (Exomala) ohdaiensis
Eophileurus (Eophileurus) chinensis chinensis
Protaetia (Niponoprotaetia) lenzi
Anthrachophora (Poecilophilides) rusticola
Aleurostictus subopacus
Trichius japonicus
Dasyvalgus tuberculatus
Stenagostus horioi
Ampedus (Parelater) miles
Megapenthes kurosawai
Lymexylon miyakei
Neohydnus hozumii
Helota cereopunctata
Episcapha (Psiloscapa) morawitzi
Cucujus mniszeczii
Paradiraeca dentatamaculata
Melandrya (Eumelandrya) duodecimmaculata
Perakianus hisamatsui
Hoshihananomia mitsuoi
Macrotomoxia castanea
Eurypoda (Neoprion) batesi
Encyclops olivacea
Caraphia lepturoides lepturoides
Ephies japonicus japonicus
Eustrangalis anticereducta
Macroleptura thoracica
Mimostrangalia kurosonensis
Enoploderes (Pyrenoploderes) bicolor
Rhagium (Rhagium) pseudojaponicum
Chloridolum (Parachloridolum) thaliodes
Phymatodes (Phymatodes) testaceus
Mimistena setigera japonica
Cleomenes takiguchii
Kurarua rhopalophoroides
Comusia testacea
Rondibilis amanoi
Rondibilis insularis
Olenecamptus octopustulatus
Mesosa (Mesosa) mediofasciata
Cagosima sanguinolenta
Eumecocera minamii
Leptispa taguchii
Sphaeroderma morimotoi
Paroplapoderus (Gomadaranus) vanvolxemi
Curculio lateritius
Dinorhopala takahashii
Trigonocolus sulcatus
Platypus taiwansis

Megaxyela togashii
Arge indicura
Diprion nipponicus
Strongylogaster filicis
Eutomostethus hyalinus
Eriocampa babai

オオツマジロハバチ
ツノジロナカアカハバチ
ジョウノハバチ
オオセグロアオハバチ
オオシロモンハバチ
ハコネハバチ
トゲムネアオハバチ
タイワンヒラアシキバチ
フタツバトゲセイボウ
ホンドツヤセイボウ
トゲムネアリバチ
ムネアカアリバチ
マルヤマクモバチ
マエアカクモバチ
アケボノクモバチ
ヒラカタクモバチ
フトコツチバチ
シロオビハラナガツチバチ
コモンツチバチ
カバオビドロバチ
キオビホオナガスズメバチ
サトセナガアナバチ
モンキジガバチ
キゴシジガバチ
フクイアナバチ
ヤマトスナハキバチ
カゲロウギングチ
ウスキギングチ
ヘロスギングチ
コシプトジガバチモドキ
マルモンツチスガリ
ニッポンツチスガリ
ソボツチスガリ
オオムカシハナバチ
イシハラヒメハナバチ
コガタウツギヒメハナバチ
ミズホヤドリコハナバチ
ネジロハキリバチ
イマイツツハナバチ
マイマイツツハナバチ
ツツハナバチ
シロスジフトハナバチ
(シロスジコシフトハナバチ)
ウスルリモンハナバチ

ハエ目

ハマダラハルカ
ケジロキアブ
ハダカキアブ
ネグロクサアブ
シマクサアブ
和名なし<ミズアブ科>
キバラトゲナシミズアブ
和名なし<ミズアブ科>
ハキナガミズアブ
ヒメルリミズアブ
ヒメキイロコウカアブ
和名なし<ミズアブ科>
ヒラヤマミズアブ
ミズアブ

Tenthredo fagi facigera
Tenthredo ferruginea
Tenthredo jonoensis
Tenthredo nitidiceps
Tenthredo togashii
Tenthredo versuta
Tenthredo viridatrix nippon
Eriotremex formosanus
Elampus bidens
Pseudomalus djozanus hondonis
Bischoffitilla ardescens
Bischoffitilla pungens
Cryptocheilus maruyamai
Agenioideus (Ridestus) lascivus
Anoplius (Anoplius) eous
Aporus japonicus
Tiphia (Tiphia) corpulenta
Megacampsomeris schulthessi
Scolia (Discolia) decorata
Euodynerus dantici
Dolichovespula media
Ampulex dissector
Sceliphron (Hensenia) deforme
Sceliphron (Sceliphron) madraspatanum
Sphex inusitatus
Bembecinus hungaricus
Crossocerus (Blepharipus) walkeri
Ectemnius (Cameronitus) flavohirtus
Lestica (Solenius) heros
Trypoxylon (Trypoxylon) pacificum
Cerceris japonica
Cerceris nipponensis
Cerceris sobo
Colletes (Colletes) collaris
Andrena (Andrena) ishiharai
Andrena (Calomelissa) tsukubana
Sphecodes japonicus
Megachile (Callomegachile) disjunctiformis
Osmia (Helicosmia) jacoti
Osmia (Helicosmia) orientalis
Osmia (Osmia) taurus
Amegilla (Amegilla) quadrifasciata

Thyreus centrimacula

Haruka elegans
Xylophagus albopilosus
Xylophagus nudatus
Coenomyia basalis
Odontosabula gloriosa
Allognosta flavimaculata
Allognosta japonica
Chorisops maculiala
Rhaphiocerina hakiensis
Ptecticus matsumurae
Ptecticus sinchangensis
Odontomyia filipjewi
Odontomyia hirayamae
Stratiomys japonica van der

ヒゲナガキアブモドキ
トラキアブモドキ
和名なし<シギアブ科>
クロモンナガレアブ
ハマダラナガレアブ
マルガタアブ
キンメアブ
ヨスジキンメアブ
ニセアカウシアブ
シバカワツリアブ
ヤマシロツリアブ
ヒロクキツルギアブ
ショージツルギアブ
コーカサスイシアブ
カタナクチイシアブ
オタネガワイシアブ
エダヒゲムシヒキ
アシナガムシヒキ
ヒラタムシヒキ
カワラムシヒキ
カワムラヒゲボソムシヒキ
ツマグロヒゲボソムシヒキ
ハタケヤマヒゲボソムシヒキ
ウスグロオビヒラタアブ
ノラヒラタアブ
シバカワオビヒラタアブ
(シバカワヒラタアブ)
タイワンオオヒラタアブ
クロイワオビヒラタアブ
トゲヒメヒラタアブ
ヨコモンヒラタアブ
ニセツマグロハナアブ
キオビハラボソヒラタアブ
ワタリムツボシヒラタアブ
シママメヒラタアブ
コマバクロハナアブ
オモゴクロハナアブ
スズキベッコウハナアブ
ナガモモフトハナアブ
イイダハイジマハナアブ
カワムラモモフトハナアブ
ケコヒラタアブ
ヒサマツハチモドキハナアブ
ハチモドキハナアブ
ケブカハチモドキハナアブ
タテジマクロハナアブ
スルスミシマハナアブ
トゲミケハラフトハナアブ
キョウトハナアブ
オオフトモンハナアブ
キガオモモフトハナアブ
トゲモンハナアブ
キバラナガハナアブ
コシアキオオモモフトハナアブ
ムナキハナアブ
マツムラナガハナアブ
モモフトチビハナアブ
ヨコジマナガハナアブ
ヒサマツケブカハラナガハナアブ

Xylomya longicornis
Xylomya shikokuana
Chrysopilus morimotoi
Asuragina caeruleascens
Atherix ibis japonica
Stonemyia yezoensis
Chrysops suavis
Chrysops vanderwulpi
Tabanus chrysurinus
Bombylius shibakawae
Brachyanax aterrimus
Clorismia latiphalangis
Dialineura shozii
Choerades caucasicus
Mactea matsumurai
Andrenosoma otanegawana
Myelaphus dispar
Molobratia japonica
Clinopogon nicobarensis
Lasiopogon rokuroi
Ceraturgus kawamurai
Cyrtopogon pictipennis
Grypoctonus hatakeyamae
Epistrophe (Epistrophe) betasyrphoides
Epistrophe (Epistrophe) griseofasciata
Epistrophe (Epistrophe) shibakawae
Eupeodes (Macrosyrphus) confrater
Eupeodes (Macrosyrphus) kuroiwae
Ischiodon scutellaris
Leucozona (Ischyrosyrphus) laternarius
Leucozona (Leucozona) inopinata
Melangyna (Meligramma) cincta
Scaeva pyrastris
Paragus (Paragus) fasciatus
Cheilosia komabaensis
Cheilosia longula
Volucella suzukii
Azpeytia shirakii
Eumerus iidai
Merodon kawamurae
Psilota brevicornis
Ceriana japonica
Monoceromyia pleuralis
Primoceroides petri
Eristalinus (Eristalinus) sepulchralis
Eristalis (Eoseristalis) japonica van der
Mallota tricolor
Blera kiotoensis
Blera shirakii
Lejota ambigua
Lejota femoralis
Macrozelima hervei
Matsumyia japonica
Pterallastes unicolor
Spilomyia permagna
Syritta pipiens
Temnostoma vespiforme
Chalcosyrphus (Xylotodes) hisamatsui

クロアシハラナガハナアブ	<i>Chalcosyrphus (Xylotodes) nigricans</i>
クロハラナガハナアブ	<i>Chalcosyrphus (Xylotomima) longus</i>
ミヤマルリイロハラナガハナアブ	<i>Xylota coquilletti</i>
ヒメルリイロアリノスアブ	<i>Archimicrodon simplex</i>
ケンランアリノスアブ	<i>Microdon (Chymophila) katsurai</i>
オオズグロメバエ	<i>Archiconops niponensis</i>
キアシクロメバエ	<i>Conops (Asiconops) curtulus</i>
和名なしくメバエ科>	<i>Thecophora atra</i>
和名なしくメバエ科>	<i>Thecophora pusilla</i>
マツダマダラヒロクチバエ	<i>Euprosopia matsudai</i>
クモマトラフバエ	<i>Xanthotryxus mongol</i>
ヤドリトリキンバエ	<i>Trypocalliphora braueri</i>
シロオビギンガクヤドリニクバエ	<i>Sphenometopa matsumurai</i>
ウベホソニクバエ	<i>Goniophyto ubeensis</i>
サタニクバエ	<i>Heteronychia depressifrons</i>
ホオザワニクバエ	<i>Horiisca hozawai</i>
ヒメニクバエ	<i>Myorhina (Bellieriomima) pterygota</i>
ウエモトニクバエ	<i>Parasarcophaga (Robineauella) uemotoi</i>
ヌマニクバエ	<i>Parasarcophaga (Varirosellea) uliginosa</i>
トゲニクバエ	<i>Sinonipponia hervebazini</i>
トビゲラ目	
ビワアシエダトビケラ	<i>Georgium japonicum</i>
チョウ目(ガ)	
アキヨシヒゲナガ	<i>Nemophora smaragdaspis</i>
エンスイミズメイガ	<i>Eristena argentata</i>
フジキオビ	<i>Schistomitra funeralis</i>
シロオビフユシヤク	<i>Alsophila japonensis</i>
スゲドクガ	<i>Laelia coenosa</i>
マエアカヒトリ	<i>Aloa lactinea</i>
アキヨシアカスジヤガ	<i>Heliocheilus bimaculata</i>

【クモ類】 山口県レッドリスト2018 (分類群順)

●準絶滅危惧(NT) 4種

キノボリトタテグモ

Conothele fragaria

キシノウエトタテグモ

Latouchia typica

オフクホラヒメグモ

Nesticus akiyoshiensis ofuku

ホシヒメグモモドキ

Theridula gonygaster

●情報不足(DD) 1種

ワスレナグモ

Calommata signata

トンボ目 カワトンボ科 0800300200300 アオハダトンボ <i>Calopteryx japonica</i> Selys, 1869	カテゴリ	
	山口県	2018 EX
		2002 NT
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂45～49mm、♀44～47mm。後翅長♂35～38mm、♀39～41mm。ハグロトンボによく似ている。♂では翅が青藍色に輝き、♀では翅が褐色で前翅は色が淡く、乳白色の偽縁紋がある。



提供：管 哲郎

生息・生育状況

ツルヨシなどの抽水植物の繁茂する清流に生息する。山口県では1975年に周南市大潮(旧都濃郡鹿野町大潮)で1♂1♀の記録があるのみ。

選定理由

1♂1♀の古い記録だけで、その後現在に至るまで確認されていない。長距離を移動する種ではないため、飛来種とも考えられず絶滅と判断した。

減少等の要因

記録が少ないため、減少の要因は不明。

トンボ目 イトトンボ科 0800300400700 コフキヒメイトトンボ <i>Agriocnemis femina oryzae</i> Lieftinck, 1962	カテゴリ	
	山口県	2018 EX
		2002 CR
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

♂♀ともほぼ同じ大きさで、腹長15～18mm、後翅長9～10mm。ヒメイトトンボによく似た小型のイトトンボで、♂は成熟すると胸部に白粉をまとう。



提供：後藤 和夫

生息・生育状況

おもに低湿地の背丈の低い草におおわれた滞水や池沼、水田、ほとんど流れを感じないような溝川などに生息し、羽化した個体はほとんど羽化水域を離れず草の茂みの間で生活している。出現期は6月に入ってからで、八重山諸島では年中見られる。

選定理由

1964年に県内で発見されたが、1969年以降は記録がない。生息地周辺の圃場整備もされていることから絶滅したと考えられる。

減少等の要因

開発及び農薬が原因と考えられる。

コウチュウ目 コガネムシ科 0801602103000 ダイコクコガネ <i>Copris (Copris) ochus</i> (Motschulsky, 1860)	カテゴリ	
	山口県	2018 EX 2002 VU
	環境省	2019 VU

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長は16～34mmで大型の糞虫。上翅は光沢のやや弱い黒色で縦条は浅く間室は平坦。♂は頭部に角を1本そなえるがその大きさには個体変異がある。前胸背板には中央に1対の突起をもち、その両側に1対の小突起をもつ。♀は頭部に角がなく、両端がコブ状で厚みのある横隆起をそなえ、前胸背板は前方に弧状の横隆起をもつ。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

草丈の短い放牧場などの新鮮な獣糞に見つかることが多く、糞の地下20～50cmに育児室を作り、数個の糞球を運び入れ産卵する。夜行性で灯火によく飛来する。牛の糞を好むが乳牛の糞は軟便のため好まず、肉牛の糞を好む。

選定理由

本種は牧畜業の盛衰に左右され、全国的に減少傾向にある。県内では美祢市の秋吉台・岩永台周辺と下関市の離島での記録があるが、1990年以降の記録がなく県内の牧場では絶滅したものと思われる。

減少等の要因

飼料の変化により糞が軟らかくなったことが減少の一因とも言われているが、詳しいことは分かっていない。秋吉台には1980年代まで多産していたが、ここは採集圧も大きな減少の要因と思われる。

- 271 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609204100 フタスジカタビロハナカミキリ <i>Brachyta bifasciata japonica</i> (Matsushita, 1933)	カテゴリ	
	山口県	2018 EX 2002 CR
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長は16～23mm。体は黒色で触角の2～5節と各脚の脛節が黄色。上翅は肩が張り、あざやかな黄色で大小の黒紋がある。翅端は黒色で縁取られる。♀は♂に比べて大型で丸みがある。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

成虫は4月下旬～5月中旬にヤマシャクヤクの花に見られ、花卉や花粉を食する。ヤマシャクヤクに強く依存しており、ヤマシャクヤクの生える山地の湿生草原や谷沿いに生息する。午前中にヤマシャクヤクの周辺を活発に飛翔する。

選定理由

錦町の既知産地は1980年代後半には記録が途絶え、山口市阿東でも2000年以降の記録が全くない。調査はヤマシャクヤクの花を探せばよいので容易であるが発見できないため絶滅したものと思われる。

減少等の要因

大雨などで谷沿いのヤマシャクヤクの群生地が流されたり、鑑賞のため盗掘されたりで減少したことから、採集圧も大きな要因と考えられる。

- 272 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609211500 ツマキトラカミキリ <i>Xylotrechus (Xylotrechus) clarinus</i> Bates, 1884	カテゴリ		
	山口県	2018	EX
		2002	VU
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長9～14mm。体は黒色で触角・脚は赤褐色。上翅は黒色に黄色帯の班紋を備える。ニイジマトラカミキリ *Xylotrechus emaciatus* に似るが前胸背板に黄色帯がないことで区別できる。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

成虫は6～8月にブナ帯の山地でカンポ類やハンノキ類の比較的に新しい倒木に集まる。

選定理由

県内では1967年に岩国市の山間部で4個体の記録があるのみで、その後の記録がないので絶滅したものと思われる。

減少等の要因

1967年に寂地山系一帯で大規模な伐採が行なわれていたようで、その時に一時的に発生したようだ。

- 273 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609214000 モンクロベニカミキリ <i>Purpuricenus (Sternoplistes) lituratus</i> Ganglbauer, 1887	カテゴリ		
	山口県	2018	EX
		2002	EN
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長17～23mm。前胸背板には通常5つの黒色紋があり、上翅は赤橙色で中央から後方にかけて中折れ帽子状の大きな黒紋があり、肩付近にも一対の黒紋があるがその大きさは変異が多い。♂の触角は体長の1.5～2倍あり、♀では体長とほぼ同じである。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

クヌギやコナラ林を伐採した後の明るく開けた山の斜面などに発生し、成虫はクヌギやコナラの切り株から芽吹いたひこぼえの葉を後食する。クヌギの切り株より幼虫が見つかっている。

選定理由

県内では山口市小郡と阿東で記録があるが、1976年以降の記録がなく絶滅したものと思われる。新しい伐採地を求めて移動する習性と、成虫の出現期が短い再発見できない可能性もある。

減少等の要因

山林の放置のため、雑木林の伐採が定期的に行なわれなくなったことが考えられる。

- 274 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609220700 ヒゲナガカミキリ <i>Monochamus (Monochamus) grandis</i> Waterhouse, 1881	カテゴリ		
	山口県	2018	EX
		2002	DD
	環境省	2019	-

形態・生態

体長26～45mmの大型のカミキリムシ。前胸は側突起が大きく、突起の内側に黄色の縦紋がある。上翅は♂では後方に強く、♀ではゆるやかに細まり、全体が短い微毛で密に覆われて光沢があり、無紋のものから白紋を現すものまで変異がある。触角は♂で体長の2倍以上、♀は1.5倍を超えない。♂の脚は♀よりも長く、前脚跗節の側部から長い毛が密生する。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

成虫は、夏期に新しいモミの倒木に集まる。夜行性で灯火にも飛来する。

選定理由

県内では1954年に山口市徳地での記録があるのみで、それ以後の記録がないために絶滅したものと思われる。

減少等の要因

山林の放置のため、モミの倒木がなくなったことが要因だと考えられる。

- 275 -

コウチュウ目 ハムシ科 0801609504500 オオルリハムシ <i>Chrysolina (Erythrochrysa) virgata</i> (Motschulsky, 1860)	カテゴリ		
	山口県	2018	EX
		2002	EN
	環境省	2019	NT

形態・生態

体長11～15mmの大型のハムシ。オオルリの名前があるが青藍色しているのは上越・東北地方の日本海側だけで、山口県を含む他の地域では赤褐色に会合部と側縁だけが緑色で、金属光沢がある。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

湿地性草原に生息するシロネやヒメシロネを幼虫も成虫も食するため、生息範囲もシロネなどが自生する池の周囲などに限られる。県内では5月～9月まで成虫が見られた。

選定理由

県内では阿武町のため池と萩市の2ヶ所で2012年まで確認できたが、その後確認できないため絶滅したものと考えられる。

減少等の要因

1999年に阿武町と萩市で再発見されたときに、池の改修工事などで個体群を維持するには厳しい状況であった。その後生息地内の草刈で食草が刈られたり採集圧が加わったことが要因だと考えられる。

- 276 -

ハエ目 アブ科 0802302001600 シロスネアブ <i>Tabanus miyajima</i> Ricardo, 1911	カテゴリ	
	山口県	2018 EX
		2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：柿沼 進】

体長17～18mm内外の中型のアブ。全身灰色を帯びた黒色で、脛節の基半分が白色、腹部第4、5節背板後縁の白色帯の幅が中央で狭くなる。♀は吸血性と考えられている。



提供：柿沼 進

生息・生育状況

詳しい生態は不明。山口県では1962年に宇部市の丘陵で1個体採集されたのみ。

選定理由

全国的に記録が少なく、特に近年の記録が少ない。山口県では1962年に1個体採集されたのみで、以後記録がなく、目撃情報もないことから、絶滅したと判断した。

減少等の要因

吸血性のアブ類は駆除の対象となっており、農薬の散布などの影響を受けた可能性がある。また都市に近い丘陵地で、大型哺乳動物が飼育される機会が減少したことも関係しているかもしれない。

- 277 -

ハエ目 ツリアブ科 0802302300300 トラツリアブ <i>Anastoechus nitidulus nitidulus</i> (Fabricius, 1794)	カテゴリ	
	山口県	2018 EX
		2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：柿沼 進】

体長8～14mmで比較的大型の丸みを帯びたツリアブ。頭部・胸部・腹部とも黄褐色を帯びた銀白色の長毛が密生し、ぬいぐるみのように見える。翅はほぼ透明で、前縁がわずかに黄褐色を帯びるが鮮明な斑紋にはならない。丸い体形の大型のツリアブとしては本邦で唯一、成虫が秋季に出現する。



提供：柿沼 進

生息・生育状況

詳しい生態は分かっていない。山口県では開けた丘陵地帯で10月に採集されている。ホバリングしながら花から吸蜜する。幼虫は寄生性と考えられているが、宿主ははまだ不明である。

選定理由

山口県では1960年代を最後に記録が途絶えている。類似の種はなく、活動時期も特徴的であり、生息していれば発見は容易と思われることから、絶滅したと判断した。

減少等の要因

生態がよくわかっておらず、減少した理由も不明である。

- 278 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600401500

ミドリシジミ

Neozephyrus japonicus (Murray, 1875)

カテゴリ

山口県	2018	EX
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

中型のシジミチョウで、♂♀の斑紋は翅裏面ではほぼ同じであるが、翅表では、♂は緑色の金属光沢を呈し、♀は暗褐色で、無紋型・橙色紋型・青色紋型あるいは橙色と青色紋をともに現すものなど多型がある。年1回、6月中旬～7月に出現する。♂は16時頃～18時頃にかけて活発に樹上を飛ぶ。強い占有性があり、定まった葉上に縄張りを持つ。他の個体が近づくとこれを激しく追飛して追い払い、元の位置に戻るとまた翅を広げて占有行動を続ける。交尾は夕方の活動時間内に行われる。越冬態は卵。食樹はカバノキ科のヤマハンノキ、ハンノキなど。

生息・生育状況

平地や低山地のハンノキ群落、山地ではヤマハンノキやミヤマハンノキの自生する林に生息する。北海道・本州・四国・九州に分布し、西南日本では深山の温帯林に生息している。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫

選定理由

山口県では、1956年に岩国市錦町の県境部で採集されたものが初記録である。しかし、本県唯一の生息地であった当地のハンノキはその後皆伐採されたため、絶滅したと判断される。

減少等の要因

食樹であるハンノキの伐採による消失。

- 279 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600502100

ヒョウモンモドキ

Melitaea scotosia Butler, 1878

カテゴリ

山口県	2018	EX
	2002	-
環境省	2019	CR

形態・生態

中型のタテハチョウで、翅裏の斑紋は♂♀で差はないものの、♂の翅表は明るい橙色をし、♀は地色こそ淡いが黒斑が強いことから全体に黒っぽく見える。中国山地に生息する個体群は、関東・中部地方のものよりやや大きい。年1回、6月中旬～7月中旬に現れる。飛翔は比較的ゆるやかで発生地周辺から遠くへ移動することはほとんどない。高温時、上の水たまりや湧水地に集まって吸水することがある。一般に4齢幼虫で越冬する。食草は、マアザミ、ノアザミなどのキク科植物。

生息・生育状況

低山地や山地の湿生草原を生息地としている。本州特産種で、中国地方では兵庫・岡山・広島中国山地やそれに続く低山地帯に限られた地域に生息する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫

選定理由

山口県では、1956年6月に岩国市錦町で確認されたが、これが県内唯一の記録である。当時の発生湿原は開墾により完全に消滅し、以降生息が確認されておらず、絶滅したものと判断した。

減少等の要因

植林のほか湿地開発や農・林道建設など人為的な原因による生息地の消滅。現在、国内でも保全対策に取り組むべき絶滅危惧種を代表する種となっている。

- 280 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600504000

ヒメヒカゲ

Coenonympha oedippus (Fabricius, 1787)

カテゴリ

山口県	2018	EX
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

小型のジャノメチョウで、翅表は暗褐色をしているが♀はやや淡く、裏面の斑紋が多少透けて見える。前翅亜外縁の眼状紋は明瞭で、普通♀は3、4個、♂では1、2個あり、ときにこの紋を有しない個体もいる。年1回、暖地の低山域では6月上旬から羽化し、高地帯では1ヶ月近く遅れる。発生地は草むらの上を低くふわふわとゆるやかに飛び、発生地を遠く離れることはない。陽がかげると活動性が著しく低下し、草むらでじっとしている。食草は、カヤツリグサ科、イネ科の植物で、幼虫で越冬する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫

生息・生育状況

明るい草原を好み、湿地草原が主な生息地となっているが、対極的ともいえる山の中腹などに広がる乾性草原にも生息している。中国山脈の山間地帯の草原に産地があるが極めて局地的である。

選定理由

岩国市錦町の県境部の高標高地に生息していたが、1992年7月に採集されたものが最後の記録となった。その後の調査でも再発見できず、絶滅したものと判断した。

減少等の要因

草原の開発や植生遷移による生息環境の悪化に伴い採集圧も加わり消失した。

- 281 -

トンボ目 イトトンボ科
0800300400800

モートンイトトンボ

Mortonagrion selenion (Ris, 1916)

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	-
環境省	2019	NT

形態・生態

腹長♂18~25mm、♀18~24mm。後翅長♂11~16mm、♀12~17mm。成熟♂は黄緑色の胸部と腹部の鮮やかなオレンジ色が目立つ。♀は未熟なうちは全身が橙黄色で、成熟するにしたがい黄緑色へ変化する。

【執筆者：伴 一利】



提供：伴 一利(2016.6.17撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地にかけての、背丈の低い抽水植物の茂る湿地や休耕地などに生息する。5月中旬頃~9月中旬頃まで見られる。

選定理由

防府市及び山口市の古い記録以降2015年まで発見されていなかった。その後の調査から新たに周南市から数ヶ所見つかっているにすぎない。

減少等の要因

生息地の埋め立てや環境の変化が考えられる。

- 282 -

トンボ目 イトトンボ科 0800300400900 ヒヌマイトトンボ <i>Mortonagrion Hirosei</i> Asahina, 1972	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	EN

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂22～25mm、♀22～24mm。後翅長♂13～14mm、♀13～15mm。♂には胸部全面に黄緑色の斑紋が4つある。♀は未熟なうちは橙色で、成熟するにしたがい褐色に変化するが、♂と同じ体色の♀も見られる。



提供：伴 一利(2017.7.9撮影)

生息・生育状況

河口部の汽水域や、干拓地の潮回しのヨシの密生する場所に生息する。現在、宇部市竹の小島では道路建設に伴い、代替え地が設けられ定着させることができたが、年による個体数の増減が激しく、楽観視できない状況である。5月中旬頃～8月中旬頃まで見られる。

選定理由

河口部の汽水域では、水質汚染や開発により環境が変化して減少。また、干拓地の潮回しのような堤防に囲まれた閉鎖環境も、開発や水質汚染によって環境が変化して減少している。

減少等の要因

開発や水質汚染など、環境の変化。

トンボ目 トンボ科 0800301203300 ベッコウトンボ <i>Libellula angelina</i> Selys, 1883	カテゴリ		
	山口県	2018	CR
		2002	CR
	環境省	2019	CR

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂26～28mm、♀23～27mm。後翅長♂32～35mm、♀30～33mm。♂♀ともにずんぐりした体形で、翅の基部、結節、縁紋部に黒褐色の斑紋がある。



提供：伴 一利(2018.5.9撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地にかけてのヨシやガマなど、背丈の高い植物が繁茂する池沼に生息する。4月上旬～6月下旬頃に見られる。

選定理由

生息地の溜池が、放置されたことでヨシやガマが密集しすぎて姿を消した。現在、山口県で確実に確認できるのは山口市のみである。

減少等の要因

自然遷移の過程の中で、限定された環境を好む種の持つ特性がある。

コウチュウ目 オサムシ科 0801600401200 ヨドシロヘリハンミョウ <i>Callytron inspeculare inspeculare</i> (W.Horn, 1904)	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 CR
	環境省	2019 VU

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長9～12mmの中型のハンミョウ。上翅の側縁および翅端に白帯があり、シロヘリハンミョウ *Callytron yuasai* に似ているが、白帯がやや太く中断することはない。♀は上翅の中央上部に鏡紋があるが不鮮明で光沢がなく、体下面は赤銅色である。



提供：後藤 和夫(2017.7.17撮影)

生息・生育状況

干潟が出現する河川で、河口付近に塩生植物が生える水辺に生息。河床地盤は比較的締まった砂分の多い粘性土で、足を踏み入れてもそれほどめり込まない土質が必要である。成虫は6月下旬～8月上旬まで見られ、幼虫は土中に穴を掘って巣をつくる。巣は満潮時に冠水するが幼虫は溺死しない。

選定理由

国内では本州と四国・九州の瀬戸内海沿岸で、本州において確実に見られるのは山口県だけである。県内のどの産地でも個体数は少ない。

減少等の要因

生息地は県中央部の瀬戸内海に面した河口部であり、河川工事の対象となりやすい場所であり、ゴミの堆積から土壌がヘドロ化するなど環境の変化を受けやすい場所である。

- 285 -

コウチュウ目 オサムシ科 0801600401300 シロヘリハンミョウ <i>Callytron yuasai yuasai</i> Nakane, 1955	カテゴリ	
	山口県	2018 CR
		2002 -
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長9～12mmの中型のハンミョウ。上翅の側縁および翅端に白帯があり、ヨドシロヘリハンミョウ *Callytron inspeculare* に似ているが、白帯が細く網目印刻を持ち、♀の鏡紋は鮮明で光沢があり、体下面は緑銅色である。



提供：柿沼 進(2007.7.2撮影)

生息・生育状況

瀬戸内海側の海岸の入り江など、波が荒くない花崗岩など風化しやすい岩礁地帯に生息している。成虫は6月下旬～8月上旬まで見られる。幼虫は、風化が進んだ海岸の岩石の亀裂に、粘土質の風化生成物がたまるところに穴を掘って巣をつくる。巣は満潮時に冠水するが幼虫は溺死しない。

選定理由

本州・四国・九州と種子島・屋久島から南西諸島にかけて分布するが、県内では瀬戸内海沿岸の2ヶ所で確認されているだけである。

減少等の要因

海岸の入り江の多くは、漁港などに利用されて堤防や護岸工事による人工海岸化が進んでいる。生息地となるような自然状態の保たれた花崗岩など風化しやすい岩種が残っている海岸は限られる。

- 286 -

ハエ目 ニクバエ科
0802304901200

カキヌマホソニクバエ

Goniophyto kakinumai Kurahashi, 2010

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：柿沼 進】

体長6～9mm内外の小型のニクバエ。体形が細長く、顔が触角基部を頂点に前方にやや突出する。わずかに黄色を帯びた灰白色で、脚は全体に黒い。よく似た種が複数存在し、♂の交尾器を確認しないと判別できない。



提供：柿沼 進

生息・生育状況

宇部市の河川の河口を模式産地として記載された種である。河口汽水域で、塩生植物がまばらに生える砂泥地に生息する。模式産地以外では知られていない。

選定理由

原記載以後は発見できず、近年の再調査でも採集されていない。河口の湿地は人為的改変を受けやすく、全国的にも良好な状態に保たれている場所は減少している。

減少等の要因

模式産地は年々陸地化が進み、チガヤやススキに覆われ、環境が大きく変化している。また上流からの土砂の流入が減少しているのか、面積が年々縮小しており、近い将来消滅する可能性もある。

- 287 -

チョウ目(チョウ) セセリチョウ科
0802600100100

キバナセセリ

Burara aquilina (Speyer, 1879)

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	VU
環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：稲田 博夫】

大型のセセリチョウで、翅表裏面の地色は黄褐色である。年1回、7月中旬頃～8月上旬に出現するが、♀は9月頃まで見られる。飛翔は極めて敏速で、同じ空間を巡回飛翔する習性を持つ。♂は腐った果実・動物の死骸・獣糞などに飛来するが、♀はウツギ、オカトラノオなどの花で吸蜜する。♂は湿地に集まり吸水することもある。越冬態は2齢幼虫で、食樹のハリギリなどの根元付近表皮下のコルク質部にもぐり込み、まゆを作って越冬する。



提供：稲田 博夫(2016.7.11撮影)

生息・生育状況

県内では岩国市錦町のハリギリが自生する山間部に生息し、高原や溪流沿いのやや明るい環境などに見られる。

選定理由

発見当初から個体数は多くなかったが、近年は更に成虫を見かける機会は少なくなっており、稀少性はさらに高まっている。

減少等の要因

食樹であるハリギリの伐採などによる減少。

- 288 -

チョウ目(チョウ) セセリチョウ科
0802600100800

ホシチャバネセセリ

Aeromachus inachus (Ménétriès, 1858)

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	EN

形態・生態

【執筆者：稲田 博夫】

最も小型のセセリチョウで、色彩や斑紋は♂♀でほとんど差異はない。前翅に7、8個の白斑が並んでいる。♂には小さな性標があって前翅端が尖るが、♀の前翅はやや丸く中室の白点が明瞭である。中国地方などの暖地では、年2回、第1化は5月～6月、第2化は7月～8月に出現する。飛び方は敏速で素早く見失いやすい。好んで花に集まりアザミ類、ヒメジョオン、オカトラノオなどで吸蜜する。3齢幼虫で越冬する。食草はイネ科のオオアブラソウ。



提供：稲田 博夫(2012.7.25撮影)

生息・生育状況

イネ科植物が多く自生する明るい乾性草原に生息し、疎林周辺でも食草があれば発生することがある。関東から中部地方には比較的多く産地があるが、いずれも局地的であり、中国地方ではさらに限局的となる。

選定理由

山口県では1960～1970年代に萩市・山口市・周南市・岩国市で生息が確認されたが、1980年代半ば頃から生息地が減少し、現在、岩国市の生息地も壊滅状態にある。

減少等の要因

開墾など人為的な生息環境の改変や、過疎化に伴い里地里山の維持管理ができず、植生遷移により生息環境の喪失による。

- 289 -

チョウ目(チョウ) セセリチョウ科
0802600101200

ヘリグロチャバネセセリ

Thymelicus sylvaticus (Bremer, 1861)

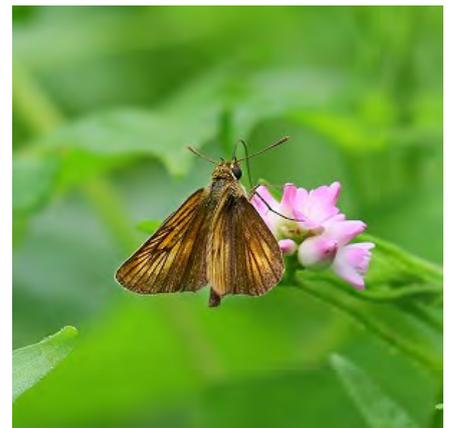
カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	EN
環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：稲田 博夫】

小型のセセリチョウで、翅表裏の地色は暗赤褐色をしている。近似種にスジグロチャバネセセリがいるが、本種はより地色が暗く、前翅表外縁の黒帯が不鮮明である点などで区別できる。年1回、6月中旬から7月にかけて出現する。敏速に飛翔し、カセンソウ、オカトラノオ、ヒメジョオンなどの花に吸蜜に訪れたり地上で吸水したりする。越冬態は初齢幼虫。食草はイネ科のヤマカモジグサ、クサヨシなど。



提供：稲田 博夫(2018.6.27撮影)

生息・生育状況

樹木と草原が入り交った環境に生息する。山口県では、中国山地を中心とした内陸部に生息地が知られるが、2008年に山陰側沿岸部で新たな生息地が見つかったことは分布上特筆される。

選定理由

1990年代に入り生息地が急激に減少し、局地的になってきた。山陰側沿岸部で新たな生息地も見つかっているが、とくに県境部一帯の衰退は著しく壊滅的な状況である。

減少等の要因

観光開発、土地開発などによる草原の荒廃、山間部の疎林や林縁にある草地の減少、およびそれに伴う植生遷移による生息環境の悪化。

- 290 -

チョウ目(チョウ) セセリチョウ科
0802600101300

コキマダラセセリ

Ochlodes venatus (Bremer et Grey, 1852)

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

形態・生態

小型のセセリチョウで、♂の翅表は赤橙色で前翅中室に黒い性標が走る。裏面は黄橙色で翅脈が濃く浮き上がって見える。♀の翅表は暗褐色で全面に弧状の橙黄紋が散る。年1回の発生で、6月中旬～下旬に出現し7月上旬が最盛期となる。ススキから卵や幼虫が確認されることが多い。飛翔は敏捷で、とくにノアザミ、ウツボグサ、ノハナシヨウブなどに好んで吸蜜に訪れる。越冬態は幼虫。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2013.6.30撮影)

生息・生育状況

食草であるススキやチマキザサなどイネ科の草本が自生する山間の明るい草原に生息する。山口県では岩国市の山間の高標高地帯で生息が確認されており、本種の西限の生息地にもなっている。

選定理由

錦町の生息地は、1970年頃の農地改良により消失。県境部の生息地は、落葉樹伐採後に植林されたスギの生育により草原環境が消滅し高標高の産地でも草原の放棄により生息確認が困難となっている。

減少等の要因

落葉樹伐採後に植林されたスギの生育とともに草原環境が消滅。

- 291 -

チョウ目(チョウ) アゲハチョウ科
0802600200100

ギフチョウ

Luehdorfia japonica Leech, 1889

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	VU
環境省	2019	VU

形態・生態

黒と黄色の縞模様が特徴で、後翅に赤や青やオレンジ色の紋を持つ美麗種であり、「春の女神」と呼ばれる。年1回、桜の開花とほぼ一致して3月下旬頃から出現し、サクラ・スミレなどで吸蜜する。気温の低いときは陽だまりに翅を広げて止まり日光浴をする。気温が上がると活発に飛び回る。山口県では北部山陰側と東部山陽側に生息地が点在しており、食草は、山陰側ではタイリンカンアオイ、山陽側ではサンヨウカンアオイである。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2018.4.12撮影)

生息・生育状況

食草であるカンアオイ属の自生する落葉広葉樹林の生育する周辺に生息し、明るい環境を好む。生息地は、比較的人里近いところにあり、人の手が及びやすい。日本特産種で、本州のみに分布し、山口県は西限である。

選定理由

1980年代から、多くの産地が消滅し、個体数も激減した。特に山陰側で顕著である。山陽側でも近年減少が加速され、ほとんどの産地は失われた。

減少等の要因

植生遷移の進行や土地開発などによる生息環境の消失。人気種のため採集圧に加え、採卵と食草の採取も減少の一因である。保全活動が実施され、採集自粛にも関わらず採集者は後を絶たない。

- 292 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600401200

カシワアカシジミ

Japonica onoi Murayama, 1953

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

形態・生態

大型のシジミチョウで、翅は表裏とも赤橙色、裏面はやや暗褐色を帯びる。アカシジミに酷似しているが、アカシジミの地色は赤みが強いのに対し、褐色味が強く後翅の白条に銀光沢がない。年1回、6月中旬から下旬に出現する。日中は葉上に静止しているが、活動時間はアカシジミより2時間程度早く、14時半頃から17時頃にかけて高木の梢近くを活発に飛び交う。食樹はブナ科のカシワ。卵で越冬する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2013.6.23撮影)

生息・生育状況

カシワを主体とした落葉広葉樹林に生息する。カシワの自生地は中国地方に点在するが、冠高原一帯にのみ隔絶的といえる特異な分布を見せている。山口県では冠高原と接する県境部に生息しており、当地の個体群は冠高原亜種とされている。

選定理由

広島県との県境部冠高原に局地的に生息するが、山口県側では、植林されたスギやヒノキが大きくなり生息環境は悪化の一途で、徐々に発生地が狭められてきている。

減少等の要因

冠高原全体で行われた開発に伴う高原の荒廃と衰退。山口県側では特に広範囲にわたって食樹のカシワが消失している。

- 293 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600403000

カラスシジミ

Fixsenia w-album (Knoch, 1782)

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	DD
環境省	2019	-

形態・生態

小型のシジミチョウで、色彩や斑紋に性差はほとんどないが、♀の翅形はやや丸みを帯び、尾状突起は♀の方がいくぶん長い。♂の前翅中央には楕円形の性標がある。年1回、西南日本では5月中旬～6月中旬に発生する。午前中はゆるやかに飛翔し、日当たりのよい樹林周辺や樹間に咲いた花に集まる。クリ、ヒメジョオン、シシウドのような白い花を好む。晴天の日の15時頃から♂は樹冠部で占有行動をとる。卵で越冬する。

【執筆者：五味 清】



提供：後藤 和夫(2018.6.4撮影)

生息・生育状況

中国地方では隠岐を含め一帯に生息地はあるものの、極めて局地的で個体数も少ない。山口県では山口市阿東に生息地が知られる。

選定理由

1990年代に入り減少が顕著で、現在かろうじて発生が続いている状況にある。

減少等の要因

食樹を伐採した跡地は工場が建設されて以降再発見はない。残りの一ヶ所も伐採の影響は大きく、なんとか生息している状況にある。

- 294 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600403300

クロシジミ

Niphanda fusca (Bremer et Grey, 1852)

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	EN
環境省	2019	EN

形態・生態

中型のシジミチョウで、翅形には若干の性差があり、♂の翅はやや尖っているが、♀は幅広く丸みが強い。♂の翅表は暗紫色に光り、♀は青みがかった白斑がある。年1回、6月～8月に出現する。♂は樹上を活発に飛び回るが、♀は樹の葉上に静止していることが多く、飛翔もやや緩慢である。若齢幼虫はアブラムシの分泌液で育ち、2、3齢になるとアブラムシを訪れるクロオオアリに運ばれ、地中でアリに育てられる。三種の昆虫類が依存し合うという複雑な共生関係にある特異種である。

【執筆者：五味 清】



提供：後藤 和夫(2016.7.6撮影)

生息・生育状況

主にクヌギ・アベマキ・コナラなどの林地周辺の疎林に生息する。山口県では9市町村から見つかっていたが、現在の確かな生息地は下松市・美祢市に残存するのみである。

選定理由

1980年代から生息地が失われ、既存の地域でも斬滅し壊滅状態になりつつある。

減少等の要因

伐採・野焼き・草原の放置などによるクロオオアリの生息環境が消失。

- 295 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600404300

ヒメシジミ

Plebejus argus (Linnaeus, 1758)

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	-

形態・生態

小型のシジミチョウで、♂の翅表は青藍色をしているが♀の翅表は暗褐色。裏面の斑紋は、♂が青みを帯びた灰白色であるのに対し、♀では暗褐色を帯びる。年1回、6月中旬頃から出現し6月下旬～7月上旬が最盛期である。吸蜜植物は多種にわたる。飛翔はゆるやかで、草むらを低く飛び交う。越冬態は卵である。食草はキク科・マメ科・バラ科など広範囲にわたるため湿性草原のほか休耕田周辺・荒地・高山の岩場など生息環境も変化に富む。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2007.7.8撮影)

生息・生育状況

湿性草原に生息する種で、明るい山地の草原や溪流沿いの河原に多い。山口県では岩国市錦町に産地が知られていたが、現在では残されていた産地も生息環境の悪化とともに激減している。

選定理由

山口県で確認されている生息地は極限されており、近年、そこでもその姿はほとんど見られなくなっている。

減少等の要因

県内唯一の生息地である岩国市の湿性草原は、公園事業などにより、地下水脈が絶たれて徐々に乾燥化し、生息環境は壊滅状態にある。またマニアによる採集圧もあった。

- 296 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600501200

オオウラギンヒョウモン

Fabriciana nerippe (C. Felder et R. Felder, 1862)

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	CR
環境省	2019	CR

形態・生態

ヒョウモン類では平均的な大きさで、翅表斑紋に性差はないが、♀はより大型で翅形は幅広い。♀の裏面は♂に比べ地色は濃く、銀白紋はより大きく鮮明である。♀は日本産ヒョウモンチョウ類のうちで最大、後翅外縁に沿う斑紋がハート型をしており、近縁他種との明瞭な識別点となる。年1回の発生で、6月下旬頃出現し、7月下旬頃までには配偶活動を終える。夏場♂は徐々に消滅してゆくが、♀は2ヶ月間ほど「夏眠」に入る。9月中旬頃に目覚め、草丈が低く食草のスミレが豊富な場所を選んで産卵を行い、10月下旬頃には姿を消す。

生息・生育状況

平地や低山地の河原や草地に広く生息していたが、現在では火入れや草刈が行われる牧草地や維持管理がなされる草原地帯に細々と残存するのみである。現在では九州を除きほとんどが絶滅し、本州では秋吉台に限り生息する状況となっている。

【執筆者：五味 清】



提供：後藤 和夫(2016.7.6撮影)

選定理由

山口県で現在唯一の確実な生息地である秋吉台においては、特別天然記念物秋吉台管理規則により1988年以降採集禁止となっているにもかかわらず、生息数の減少傾向が顕著となっている。

減少等の要因

高度成長に伴う開発と、草原の衰退、および過去の採集圧。

- 297 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600504700

クロヒカゲモドキ

Lethe marginalis (Motschulsky, [1861])

カテゴリ

山口県	2018	CR
	2002	EN
環境省	2019	EN

形態・生態

中型のジャノメチョウで、翅表裏面の地色は茶褐色である。クロヒカゲやヒカゲチョウによく似ているが、翅形は丸みが強く、とくにクロヒカゲに比べると全体に色調が明るく、♀の翅形は幅が広く丸みが強い。年1回の発生で、6月下旬に羽化し9月には姿を消す。日中は不活発で、夕方最も活発に活動する。樹液によく集まり、動物の死骸や獣糞にも集まるが訪花性はない。3齢または4齢幼虫で越冬する。

生息・生育状況

下草にイネ科の植物が茂ったクヌギなどの樹液の出る雑木林に生息し、林間の空隙部や林縁部に見られる。幼虫の餌となるススキなどイネ科植物の草むらが発生地で、山口県では岩国市と周南市で局所的に確認できているのみで、ほとんどの既知産地が消滅している。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2018.7.12撮影)

選定理由

1980年代後半から減少が始まり、現在、いずれの既知産地でも確認できない状況にある。

減少等の要因

生息環境が伐採や植生遷移によって失われた。

- 298 -

トンボ目 アオイトトンボ科 0800300100500 コバネアオイトトンボ <i>Lestes japonicus</i> Selys, 1883	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 EN

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂30～35mm、♀29～33mm。後翅長♂20～22mm、♀21～23mm。♂♀ともに成熟しても胸部に白粉をおびない。



提供：管 哲郎(2011.10.7撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地にかけての、クログワイやガンガレイ、ガマなどの抽水植物の繁茂する池沼や湿地に生息する。アオイトトンボと混生していることが多い。6月中旬～11月中旬頃まで見られる。

選定理由

水田などの減少に伴い、ため池の埋め立てや管理が放棄され、生息地が減少している。

減少等の要因

生息地の埋め立てや環境の変化。

トンボ目 イトトンボ科 0800300400500 オオイトトンボ <i>Paracercion sieboldii</i> (Selys, 1876)	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂21～29mm、♀24～32mm。後翅長♂15～20mm、♀17～24mm。♂は淡い青色。♀は黄緑色の地色に、黒色の筋模様があり、稀に♂と同じような青色になる個体も出現する。



提供：管 哲郎(2014.5.19撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地の抽水植物が繁茂する、池沼や湿地、ゆるやかな流れなどに生息する。5月中旬頃～10月上旬頃まで出現する。

選定理由

開放水面を好むため、放置され植生が増えて水面が少なくなるにより減少している。

減少等の要因

開発による埋め立てや環境の変化。

トンボ目 サナエトンボ科 0800300701200 オグマサナエ <i>Trigomphus ogunai</i> Asahina, 1949	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 NT
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂31～37mm、♀33～36mm。後翅長♂23～28mm、♀27～29mm。同属他種と斑紋などよく似ているが、付属器や産卵弁の形状で、区別できる。



提供：管 哲郎(2014.4.15撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地の開放的なため池に生息する。3月下旬～5月中旬に見られる。

選定理由

埋め立てや改修工事により減少。

減少等の要因

埋め立てや改修工事による生息地の変化。

トンボ目 サナエトンボ科 0800300701300 コサナエ <i>Trigomphus melampus</i> (Selys, 1869)	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂♀ともに27～30mm。後翅長♂22～24mm、♀25～26mm。同属他種とよく似ているが、より小型であることと、付属器や産卵弁の形状で区別できる。



提供：伴 一利(2015.6.7撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地にかけての抽水植物の繁茂する溜池に生息し、植生の豊かな場所を好む。山口県では寒冷地の、山口市阿東と萩市吉部周辺に限られる。4月下旬頃～7月中旬に見られる。

選定理由

生息地が限られている。また、寒冷地を好むため、温暖化の影響が懸念される。

減少等の要因

埋め立てや生息地の変化。

トンボ目 ヤマトンボ科 0800301100200 キイロヤマトンボ <i>Macromia daimoji</i> Okumura, 1949	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂51～54mm、♀55～57mm。後翅長♂45～47mm、♀48～52mm。コヤマトンボに似ているが、♂♀ともに腹部第3節の側面の黄斑が斜めに途切れることで識別できる。



提供：管 哲郎(2002.7.6撮影)

生息・生育状況

川底が砂質の比較的大きな河川に生息している。5月中旬～7月中旬に見られる。

選定理由

川底が砂質の大きな河川を好むため、県内では生息地が限られる。生息する個体数も少なく、環境の変化にも弱い。

減少等の要因

豪雨による増水のため、川底の環境の変化。

- 303 -

コウチュウ目 オサムシ科 0801600402500 セアカオサムシ <i>Carabus (Hemicarabus) tuberculatus</i> Dejean, 1829	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 EN
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長16～22mm。前胸背板は赤銅色で緑色光沢がある。上翅は側縁部が光沢のある赤銅色で、内側は緑色を帯びる。各間室にコブ状隆起が並ぶ。



提供：川元 裕(2015.9.7撮影)

生息・生育状況

山地の放牧場やその周辺の草原などに生息している。成虫は4月下旬～8月に見られる。

選定理由

県内では美祢市秋吉台など限られた場所に記録があるだけである。

減少等の要因

放牧場の減少と植生遷移などの環境悪化。

- 304 -

コウチュウ目 コガネムシ科 0801602103200 ツノコガネ <i>Liatongus minutus</i> (Motschulsky, 1860)	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 EN
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長7～13mm。体色は光沢のない暗褐色で、上翅は平圧され条溝は浅い。♂は頭部に小盾板まで届く角を備えており、前胸背板は中央は広くくぼむ。♀は前胸背板が逆U字状に隆起している。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

放牧場に多く、林内の獣糞にも集まる。成虫は6月～10月まで見られる。

選定理由

岩国市の中国山地沿い、美祢市秋吉台で見られましたが、1990年以降は記録が途絶えた。2009年に岩国市の山間部で再発見され、林内の獣糞で生息することが確認されたが数は激減している。

減少等の要因

放牧場の減少と植生遷移などの環境悪化。

- 305 -

コウチュウ目 ホタル科 0801604000300 スジグロボタル西日本亜種(キンキスジグロボタル) <i>Pristolytus sagulatus adachii</i> M.Satô, 1986	カテゴリ	
	山口県	2018 EN
		2002 DD
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長7～9mm。上翅は赤褐色で会合部と側縁は黒色。3隆起があり、第1条は先端から1/3近くで消失する。腹部腹板の第7節後縁は両側が湾入し、中央が長三角状に突出する。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

山地の湿地周辺の林縁に生息し、成虫は5月～6月に発生する。

選定理由

県内では岩国市の中国山地でのみ記録がある。

減少等の要因

生息地でのブナ林の減少により、林内の乾燥化が進み、湿地が減少したことが要因だと思われる。

- 306 -

コウチュウ目 オオキノコムシ科 0801605501900 オオキノコムシ <i>Encaustes cruenta praenobilis</i> Lewis, 1883	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 CR
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長16～36mmで大型のオオキノコムシ。体色は光沢のある黒色で、前胸背板と上翅肩部と翅端に橙色の班紋がある。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

ブナ林の倒木に生えるサルノコシカケ科などのキノコに集まる。

選定理由

ブナ林の少ない本県では分布が局地的であり、生息個体数も極めて少ない。

減少等の要因

生息地でのブナ林の減少と登山者の安全のために立ち枯れや倒木が整理されて、放置されることが少なくなったために、生息環境が減少したものと考えられる。

- 307 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609209000 ヨツボシカミキリ <i>Stenygrium quadrinotatum</i> Bates, 1873	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 -
	環境省	2019 EN

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長8～14mm。赤褐色で光沢があり、上翅中央部に2対の黄白紋があるがその大きさには個体変異がある。触角は♂では上翅端を越すが、♀はほぼ同長である。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

成虫は5月～7月に市街地の灯火で見つかるが、生態の詳細は不明である。

選定理由

県内では市街地の外灯で数例の記録があるのみで、山陰側では見つかっていない。北海道・本州・四国・九州と屋久島・徳之島・奄美大島に分布するが、全国的に減少している種である。

減少等の要因

生態が不明のため、減少の要因は分からない。

- 308 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609213100 ルリボシカミキリ <i>Rosalia (Rosalia) batesi</i> Harold, 1877	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長16～30mm。背面はピロード上の微毛におおわれていてツヤがない。体色は空色の地に黒紋が散るが、黒紋は個体変化が多い。触角の2～4節の端に黒色のモール状の毛束が連なる。♂は触角が長く体長を越えるが♀ではほぼ同長である。



提供：福田 竹美(2017.7.13撮影)

生息・生育状況

成虫は7～9月にかけて現れ、ブナ帯およびその周辺部の、倒木や立ち枯れ木などで見られる。最近になって、ナラ枯れ被害地や低標高地での採集や目撃が報告された。

選定理由

県内では高標高地に点在するブナ原生林などで記録されていたが、1996年以降記録が途絶えていた。2009年頃より低標高地での採集や目撃の報告がされたため、今後を注視したい種である。

減少等の要因

ブナ林の減少が要因の一つだと考えられる。

ハエ目 ツルギアブ科 0802302400100 ハマツルギアブ <i>Acrosathe obsoleta</i> Lyneborg, 1986	カテゴリ		
	山口県	2018	EN
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：柿沼 進】

体長は♂8～9mm内外、♀10～11mm内外で細長い体形のアブ。♂♀で体色が異なり、♂は全体に銀白色の軟毛におおわれる。♀は胸部に淡い縦すじがあり、腹部には黒色の帯があるが、同様の環境で採集されるヨシコツルギアブに酷似し、野外での識別は困難。海浜性で、丈の低い草本がまばらに生える砂地に生息する。幼虫は同所の砂の中で生活していると考えられる。



提供：柿沼 進

生息・生育状況

山口県では唯一、2008年に豊北町の離島の海浜で複数採集されたが以後記録がない。繰り返しの再調査でも採集されなかった。

選定理由

生息地が限局的で、全国的に記録が少ない。山口県では2008年に採集されただけで、その生息地も再調査では採集されておらず、絶滅に近い状況と思われる。

減少等の要因

もともと生息地が限局的で、少しの環境改変でも大きな影響を受ける可能性がある。

ハエ目 ムシヒキアブ科

0802302501800

モモボソヒラズムシヒキ

Stichopogon gracilifemur Nagatomi, 1983

カテゴリ

山口県	2018	EN
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：柿沼 進】

体長♂6～8mm、♀7～10mmほどの黒色で鈍い光沢のある微小なムシヒキアブ。腹部第2～5節に細い銀白色の帯があり、特に♀で目立つ。山地の溪流に生息し、水に半ば浸かった石の上などで発見される。樹木に覆われていない明るい溪流を好むようだ。捕食性で素早く飛翔し、空中でほかの小昆虫をとらえる。



提供：柿沼 進

生息・生育状況

全国的に記録が少ない。山口県ではこれまで岩国市錦町の1ヶ所で確認されたのみだが、その場所もダム建設予定地となっている。

選定理由

生息地が限局的で、全国的に記録が少ない。山口県では現時点で唯一の生息地が、ダム建設により消滅することが決まっていることから選定した。

減少等の要因

樹木に覆われない、広い河原のある溪流という環境が、山口県では少ない。またそのような場所はダムなどに改変されやすいことが考えられる。

- 311 -

チョウ目(チョウ) セセリチョウ科

0802600101800

ミヤマチャバネセセリ

Pelopidas jansonis (Butler, 1878)

カテゴリ

山口県	2018	EN
	2002	DD
環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：稲田 博夫】

小型のセセリチョウで、色彩や斑紋に性差はほとんどない。翅の表の地色は黒褐色、裏面の地色は赤みを帯びた褐色である。♂の前翅表面には目立たないが性標がある。本種は後翅裏面中室に顕著な銀白色の紋を現すが、この斑紋は近縁種にはない特徴である。年2回、4月～5月と7月～8月に発生する。飛び方は極めて敏速で、好んで花に集まって吸蜜をする。♂は地上で吸水することがある。近縁種のほとんどは幼虫で越冬するが、本種は蛹で越冬する。食草は、ススキ、チガヤなどのイネ科植物。



提供：稲田 博夫(2018.8.12撮影)

生息・生育状況

高原や草原に接する疎林の周辺、林道の脇や溪流沿いの明るい草地などに見られる。山口県では産地が各地に点在しているが、近年既知産地でも著しく確認が困難となっている。

選定理由

生息地は極めて限局的で、環境変化、採集圧など受けやすく、近年、ほとんど見られなくなっている。

減少等の要因

観光開発、土地開発や植林、およびそれに伴う植生遷移による生息環境の悪化により消失した。また一部地域では採集圧もあった。

- 312 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600400900

ウスイロオナガシジミ

Antigius butleri (Fenton, [1882])

カテゴリ

山口県	2018	EN
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

小型のシジミチョウで、翅表は暗褐色、後翅表に白斑がある。翅表が、近縁種のみズイロオナガシジミよりいくぶん淡く、これが名前の由来であるが、翅裏の斑紋が特徴的であることから、識別は容易である。年1回、6月中旬より出現する。早朝活動が観察されているが、16時頃から活発に活動する。わずかに占有性はあるものの、それほど縄張りへの執着性はない。昼間は不活発で食樹に静止していることが多い。食樹は主にミズナラ、カシワ、ナラガシワ、コナラなどのブナ科の樹木。卵で越冬する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2011.7.8撮影)

生息・生育状況

暖温帯から冷温帯の落葉広葉樹林に生息する。山口県では冠高原と接する県境部のカシワ林に生息する。

選定理由

局地的に生息する種で、環境変化の影響を受けやすく、近年、生息数が減少している。

減少等の要因

1990年代に入り植林の維持管理不足により植生遷移のため環境は悪化してきた。現在生息地であったカシワやクヌギ主体の疎林は大きく荒廃している。

- 313 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600403800

クロツバメシジミ

Tongeia fischeri (Eversmann, 1843)

カテゴリ

山口県	2018	EN
	2002	VU
環境省	2019	-

形態・生態

小型のシジミチョウで、色彩や形態に性差はほとんど見られないが、♀の翅形はわずかに丸みがある。翅表の地色は黒褐色である。後翅表面の外縁部に沿った白色紋は、朝鮮半島亜種である県西部側の個体に鮮明に現れる。瀬戸内側の個体(西日本亜種)では白色紋は不鮮明である。年3、4回の発生で、4月中旬～11月上旬頃まで見られる。飛び方はゆるやかで、好んで岩壁や礫上に翅を半開きにして止まる。発生地周辺に咲く花で吸蜜するが、♂はときに吸水することがある。越冬態は幼虫または蛹。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2018.9.16撮影)

生息・生育状況

断崖となった海岸線の岩場など食草であるツメレンゲやイワレンゲ、タイトゴメの自生している場所に生息する。山口県では、響灘に面した海岸線と離島に生息している。瀬戸内側では周防大島町の一部の海岸に既知産地がある。

選定理由

1980年代後半より減少傾向にあり、いずれの産地も存亡の危機にある。周防大島の産地は10年以上確認ができていない。

減少等の要因

植生遷移、食草の採取、岩場の風化などにより食草が衰退している。

- 314 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科 0802600500600 ウラギンスジヒョウモン <i>Argyronome laodice</i> (Pallas, 1771)	カテゴリ	
	山口県	2018 EN 2002 VU
	環境省	2019 VU

形態・生態

【執筆者：五味 清】

ヒョウモン類では平均的な大きさで、色彩や斑紋に性差はないが、♀は♂より大型で翅形は丸みを帯びる。オオウラギンスジヒョウモンに似るが、やや小型で翅形はより丸味を帯びる。翅表の地色あるいは裏面の前翅端部や後翅の外半分の色彩は、本種の方がいくぶん薄色である。年1回の発生で、6月上旬より出現する。飛翔はかなり敏速で、ときには高い樹冠まで舞い上がる。暖地のものは盛夏に一時休眠する。卵または1齢幼虫で越冬。



提供：五味 清(2016.6.17撮影)

生息・生育状況

低山地から山間部の林縁、疎林、草地など、樹林と草地が入り交じった環境に好んで生息する。山口県では概ね全県的に生息していたが、近年、既知産地でも著しく確認が困難となっている。とくに県東部においては近年の記録がない。

選定理由

秋吉台は採集禁止となつてはいるが現在生息確認することは困難である。各既産地でも減少し、離島を除き各地域から確認が困難となった。

減少等の要因

開発または植生遷移の進行による生息地の喪失。食草のスミレ類や蜜源となる草花の衰退。

- 315 -

トンボ目 ヤンマ科 0800300600500 ネアカヨシヤンマ <i>Aeschnophlebia anisoptera</i> Selys, 1883	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 NT
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂48~54mm、♀50~57mm。後翅長♂46~52mm、♀47~52mm。腹部第3節にくびれがない。黒地に黄緑色の小班が散る。



提供：後藤 和夫(2017.8.24撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地の抽水植物の繁茂する溜池や湿地、休耕田に生息する。6月中旬~9月中旬に見られる。

選定理由

倒木や岸辺の地表に産卵するが、草で覆われると産卵ができなくなり減少。

減少等の要因

埋め立てや生息地の荒廃。

- 316 -

トンボ目 サナエトンボ科 0800300701500 ホンサナエ <i>Shaogomphus postocularis</i> (Selys, 1869)	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂32～38mm、♀34～37mm。後翅長♂27～35mm、♀30～34mm。ずんぐりとした体形の中型のサナエトンボ。太短い体形で他種と簡単に識別できる。



提供：伴 一利(2015.5.17撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地にかけての河川の中流域に生息するが、県内では産地が限られる。5月上旬～6月中旬に見られる。

選定理由

県内のごく限られた水系にのみ生息している。

減少等の要因

河川の改修工事や災害に伴う生息環境の変化。

- 317 -

トンボ目 サナエトンボ科 0800300701600 キイロサナエ <i>Asiagomphus pryeri</i> (Selys, 1883)	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 -
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂42～48mm、♀45～49mm。後翅長♂37～50mm、♀37～44mm。♂♀ともにヤマサナエによく似ているが、♂は副生殖器の形状、♀は産卵弁が突出することで区別できる。



提供：管 哲郎(2011.7.13撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地にかけての川底が泥質のゆるやかな流れに生息する。5月上旬～7月中旬に見られる。

選定理由

川底の泥質を好むことから水田周辺が生息環境となっていたが、圃場整備などの改修工事により減少。

減少等の要因

河川の改修や田園の圃場整備事業。

- 318 -

トンボ目 エゾトンボ科 0800301000400 ハネビロエゾトンボ <i>Somatochlora clavata</i> Oguma, 1913	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 NT
	環境省	2019 VU

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂36～41mm、♀42～46mm。後翅長♂38～43mm、♀41～45mm。エゾトンボに似るが、がっしりした体形で、♂の尾部付属器の形状、♀腹部第4節以降は黒く、産卵弁がくさび状に突き出る。



提供：管 哲郎(2002.8.11撮影)

生息・生育状況

主に平地から丘陵地の湿地や湿原周辺の細流や、抽水植物の繁茂するゆるやかな流れに生息する。6月下旬～9月中旬に見られる。

選定理由

雨の少ない時期に、生息地の川の水がほとんどなくなり、見られなくなった。また、湿地が放置されたため、生息地が草木に覆いつくされて見られなくなった。

減少等の要因

開発や環境の変化。

- 319 -

トンボ目 トンボ科 0800301200700 アキアカネ <i>Sympetrum frequens</i> (Selys, 1883)	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂24～27mm、♀23～28mm。後翅長♂28～31mm、♀27～33mm。成熟すると♂は腹部のみが赤くなる。♀は淡褐色の個体と腹部背面が赤くなる個体も見られる。



提供：伴 一利(2018.8.11撮影)

生息・生育状況

平地から山地にかけての水田や、水深の浅い溜池や湿地に生息するが、特に水田を好むようである。日本を代表するアカトンボ。6月下旬頃～11月中旬に見られる。

選定理由

農地改革や後継者不足による水田の減少。農薬や稲作の変化により激減した。

減少等の要因

農薬や水田の乾田化。稲作において 水田に埋め込まれる箱処理剤の農薬である「イミダクロプリド」や「フイプロニル」が幼虫の致死率を上げていると考えられている。

- 320 -

トンボ目 トンボ科 0800301202500 ハッチョウトンボ <i>Nannophya pygmaea</i> Rambur, 1842	カテゴリ	
	山口県	2018 VU
		2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂11～15mm、♀11～12mm。後翅長♂13～15mm、♀14～15mm。♂は全身が赤く、♀は茶褐色に黄色と黒の斑紋がある。国内最小のトンボの一つで、大きさで他種との識別は容易。



提供：伴 一利(2018.6.26撮影)

生息・生育状況

主に、平地から山地にかけての日あたりのよい湿地や湿原、休耕田に見られる。放置されて、草丈が伸びて水面全体が覆われると見られなくなる。4月下旬頃～9月上旬に見られる。

選定理由

湿地や休耕田の埋め立てや放置されたことにより、生息地が草木に覆いつくされて見られなくなった。

減少等の要因

埋め立てや環境の変化。

- 321 -

バッタ目 バッタ科 0800901602100 カワラバッタ <i>Eusphingonotus japonicus</i> (Saussure, 1888)	カテゴリ	
	山口県	2018 VU
		2002 VU
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：福田 竹美】

翅端までの体長は♂25～30mm、♀40～43mm程度。体色は青みがかった灰色で、灰黒斑を散らしており、河原の石ころと紛らわしく保護色となっている。♀では黄褐色の個体も存在する。前翅は細長く、淡い褐色帯が2本ある。後翅では中央部に太い暗褐色の帯があり、その内側は半円となって基部まで鮮やかな青色をしている。補色的コントラストが美しく、明瞭な識別点ともなっている。爪間盤やふ節、脛節のとげなどの発達が悪く、草地での生活には適していない。



提供：福田 竹美(2015.9.13撮影)

生息・生育状況

氾濫原を持つ大河川の中・下流域で、こぶし大以上の石河原に生息し、草地主体の河原には生息しない。年1化性で、成虫は7月～9月にかけて見られる。食草はイネ科植物であるが、幼虫・成虫とも昆虫の死骸なども食べる雑食性である。♂♀とも発音する習性があり、卵で越冬する。

選定理由

本種に適したレキ質の河原から、植生遷移の進んだ河原への改変と河川改修などによる生息環境の変化による。県内では岩国市の錦川中・下流域の数箇所ではしか確認できないため、絶滅が危惧される。

減少等の要因

植生遷移の進んだ河原への改変および大雨による河川の変遷と、水害の復旧工事に伴う河川改修による生息環境の悪化。

- 322 -

カメムシ目 セミ科 0801500700900 ハルゼミ <i>Terpnosia vacua</i> (Olivier, 1790)	カテゴリ	
	山口県	2018 VU
		2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

体長♂28～32mm、♀23～25mm。♂は腹部が著しく大きく、♀はやや小さく産卵管が少し裸出する。日本産のセミ類で最も早く出現し、4月下旬から6月上旬に見られる。陽が照るとムゼー・ムゼーと大合唱し、蔭るとピタリと鳴き止む習性がある。

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】



提供：伴 一利(2011.5.25撮影)

生息・生育状況

平地から低山地にかけてのアカマツ林に限って生息し、地域によっては「マツゼミ」とも呼ばれている。

選定理由

以前は山口県全域で普通に見られたが、松枯れ現象によるアカマツ林の衰退により近年激減している。

減少等の要因

里山開発や立ち枯れによるアカマツ林の衰退が一因と思われる。

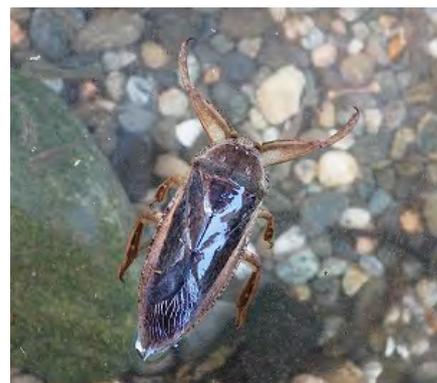
- 323 -

カメムシ目 コオイムシ科 0801502700100 タガメ <i>Kirkaldyia deyrolli</i> (Vuillefroy, 1864)	カテゴリ	
	山口県	2018 VU
		2002 VU
	環境省	2019 VU

形態・生態

体長48～65mm。体色は灰褐色～褐色。体型は扁平で前脚は強大な捕獲脚となり、末端に1個の爪がある。中・後脚は遊泳脚となる。尾端には短い呼吸管があり、これを水面に出し呼吸する。

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】



提供：後藤 和夫(2018.11.1撮影)

生息・生育状況

池沼、水田などの水際部に生息し、水中の小魚、オタマジャクシなどを捕らえ吸汁する。メスは水面上に出た杭や植物上に産卵し、その卵をオスが保護をする習性がある。

選定理由

かつては池沼、水田などの水際部に多数生息していたが、開発に伴う整備や農薬の使用などにより激減した。近年における山口県内での確認記録は増えているものの、数年は経緯を見る必要はある。

減少等の要因

農薬散布による田圃等の水域環境の悪化。近年回復しつつある。

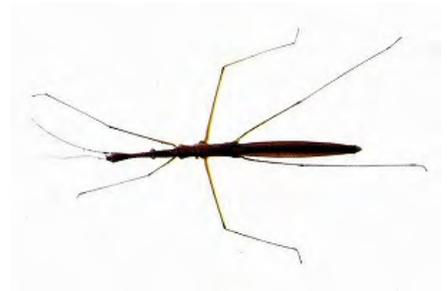
- 324 -

カメムシ目 イトアメンボ科 0801503200300 イトアメンボ <i>Hydrometra albolineata</i> (Scott, 1874)	カテゴリ	
	山口県	2018 VU
		2002 VU
	環境省	2019 VU

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

体長14mm内外。暗褐色で細長い糸状の体形をしている。♂の第7節腹面が縦に凹み、長毛を密生することで他種と区別できる。止水域の雑草間に見られ、よく水面を走り、小昆虫などを捕食する。また、夜間灯火にも飛来する。



生息・生育状況

池沼・水田などの水際に生息し、ヒメイトアメンボとの混生が見られる。

提供：伊ヶ崎 伸彦

選定理由

以前は普通種であったが、生息環境の激変で全国的に減少傾向にある代表種のひとつである。山口県では2005年以降の確認記録がない。

減少等の要因

休耕田や池など開発による生息地の消滅が一因。

コウチュウ目 オサムシ科 0801600408000 ムツモンコミズギワゴミムシ <i>Tachys (Paratachys) plagiatus shimosae</i> Tanaka, 1956	カテゴリ	
	山口県	2018 VU
		2002 VU
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長3mm。小型で体色は光沢のある黒色で、上翅には肩部と中央後方と翅端に3対の黄色の班紋がある。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

瀬戸内海沿岸部の潮間帯に生息している。成虫は4月～8月にかけて見られ、夜行性で灯火に集まるが、はっきりとした生態の詳細は不明。

選定理由

県内では今までに宇部市と山口市の2ヶ所だけに記録があり、山口市の生息地には多産していたが、激減している。

減少等の要因

生息地の埋め立てにより数が激減した。

コウチュウ目 オサムシ科 0801600416800 ダイセンツヤゴモクムシ <i>Trichotichnus (Trichotichnus) daisenus</i> Habu, 1973	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	NT
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長12～13mm。体の背面は暗褐色で虹色の金属光沢がある。前胸背板は心臓形で幅広く、側縁はほとんど湾曲しない。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

標高1,000m付近の溪流に生息し、成虫は5月～8月に現れる。溪流沿いの小石の下などに見られる。生態の詳細については不明。

選定理由

県内では岩国市のブナ帯の溪流のみで見つかっており、2000年以降の記録がないので激減しているものと思われる。

減少等の要因

ブナ林の減少により保水力の低下が急激な出水を招いたり、異常気象による集中豪雨などで、溪流の土砂が流されて生息地が失われたものと考えられる。

- 327 -

コウチュウ目 オサムシ科 0801600429200 ダイセンナガゴミムシ <i>Pterostichus (Daisenialoe) fujimurai</i> Habu, 1958	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	DD
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長11～13mm。触角第3節は先端が微毛でおおわれることで、他のナガゴミムシ類とは区別できる。跗節背面に不規則な縦溝がある。側頭は発達し複眼の後半を包む。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

標高1,000m付近の溪流に生息し、成虫は5月～8月に現れる。溪流沿いの小石の下などに見られる。生態の詳細については不明。

選定理由

県内では岩国市のブナ帯の溪流のみで見つかっており、2000年以降の記録がないので激減しているものと思われる。

減少等の要因

ブナ林の減少により保水力の低下が急激な出水を招いたり、異常気象による集中豪雨などで、溪流の土砂が流されて生息地が失われたものと考えられる。

- 328 -

コウチュウ目 オサムシ科 0801600429700 ダイセンミズギワナガゴミムシ <i>Pterostichus (Paralitanoe) daisenicus daisenicus</i> Ishida, 1958	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長14～17mm。体色は光沢のある黒色。前胸背板は心臓形で、上翅肩部内は凹み、第6間室は隆起する。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

標高1,000m付近の溪流に生息し、成虫は6月～8月に現れる。溪流沿いの小石の下などに見られる。生態の詳細については不明。

選定理由

県内では岩国市の山間部での記録しかなく、近年の記録はない。

減少等の要因

ブナ林の減少により保水力の低下が急激な出水を招いたり、異常気象による集中豪雨などで、溪流の土砂が流されて生息地が失われたものと考えられる。

- 329 -

コウチュウ目 テントウムシ科 0801606900800 ジュウクホシテントウ <i>Anisosticta kobensis</i> Lewis, 1896	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長4mm。体は細長く楕円形をしている。体色は淡黄色で、小楯板と上翅に19個の黒紋がある。前胸背板にも通常6個の黒紋がある。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

瀬戸内海沿岸部の河口部に生えるヨシ原に生息する。成虫は4月～10月に見られ、成虫・幼虫ともにヨシにつくアブラムシ類などを捕食し、灯火にも集まる。

選定理由

多産地であった山口市の干拓地が埋め立てで壊滅状態になり、その周囲にしか生息地は残っていない。

減少等の要因

旧阿知須干拓地に多産していたが、埋め立てにより激減した。

- 330 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609206700 オオクロカミキリ <i>Megasemum quadricostulatum</i> Kraatz, 1879	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	DD
	環境省	2019	-

形態・生態

体長14～29mm。♂の体色は暗褐色で♀は黒色。♂の触角は上翅の半分以上の長さがあり、♀では半分に達しない。体は幅広く頑強で翅端が丸まる。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

成虫は7月～8月に山地の針葉樹の伐採木で見つかる。夜行性で夕刻には活発に飛翔し、灯火にも飛来する。

選定理由

県内では標高の高いブナ帯でのみ見つかっており、近年の記録はない。

減少等の要因

ブナ林のあるような登山道は、登山者の増加に伴い整備されて、立ち枯れや倒木が処分されるために本種の生活の場が失われたものと考えられる。

- 331 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609206900 ヒゲジロホソコバネカミキリ <i>Necydalis (Necydalisca) odai</i> Hayashi, 1951	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	VU
	環境省	2019	-

形態・生態

体長14～25mm。体色は黒色で触角の8～10節は白黄色。上翅は短小で下翅が露出する。♀は♂より大型で上翅が茶褐色となる。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

ミズナラの原生林に生息し、樹皮が剥がれたような古い立ち枯れや倒木を好み、成虫もその付近で見られる。吹き上げによって山の尾根などで採れることもある。

選定理由

県内では岩国市の中国山地と山口市の山間部のみ記録されているが、個体数は少ない。

減少等の要因

ブナ・ミズナラの原生林の減少や登山道の整備のため、立ち枯れや倒木も減少したため、生活の場が失われたものと考えられる。

- 332 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609207000 アカジマトラカミキリ <i>Anaglyptus (Akajimatora) bellus bellus</i> Matsumura et Matsushita, 1933	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	VU
	環境省	2019	-

形態・生態

体長13～17mm。体色は頭部・前胸背板・上翅はあざやかな赤色で微毛におおわれている。前胸背板と上翅には黒色班紋が横に並び縞模様となる。触角と脚は黒色。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

山地のケヤキ林に生息し、成虫は8月～9月に出現する。日中は不活発で、早朝や夕方によく活動し、イタドリの花にも飛来する。

選定理由

県内では山口市徳地と萩市の山間部で記録があるが、個体数は極めて少ない。

減少等の要因

山地に自生するケヤキの大木が少なく、伐採によりさらに減少している。

- 333 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609207700 アオカミキリ <i>Schwarzerium quadricollis</i> (Bates, 1884)	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

体長21～30mm。体は暗緑色から青緑色で、ときに翅端に向かって赤みがかかる個体もある。前胸背板は前後縁付近で明瞭にくびれ、中央部は点刻され、微毛を密生する。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：椋木 博昭(2018.7.14撮影)

生息・生育状況

平地から山地の照葉樹林に生息し、成虫は5月～8月に樹木の花に飛来する。公園などのカエデなどに脱出穴があるのを見かけることがある。

選定理由

県内の分布は広く、平野部でも見かけることがあるが、個体数が少ない。

減少等の要因

公園のカエデの害虫として駆除される。

- 334 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609207900 チャイロチビヒラタカミキリ <i>Phymatodes (Phymatodellus) infasciatus</i> (Pic, 1935)	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	DD
環境省	2019	-	

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長3～5mm。体は赤褐色で黄褐色微毛の他に長立毛を備え、特に小楯板後方に集中する。触角は後方にやや太く、上翅端に届かない。



提供：下野 誠之

生息・生育状況

平地から山地のノブドウ類に見られる。成虫は5月下旬～7月に現れる。

選定理由

県内では岩国市・山口市・萩市に記録があるのみで極めて局地的であり、個体数も少ない。

減少等の要因

山林の荒廃によりノブドウ類が減少したことが考えられる。

- 335 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609219100 セダカコブヤハズカミキリ山口亜種 <i>Parechthistatus gibber tanakai</i> Miyake, 1980	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	VU
環境省	2019	-	

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長14～19mm。体色は暗褐色で、上翅はビロード状の微毛におおわれ、翅端にはトゲ状突起がある。♂は触角が体長の2倍以上もあり、♀でも約1.3倍と長い。下翅は退化しており飛翔することはできない。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

県の北部・西部地域に分布しており、乾燥していない照葉樹林に生息している。成虫は5月～8月までは倒木上に見られるが、9月～10月には地面近くの枯葉の中で見られ、成虫越冬する。

選定理由

山口県特産亜種で、多産地であった下関市や萩市でも数が激減している。

減少等の要因

照葉樹林帯の山は乾燥化が進み生息地が限られてきたところに採集圧も加わったことが要因と考えられる。

- 336 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609220400 ヒメビロウドカミキリ <i>Acalolepta degener degener</i> (Bates, 1873)	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 CR
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長9～12mm。上翅は茶褐色でピロード状の微毛を密生し、白色微毛による紋を散布する。♂の触角は体長の2倍を超えない程度、♀では♂より少し短く、第5腹節の端が広く凹む。



提供：後藤 和夫(2011.7.21撮影)

生息・生育状況

石灰岩のある草原に生えるオトコヨモギに見られる。成虫は6月に現れ、オトコヨモギの茎に止ったり枯葉内に潜む。

選定理由

県内では美祢市秋吉台周辺のみに限られた場所に生息し、個体数も多くない。

減少等の要因

成虫の活動期に、オトコヨモギが刈られることで減少したと考えられる。

- 337 -

コウチュウ目 ハムシ科 0801609501100 イネネクイハムシ <i>Donacia provostii</i> Fairmaire, 1885	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長6～7mm。上翅は光沢のある褐色で、頭部と前胸背板は黒色。上翅には明瞭な点刻が間室に並び、前胸背板は横ジワ状に密に刻印される。



提供：下野 誠之

生息・生育状況

平地から低山地にかけての浮葉植物が豊かな湿地や池沼に生息している。成虫は6月～9月に見られ、ヒシ・ヒツジグサ・ハス・ジュンサイ・ヒルムシロなどを食草としている。幼虫は水生で根の部分を食べる。

選定理由

県内では宇部市・岩国市・山口市・下関市に記録があるが、どここの産地でも数が多くない。

減少等の要因

県内にため池は多くあるが、浮葉植物が豊かな池はあまりなく、改修工事などで生息地が減少したことが要因だと思われる。

- 338 -

アミメカゲロウ目 ツノトンボ科 0801900600200 キバネツノトンボ <i>Libelloides ramburi</i> McLachlan, 1875	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：福田 竹美】

体長は25mm前後。前翅長28mm前後で、一般に♀の方がやや大きい。体は黒く頭部や胸部・脚部の一部に黄色の斑があり、長い毛におおわれる。触角は長く先端が玉のようになっている。前翅の基部と後翅全体に鮮やかな黄色の斑紋を有する。♂の尾端には鉤状になった一対の付属物がある。



提供：稲田 博夫(2012.5.19撮影)

生息・生育状況

平地から山地にかけての開けた草地、あるいは休耕田や造成後しばらく放置された荒地などに生息する。

選定理由

岩国市の錦町と美和町から報告されているが非常に局地的で、錦町は2008年の記録が最後になる。美和町は2017年に再発見されたが草むらの維持管理に安定性がなく、生息地が失われる懸念がある。

減少等の要因

土地造成による草原の消滅や、植生遷移による休耕地の原野化あるいは農薬汚染などによる生息環境の衰退。

トビケラ目 カタツムリトビケラ科 0802402200100 カタツムリトビケラ <i>Helicopsyche yamadai</i> Iwata, 1927	カテゴリ	
	山口県	2018 VU 2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：後藤 益滋】

幼虫は直径2~3mm程度の、カタツムリの貝殻に酷似した形態の棲管を有している。成虫は前翅長が3mm程度と極めて小型であり、黒紫色で翅を持ち飛翔する。



提供：後藤 益滋

生息・生育状況

低山地から山地の、水の滴る所や流れの細く緩やかな所の石の裏などに、集団で附着している事が多く、石の上の藻類を食餌する。

選定理由

2000年代までは山口市、萩市、防府市、周南市、岩国市の山間部に広く生息していた。2010年以降の開発行為や大規模災害の対策工事で、山口市、周南市の一部では生息地の喪失が急速に進んだ。

減少等の要因

生息地が道路の法面などに面することが多く、崩落防止対策のためにモルタルなどが吹き付けられ、生息地の破壊が進んだ。

チョウ目(ガ) ミノガ科
0802500600200

オオミノガ

Eumeta variegata (Snellen, 1879)

カテゴリ

山口県	2018	VU
	2002	CR
環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：重中 良之】

幼虫・蛹期は日本最大のミノムシ。♂の開翅長は35mm前後で、やや黒みを帯びた茶褐色。前翅は翅脈に沿って黒色線が走り、外縁部に2つの透明の紋がある。触覚は楯状。♀は体長30mmほどで、翅や脚がない円筒型のウジ状。茶褐色の頭部周辺以外は乳白色。♀は一生涯、ミノのなかですごし、交尾・産卵もミノのなかで行われる。夏期に孵化した幼虫は、ミノの下から垂らした糸によって風に乗分散し、着地した場所で直ぐにミノを形成する。♀は成虫になっても翅がないため、移動域はその着地した周囲に限られる。



提供：重中 良之(2017. 6. 22撮影)

生息・生育状況

食餌植物はサクラ・クリ・カキノキ・イチジク・ヌルデ・ヤナギ・マサキ・チャ・ヒサカキほか多種多様で、果樹園や開けた明るい広葉樹林や市街地など、低山地から平地まで生息する。本州・四国・九州・沖縄に分布。ミノムシとして若齢幼虫で越冬し、成虫は5月～6月に出現する。

選定理由

2002年に絶滅危惧ⅠA類に選定後、2010年頃には県内各地で生息回復した。しかし、近年は寄生バエの猛威が復活し、本種のミノは、高い確率で寄生されており、再び著しく衰退している。

減少等の要因

中国から移入したオオミノガヤドリバエによる寄生で大激減したが、本種の減少で寄生バエも減少して一時的に回復した。しかし、近年、再び寄生バエが勢力を増し、本種を激減させている。

- 341 -

チョウ目(ガ) マダラガ科
0802503201100

サツマニシキ

Erasmia pulchella Hope, 1841

カテゴリ

山口県	2018	VU
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：重中 良之】

開翅長70～80mm。前翅のほか触角・頭部・胸部・脚部に至るまで緑青色の金属光沢を有する。青緑に輝く前翅を横切る朱色の帯があざやかで外縁にかけて白斑を散りばめる。日本産ガ類最美麗種のひとつである。昼飛性で灯火には誘引されない。成虫は手で掴んだりすると、前翅付け根付近から大量の黄色い泡状の液体をだす。視覚的にも天敵に対して警戒させる効果があるようだが代表的な天敵である鳥類に対し、忌避物質を含んでいる。



提供：稲田 博夫(2013. 10. 17撮影)

生息・生育状況

幼虫食餌植物のヤマモガシが自生する神社境内や比較的人手の入った照葉樹林などに生息し昼行性でフジバカマ・ツワブキ・セイタカアワダチソウなどを訪花し吸蜜する。成虫は年2化で7月～8月と9月～10月に出現する。葉を巻いてつづった巣をつくり若齢幼虫で越冬する。本州・四国・九州・西南諸島に分布。

選定理由

幼虫の食餌植物は県の絶滅危惧Ⅱ類指定のヤマモガシで、岩国市・周防大島町・下関市でわずかな自生が知られている。本種の存亡はこの稀少植物に委ねた状況である。

減少等の要因

山口県内では、本種の食樹ヤマモガシは神社や城山などの限られた地域に、わずかに自生するのみである。

- 342 -

チョウ目(ガ) シャクガ科 0802505413600 フチグロトゲエダシャク <i>Nyssiodes lefuarius</i> (Erschoff, 1872)	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：村田 淳】

開翅長は♂が32mm前後。♀には翅がなく、体長は10～14mm。♂の前翅はその名の通り黒く縁取られている。♀は翅が退化して無翅状態となっており、ずんぐりとした腹部は短毛におおわれている。



提供：後藤 和夫(2012.2.29撮影)

生息・生育状況

幼虫食餌植物であるカラスノエンドウ・ミヤコグサなどが畦畔に生育していることから、農耕地や耕作放棄された荒地などに生息する。成虫は2月～3月に出現する。♂は非常に素早い飛翔をするが、翅の退化した♀は草むらでフェロモンを分泌して♂の飛来を待ち、数回ほど交尾・産卵を繰り返す。

選定理由

本種の生息する農耕地などの環境の維持が年々難しくなっており、これら産地での調査における個体数の減少が著しい。直近では大半の産地で本種の確認ができない状況にある。

減少等の要因

本種の保全には、除草剤や野焼きに頼らない除草しか手立てがないが、高齢化の進む農家の現状を踏まえると困難である。

- 343 -

チョウ目(チョウ) セセリチョウ科 0802600100600 ギンイチモンジセセリ <i>Leptalina unicolor</i> (Bremer et Grey, 1852)	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	VU
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：五味 清】

小型のセセリチョウで、色彩や斑紋に性差はない。♀の前後翅は♂に比べやや尖っていて、チョウ類に見られる一般的な傾向とは逆である。山口県では年2回、4月下旬～5月上旬と7月上旬～中旬に発生するが、ときに9月上旬に発生する個体も見られ、年3回発生することもある。日あたりのよい草地を弱々しく飛翔し、草むらの葉上に翅を閉じるかあるいは半開きにして止まる。♂は吸水することがある。亜終齢か終齢幼虫で越冬する。



提供：五味 清(2017.5.14撮影)

生息・生育状況

ススキやチガヤなどの生えた草原や丘陵地、河原や堤防などの乾燥草地に生息する。かつて山口県では多くの生息地が点在していたが、最近では、確かな生息地としては美祢市と萩市のみである。

選定理由

1980年代後半から、生息地が減少してきている。安定していた秋吉台でも年次変動が大きく不安定である。

減少等の要因

開発または植生遷移の進行により生息環境が喪失している。

- 344 -

チョウ目(チョウ) シロチョウ科
0802600300200

ツماغロキチョウ

Eurema laeta (Boisduval, 1836)

カテゴリ

山口県	2018	VU
	2002	EN
環境省	2019	EN

形態・生態

シロチョウ科の小型種で、翅表裏の地色は黄色である。夏型はキタキチョウによく似ており間違いやすい。秋型は前翅の先端が角張り、前後翅の裏面は褐色を帯びる。成虫で越冬し、母蝶は食草の生育に併せ産卵する。暖地では5月上旬から6月上旬に成虫が出現する。晩秋まで3、4回発生しているものと推測される。飛翔はキタキチョウよりやや敏速である。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2018.10.7撮影)

生息・生育状況

平地から低山地にかけての林縁の草地・川土手・河川敷・田畑周辺など、食草であるカワラケツメイの自生地にも生息し、健康茶・薬草としての栽培地にも生息する。

選定理由

かつて県内ではほぼ全域で見られたが、いまは散発的に記録されるのみの状況にある。今後さらに生息地の減少が危ぶまれ、経過観察を要する。

減少等の要因

植生遷移の進行と土地開発などによる食草の消失が主因である。

- 345 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600402500

ハヤシミドリシジミ

Favonius ultramarinus (Fixsen, 1887)

カテゴリ

山口県	2018	VU
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

シジミチョウ科では大型の種で、斑紋は、翅裏面では♂♀ほぼ同じであるが、翅表では、♂は緑色の金属光沢を有し、♀は暗褐色で前翅に灰白斑を有する。近縁種のエゾシミドリシジミに比べ、尾状突起が長い。年1回、西日本の暖地では6月上旬より出現し、6月下旬～7月上旬頃が最盛期となる。食餌植物はブナ科のカシワで、成虫もカシワ林から離れることはない。昼間はカシワの葉裏や枝に静止しているが、早朝と日没前後に活動し、17時から19時頃がピークとなる。食樹は、ブナ科のカシワ。卵で越冬する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2011.7.8撮影)

生息・生育状況

標高700m以上のカシワの疎林に生息する。北海道・本州・九州および佐渡島に分布するが、四国には産しない。山口県では広島県の冠高原に接する県境部のカシワ林に生息地があるのみ。

選定理由

唯一の生息地であった県境部の生息環境がかなり荒廃し、個体数の減少が顕著になってきている。

減少等の要因

カシワ林などを伐採し造林されたスギの植林地が1990年代に入り林業の衰退とともに放置され植生遷移が一気に加速し、生息環境が悪化した。

- 346 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600403100

ミヤマカラスシジミ

Fixsenia mera (Janson, 1877)

カテゴリ

山口県	2018	VU
	2002	DD
環境省	2019	-

形態・生態

小型のシジミチョウのひとつで、色彩や斑紋に性差はあまりないが、♀はやや大きく尾状突起が長い。翅表は暗褐色をし、翅裏は茶褐色で♂の前翅には無光沢な楕円型の性標が顕著である。年1回の発生で、7月～8月にかけて出現する。飛翔はゆるやかで、飛び立ってもあまり長距離を飛ばず付近の葉上に止まる。とくに♀は生息地をほとんど離れない。午前中は好んで白色系の花で吸蜜する。♂は13時過ぎから17時にかけて活動し、占有行動をとる。越冬態は卵で、春に孵化した幼虫は食樹であるクロウメドモドキ科の花蕾を食べる。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2016.7.24撮影)

生息・生育状況

温帯から暖帯の山地で、落葉広葉樹林帯のなかの空地や林の周辺部に生息する。山口県では県境部のみに生息するが個体数は概して少ない。

選定理由

岩国市錦町にのみ産地が知られている。1980年代後半から減少傾向にある。

減少等の要因

生息森林の伐採と、山林の管理が行われなくなり植生遷移により食樹が衰退している。

- 347 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600404000

スギタニルリシジミ

Celastrina sugitanii (Matsumura, 1919)

カテゴリ

山口県	2018	VU
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

小型のシジミチョウで、♂の翅表は暗い紫藍色をしており、♀は暗い青藍色で前後翅とも外縁部に幅広い黒帯がある。翅裏の地色は♂♀とも暗灰色で小さな黒斑を散らす。年1回、暖地では3月下旬～4月下旬に発生する。♂は晴天時の午前中から正午過ぎにかけて、溪流沿いの陽光の当たる路上の湿地で吸水する習性がある。♀は夕方近くになって吸水する。♂♀とも吸蜜に花を訪れる。蛹で越冬する。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2015.4.26撮影)

生息・生育状況

食樹はトチノキで、水気が多い環境を好むため溪流沿いや谷あいに産地が多い。山口県では、岩国市の中国山地沿いの溪谷部、および山口市と周南市で生息が確認されている。

選定理由

局地的に残存したトチノキに依存しながらろうじて生息しているといった状況である。

減少等の要因

植樹が自生する天然林の伐採により、トチノキの大樹の大半が消滅した。

- 348 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科 0802600501000 クモガタヒョウモン <i>Nephargynnis anadyomene</i> (C. Felder et R. Felder, 1862)	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：五味 清】

タテハチョウのなかでは中型であるが、ヒョウモンチョウのなかでは大型である。色彩や斑紋に性差はほとんどないが、♂の翅表地色は明るい橙色をし、♀は暗橙色で前翅端近くには三角の小白紋があることで区別できる。年1回の発生で、西日本南部の暖地では5月上中旬より出現する。発生後しばらく活動しているが、6月中旬頃から樹陰などに隠れて酷暑を避け「夏眠」に入る。9月中旬より再び出現する。飛翔は比較的ゆるやかに滑翔し、アザミなど多くの花を訪れる。越冬態は幼虫。



提供：五味 清(2014.5.19撮影)

生息・生育状況

丘陵地や山地の落葉広葉樹が茂る林間に開けた明るい草原、あるいは溪流沿いの明るい場所などに生息する。山口県では平地から山間部まで広く分布域を持つが、山陰側では局所的となり、県東部の瀬戸内側に空白地帯がある。

選定理由

生息環境の悪化につれ個体数は減少の一途であり、県内広域に生息地は点在するものの、いずれの産地も生息個体数は少ない。

減少等の要因

生息環境である草原や畑地の荒廃。

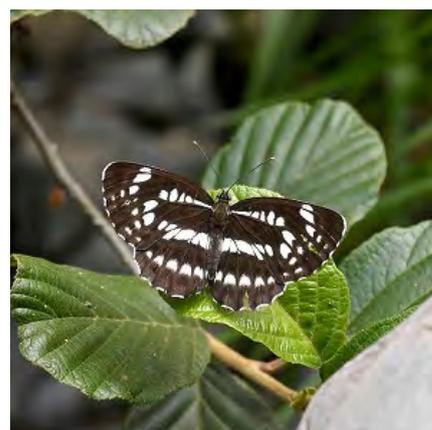
- 349 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科 0802600501800 ホシミスジ <i>Neptis pryri</i> Butler, 1871	カテゴリ		
	山口県	2018	VU
		2002	NT
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：稲田 博夫】

小型のタテハチョウで、色彩や斑紋に性差はほとんどない。後翅裏面に星に見立てられた黒い斑紋がある。近畿から中国地方にかけての暖地では概ね年2回発生し、第1化は5月～7月、第2化は8月～9月に見られ、ときに第3化を生ずる場合もある。飛び方は本属特有の滑翔で、食樹周辺を飛び回ったり各種の花に飛来する。食樹は、ユキヤナギ、コデマリ、イワガサなど。幼虫で越冬する。



提供：稲田 博夫(2018.6.3撮影)

生息・生育状況

食樹の自生する山腹や尾根筋が本来の生息地だが、これらの樹種が植栽された公園や人家の庭などにも生息する。本州・四国・九州に分布するが、西南日本では極めて局地的で個体数も少ない。

選定理由

山口県では、現在、岩国市と周防大島町及び和木町で生息が確認されているだけあり、個体数も最近減少傾向が見られる。

減少等の要因

食樹の自生地が、岩場の土砂の堆積や地域の植林、土地開発などで減少している。錦川の生息地はダム建設により消失するため、保全活動に取り組んでいる。

- 350 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600504400

オオヒカゲ

Ninguta schrenckii (Ménétriès, 1858)

カテゴリ

山口県	2018	VU
	2002	VU
環境省	2019	-

形態・生態

ジャノメチョウ科では最も大型の種で、色彩や斑紋に性差はないが、♀の翅形はやや広く、後翅表の黒円斑紋列が大きく目立つ。♂の後翅基部には銀灰色の性標がある。年1回、6月下旬から出現する。昼間は日陰の草叢や樹林に潜み、樹液に集まり、夕方になると活発になる。食草は、カササゲなどのカヤツリグサ科、ススキなどのイネ科の植物。幼虫で越冬する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：後藤 和夫(2018.7.2撮影)

生息・生育状況

陰地を好み、湿原性の雑木林の茂みや林間に生息する。山口県では、岩国市の県境部周辺に記録があったが、近年、山口市阿東でも新たに確認されている。

選定理由

生息地は極めて限局的で、環境変化、採集圧など受けやすく、生息数も減少傾向にある。

減少等の要因

観光事業などの土地開発に伴う湿原の埋め立てや植林による生息環境の悪化・消失、採集圧など。

- 351 -

トンボ目 アオイトトンボ科
0800300100100

オツネトンボ

Sympecma paedisca (Brauer, 1877)

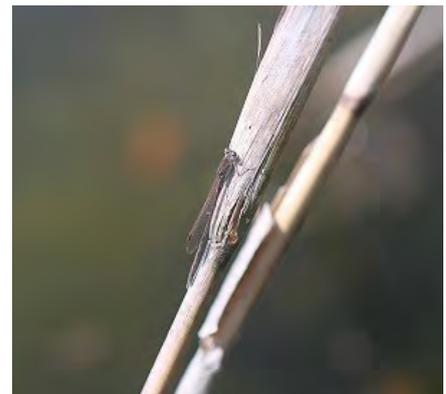
カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

腹長♂28~31mm、♀28~30mm。後翅長♂20~22mm、♀21~24mm。♂♀ともに全身が淡褐色で、成熟してもほとんど体色は変わらない。

【執筆者：伴 一利】



提供：伴 一利(2014.4.29撮影)

生息・生育状況

平地から低山地のアシなどの抽水植物の繁茂した池沼や湿地に生息する。成虫で越冬する。

選定理由

生息地はもともと局地的であったが、近年減少している。

減少等の要因

これといった原因が見あたらない。

- 352 -

トンボ目 イトトンボ科 0800300401200 アジアイトトンボ <i>Ischnura asiatica</i> Brauer, 1865	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂20～26mm、♀20～25mm。後翅長♂12～15mm、♀14～17mm。アオモンイトトンボによく似ているが、♂の腹部第9節は全体が青色、♀の腹部第1節の背面に黒条がある。



提供：管 哲郎(2014.4.15撮影)

生息・生育状況

平地から山地の池沼や湿地、水田や河川の淀みに生息する。5月初旬～10月中旬頃にかけて見られる。

選定理由

生息地の埋め立てなどにより環境が変化して減少。

減少等の要因

埋め立てなどの環境の変化。

- 353 -

トンボ目 ヤンマ科 0800300600100 サラサヤンマ <i>Sarasaeschna pryori</i> (Martin, 1909)	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂40～46mm、♀37～46mm。後翅長♂35～39mm、♀35～39mm。腹部の三角形の小班が和名の更紗模様に由来する。♀の翅は基部と結節から翅端にかけて褐色にけぶる。



提供：伴 一利(2017.6.4撮影)

生息・生育状況

平地から山地の湿地や休耕田に生息する。4月下旬頃～7月中旬に見られる。

選定理由

生息地である湿地の埋め立てにより減少。

減少等の要因

生息個体の絶対数も小さいため、環境の変化に弱い。

- 354 -

トンボ目 ヤンマ科 0800300600400 アオヤンマ <i>Aeschnophlebia longistigma</i> Selys, 1883	カテゴリ	
	山口県	2018 NT 2002 -
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂46～50mm、♀42～49mm。後翅長♂43～46mm、♀42～49mm。腹部第3節にくびれがなく、全身が鮮やかな黄緑色をしている。



提供：管 哲郎(2008.6.28撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地のヨシやガマなど背丈の高い抽水植物の密生する溜池や溝川に生息する。5月上旬～8月下旬頃にかけて見られる。

選定理由

生息地の埋め立てにより減少。

減少等の要因

長期間放置されヨシかガマの密集する溜池などに生息するが、危険であることなどから埋め立てられる。

- 355 -

トンボ目 ヤンマ科 0800300601000 ルリボシヤンマ <i>Aeshna juncea juncea</i> (Linnaeus, 1758)	カテゴリ	
	山口県	2018 NT 2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂56～61mm、♀53～59mm。後翅長♂51～55mm、♀54～56mm。♂は成熟すると、青、緑、黄色の斑紋が混在する。



提供：後藤 和夫(2014.9.2撮影)

生息・生育状況

寒冷地の抽水植物の繁茂するため池や湿地の滞水部など、小規模な環境を好む。7月上旬～10月中旬に見られる。

選定理由

山間や農村部にある溜池の荒廃が進んでいる。小さな水域を好むため、簡単に埋め立てられてしまい生息域が減少。

減少等の要因

生息地の埋め立て。

- 356 -

トンボ目 サナエトンボ科 0800300700500 アオサナエ <i>Nihonogomphus viridis</i> Oguma, 1926	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂35～41mm、♀37～42mm。後翅長♂29～33mm、♀34～37mm。♂♀ともに、成熟すると胸部と腹部前半が黄緑色になる中型のサナエトンボ。



提供：後藤 和夫(2015.5.24撮影)

生息・生育状況

丘陵地や低山地を流れる砂底の河川の中流域に生息する。4月下旬頃～7月中旬に見られる。

選定理由

台風や豪雨などにより河川環境が著しく変化し、生息域が減少。

減少等の要因

河川の改修工事や災害に伴う生息環境の変化。

- 357 -

トンボ目 サナエトンボ科 0800300701400 ミヤマサナエ <i>Anisogomphus maacki</i> (Selys, 1872)	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂36～40mm、39～42mm。後翅長♂29～34mm、♀32～34mm。♂♀ともに腹部背面に細く筋状に連なった黄色の斑紋があり、腹端部は扁平に広がる。



提供：後藤 和夫(2018.7.28撮影)

生息・生育状況

平地から丘陵地にかけての河川の中流域に生息するが、下流域でも羽化殻が見つかる。未成熟の個体は山頂や尾根筋ですごし、和名の由来となっている。5月中旬～9月中旬に見られる。

選定理由

台風や豪雨などにより、河川環境が著しく変化したため減少。

減少等の要因

河川の改修工事や災害に伴う生息環境の変化。

- 358 -

トンボ目 ムカシヤンマ科 0800300800100 ムカシヤンマ <i>Tanypteryx pryeri</i> (Selys, 1889)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂48～54mm、♀51～53mm。後翅長♂45～48mm、♀46～48mm。頭部は複眼が左右に離れていて、サナエトンボに似ている。♂♀ともに縁紋が細長く、腰がくびれずに太い。



提供：後藤 和夫(2015.5.20撮影)

生息・生育状況

低山地から山間の湿地の際や、溪流の岸などの水のしたたる斜面に、幼虫はトンネルを掘って生活している。4月中旬～6月中旬に見られる。

選定理由

林道の整備などの開発や、植林による山の針葉樹化により、保水力が減少し、生息地である湧き水のしたたる斜面が少なくなっている。

減少等の要因

開発や環境の変化。

トンボ目 エゾトンボ科 0800301000300 エゾトンボ <i>Somatochlora viridiaenea</i> (Uhler, 1858)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：伴 一利】

腹長♂36～42mm、♀42～51mm。後翅長♂39～44mm、♀40～50mm。全身に暗緑色の金属光沢がある。ハネビロエゾトンボに似るが、♂の尾部付属器の形状、♀は腹部第4節以降に黄斑がある。



提供：管 哲郎(2001.7.31撮影)

生息・生育状況

平地から山地にかけての湿地や休耕田に生息する。主に寒冷地を好むが、海岸近くからも見つかっている。6月中旬～9月下旬に見られる。

選定理由

湿地や休耕田の埋め立てと休耕田の放置により、生息地が草木に覆いつくされて見られなくなった。

減少等の要因

埋め立てや環境の変化。

バッタ目 コオロギ科 0800900700200 ハネナシコオロギ <i>Goniogryllus sexspinosus</i> Ichikawa, 1987	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：福田 竹美】

体長は♂13mm前後、♀14mm前後(産卵器端までは約23mm)。体色は黒く鈍い金属光沢があり、触角に白い部分がある。後肢腿節背面の可動棘は6本ずつある。♂♀ともまったく翅がない。



提供：管 哲郎(2015.7.11撮影)

生息・生育状況

低山地の照葉樹林から比較的標高の高い山地の落葉樹林の林床や潤れ沢のガレ場などに生息している。成虫は4月～9月にかけて出現する。昼間にも見られるが、主に夜間活動する。翅がないので歩行するのみである。

選定理由

県内では、最初に確認された下関市の山地のほか、岩国市、阿武郡阿武町の2箇所ではしか生息が確認されておらず、いずれの生息地も個体数が少ないため、絶滅が危惧される。

減少等の要因

翅がなく行動範囲が狭いため、生活環境の悪化に対応しにくい。

- 361 -

バッタ目 バッタ科 0800901601600 ヤマトマダラバッタ(ヤマトバッタ) <i>Epacromius japonicus</i> (Shiraki, 1910)	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：福田 竹美】

翅端までの体長は♂30mm前後、♀30～35mm程度。全体に灰白色の地色で、暗褐色の小さな斑点が散る。前翅は地色を濃くし、前縁部はまだらとなる。後翅の基部は淡い青色をしているが暗褐色の翅脈以外に斑紋はない。後肢腿節には3本の黒帯があり、後肢脛節中央にも暗褐色の黒帯がある。



提供：福田 竹美(2016.9.11撮影)

生息・生育状況

まばらに草が生えたような海辺の明るい砂浜に生息するが、大きな川の河口付近など砂地主体の河川敷でも見られることがある。年1化性で、成虫は8月～10月にかけて見られる。後肢腿節を前翅に擦り合わせて発音するが、その音色は丸みを帯びて可愛い。よく飛び回るのが保護色となって見つけにくい。

選定理由

県内では良好な海浜環境の砂浜が生息地になっているが、このような環境は、砂浜の改変工事や堆砂の減少による砂浜の浸食などに伴い減少傾向にあるため、絶滅が危惧される。

減少等の要因

海岸の砂地の減少による、生息環境の消失。

- 362 -

カメムシ目 セミ科 0801500700200 エゾゼミ <i>Auritibicen japonicus</i> (Kato, 1925)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

体長38～44mm、翅端まで65～68mm。体は黒色で大型、中胸背に赤褐色-黄褐色のW字状紋がある。♂の腹弁は中央部で重なり、腹部第3腹板に達する。



提供：後藤 和夫(2018.7.28撮影)

生息・生育状況

山地性のセミで、マツ林やスギ、ヒノキ林に多く見られる。ギーンという連続音で鳴く。出現時期は7月～9月。

選定理由

標高500m～600m以上の山地に限られる。県内の生息状況は完全には把握できてはいないが、生息域が局限されているのは事実であり、今後の生息調査と生息場所の保全が必要である。

減少等の要因

個体数が少ない上に依存するアカマツ林が衰退。

カメムシ目 セミ科 0801500700300 エゾハルゼミ <i>Terpnosia nigricosta</i> (Motschulsky, 1866)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

体長は♂31～33mm、♀22～24mm、翅端まで♂41～43mm、♀38～40mm。体は大部分黄褐色で、♂の腹部は大きな袋状を呈する。頭部と胸部は緑色を帯び、黒や褐色の紋がある。♂の腹弁は黒褐色で左右が離れる。♀の産卵管は非常に短い。



提供：管 哲郎(2014.6.9撮影)

生息・生育状況

標高700m以上の山地(ブナ帯)に見られ、6月中旬～8月初旬にかけて出現する。オスはミヨーキン、ミヨーキン・・・ミヨーケケケ・・・と独特な鳴き方をする。

選定理由

生息地がブナ帯に限られ、県内の分布が局限されている。また、生息地のブナ帯広葉樹林が減少している。

減少等の要因

主にブナ林に生息、伐採等で環境の悪化が危惧される。

カメムシ目 ミズムシ科 0801502800200 オオミズムシ <i>Hesperocorixa kolthoffi</i> (Lundblad, 1933)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

体長10～12mm。体色は淡黄色で前胸背、後翅に細かい黒色状斑が発達する。♂の顔面は凹み白色の長毛が密生する。越冬成虫は3月頃から活動し、止水域で小昆虫などを捕食する。夜間灯火にも飛来する。



提供：伊ヶ崎 伸彦(2018.7.14撮影)

生息・生育状況

溜池などに見られるがきわめて局所的。まれに群生することがある。本種が好む環境については不明な点が多い。

選定理由

一般に大型のミズムシ類は水環境の悪化により全国的に減少の傾向にあり、県内においても分布は局所的で採集例は少ない。少ないうえに、水辺環境の悪化により今後さらに減少が危惧される。

減少等の要因

生息池への生活排水の流入や護岸化などにより環境悪化。

カメムシ目 カタビロアメンボ科 0801502900200 ケシウミアメンボ <i>Halovelia septentrionalis</i> Esaki, 1926	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

体長1.5～2.4mm。♂は小形で卵形、♀は♂よりひとまわり大形で円みを帯びた菱形をしており、雌雄で形態は異なる。体色は黒く無翅。体表面にはビロード状の微毛を密生する。



提供：浴井 遥(2013.7.24撮影)

生息・生育状況

比較的波のおだやかな内湾で採集されることが多く、潮流の影響を受けにくい淀んだ場所を好むようである。水面をなめらかに滑走し、海水面に落ちた小昆虫などを捕食する。

選定理由

瀬戸内海に面する自然海岸の岩礁帯付近に生息しているが、波のおだやかな内湾は人の手が入りやすく、護岸工事により生息環境が悪化している。

減少等の要因

岩礁地帯に依存しており、海浜の汚染やコンクリート護岸化が進んでおり減少が危惧される。

カメムシ目 アメンボ科 0801502901000 ババアメンボ <i>Gerris (Gerris) babai</i> Miyamoto, 1958	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

体長7～9mmの小型で黒色の種である。本種には微翅型と長翅型が知られている。



生息・生育状況

ヨシ、ガマ等の抽水植物の多い池沼に生息しており、水面に落ちた小昆虫などを捕食する。動きは俊敏であるが、活動範囲は植物のある範囲に限られ、開放水面に出ることは少ない。

提供：伊ヶ崎 伸彦

選定理由

ヨシ、ガマなどの抽水植物の多い池沼に生息する。自然状態が保持されている池が、農業用水池として整備されることにより本種の生息に良好な場所も減少してくることが予想される。

減少等の要因

ヨシなどの抽水植物がある水辺に限って生息するため環境変化で壊滅する。

- 367 -

カメムシ目 アメンボ科 0801503400300 エサキアメンボ <i>Limnoporus esakii</i> (Miyamoto, 1958)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

体長♂7～9mm、♀9～11mm。体色は黒-赤褐色、腹部結合板は銀白色で細長く美しいアメンボである。触角は第4節がもっとも長い。



提供：相本 篤志(2017.8.3撮影)

生息・生育状況

ヨシやガマ、マコモなどの抽水植物の根際の水面で生活し、水面に落下した小昆虫を捕食する。生息環境がよければ多数の個体を見出すことができる。広範囲にわたって動き回することは少なく、解放水面に出ることはほとんどない。薄暗いヨシ原下の水面上でじっとしていることが多い。

選定理由

ヨシ、ガマなどの抽水植物の多い池沼に生息するが、池が農業用水池として整備されることにより本種の生息に良好な条件を満たすことができなくなりつつある。

減少等の要因

ヨシなどの抽水植物がある水辺に限って生息するため環境変化で壊滅する。

- 368 -

カメムシ目 ツチカメムシ科 0801505400200 シロヘリツチカメムシ <i>Canthophorus niveimarginatus</i> Scott, 1874	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

体長6～8mm。光沢のある黒藍色をしており、粗い点刻におおわれている。体の側縁はほぼ完全に、黄白色に細く縁取りされていることがその名の由来である。カナビキソウに寄生し、その根際に群生することがある。♀は卵を保護する習性がある。



提供：伊ヶ崎 伸彦(2016.6.11撮影)

生息・生育状況

本種の食草であるカナビキソウは、ススキに半寄生し、日あたりが良く定期的に草刈りがされて草丈が低く抑えられている草地に生える。山口県では秋吉台の草原の遊歩道脇で見つかった。

選定理由

秋吉台の植物相が、ススキやチガヤからササやセイタカアワダチソウへ変化しつつあり、食草のカナビキソウの減少が危惧されている。レッドリスト見直しに際し、新たに準絶滅危惧に選定した。

減少等の要因

カナビキソウが食草であり、秋吉台の草原環境維持が必要である。

- 369 -

カメムシ目 カメムシ科 0801505802000 クチブトカメムシ <i>Picromerus lewisi</i> Scott, 1874	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	DD
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：伊ヶ崎 伸彦】

オス・メスともほぼ同大で、体長12～16mm、暗褐色で黒い点刻がある。前胸背板の側角はトゲ状に鋭く尖る。腹板の4～7節の中央に黒紋が1個ずつある。チョウ類やガ類などの幼虫や小昆虫を捕食する。成虫で越冬する。



提供：伊ヶ崎 伸彦(2016.10.23撮影)

生息・生育状況

山地帯の草むらや樹林に生息するが、林縁部の樹葉上で見かけることが多い。

選定理由

県内では山間地で普遍的に見かけていたが、森林伐採などによる生息環境の悪化により、減少している。

減少等の要因

樹林の林縁部に生息しており、伐採などにより環境が悪化。

- 370 -

コウチュウ目 オサムシ科 0801600401400 アイヌハンミョウ <i>Cicindela (Cicindela) gemmata aino</i> Lewis, 1891	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	NT

形態・生態

体長16～17mm。体色は暗緑色で、上翅の前方と後方に2対の白点があり、中央には波型になった白帯が入る。翅端にも側縁に沿うように白色の班紋がある。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：樋口 尚樹(2015.5.28撮影)

生息・生育状況

大きな河川の河原に生息し、成虫は3月下旬～6月に河原の石の上や草の上などに見られる。生態の詳細は不明。

選定理由

県内では山口市・周南市・宇部市に記録があり、産地では個体数は多いが、局地的である。

減少等の要因

大きな河川で大規模な堆積土砂の除去や豪雨による氾濫・河川改修工事が行などが考えられる。

- 371 -

コウチュウ目 オサムシ科 0801600419900 ミズギワアトキリゴミムシ <i>Demetrius marginicollis</i> Bates, 1883	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

体長5～6mm。体色は、頭部は黒褐色でそれ以外は黄褐色をしている。上翅には会合線に沿って暗褐色の長紋がある。跗節は広がっている。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

県内では標高の高い山地周辺の草原に生息する。7月に記録があり、灯火にも飛来する。生態の詳細は不明。

選定理由

県内では岩国市の中国山地と山口市阿東での3例の記録しかなく、近年の記録はない。

減少等の要因

草原の維持が保たれず藪化や森林化したことが要因だと考えられる。

- 372 -

コウチュウ目 ゲンゴロウ科 0801600701100 コガタノゲンゴロウ <i>Cybister (Cybister) tripunctatus lateralis</i> Fabricius, 1798	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 DD
	環境省	2019 VU

形態・生態

体長24～29mm。体型は長卵型。背面は緑色もしくは褐色を帯びた黒色。マルコガタノゲンゴロウ*Cybister lewisianus* に似るが体型が細長く、体の下面がマルコガタノゲンゴロウは黄褐色であるが、本種は黒褐色であることで区別できる。♂の前脚附節は肥大する。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：後藤 和夫(2018.10.5撮影)

生息・生育状況

平野から低山地にかけて、水生植物が豊かな放棄水田や池沼などに生息する。飼育下では成虫の寿命は2年～3年とされているが、生態の詳細については不明。

選定理由

県内では1954年の光市の記録が唯一であった。2009年以降に各地で記録され、九州方面から飛来した一群ではないかと考えられている。このまま繁殖できるのか注目したい。

減少等の要因

1970年以前は普通に見られたそうだが、その後農薬による水質汚染や池の改修工事、外来魚などにより絶滅状態になった。2009年以降に数が増えているが、理由は分かっていない。

- 373 -

コウチュウ目 ゲンゴロウ科 0801600701200 クロゲンゴロウ <i>Cybister (Melanectes) brevis</i> Aubé, 1838	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 DD
	環境省	2019 NT

形態・生態

体長23～24mm。体型は長卵型。体色は全体に黒っぽいのが、頭楯は暗褐色で体下面は黒色。頭部はかなり密に、前胸背板は疎らに点刻される。♂の前脚附節は肥大する。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：後藤 和夫(2018.10.5撮影)

生息・生育状況

水生植物が豊かな池沼に生息する。成虫は5月～11月に採れているが、新成虫は8～9月に出現し、成虫で越冬する。

選定理由

県内では山口市・岩国市・萩市・下関市・宇部市と広く分布しているが、生息地は極めて局所的であり、数も少ない。

減少等の要因

池沼の放置で、底に落ち葉などが堆積し水質が悪化と、外来魚の放流により餌となっていることが要因と考えられる。

- 374 -

コウチュウ目 クワガタムシ科 0801601900400 ヒメオオクワガタ <i>Dorcus montivagus montivagus</i> (Lewis, 1883)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

体長は♂26～38mm、♀23～35mm。体色は光沢のない黒色。♂の大アゴは4～11mmで大型から小型まで変異が多く、中央前に斜め内上方に向く内歯がある。前胸背板側縁の後方1/3に小歯状突出があり、それより前方はやや広がり、後方は急激に狭まる。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

標高の高いブナ帯に生息し、成虫は6月～10月まで見られ、成虫越冬する。倒木上やヤナギ・ヤマブドウの樹液で発見されることが多い。

選定理由

生息地は極めて局所的で個体数も少ない。

減少等の要因

生息地では、ブナの立ち枯れや倒木が少なくなっていることや採集圧も考えられる。

- 375 -

コウチュウ目 コガネムシ科 0801602102900 ゴホンダイコクコガネ <i>Copris (Copris) acutidens</i> Motschulsky, 1860	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	VU
	環境省	2019	-

形態・生態

体長10～16mm。体色は黒色で光沢が強い。♂には頭部に1本と前胸背板の前方中央付近に1対、その両側に1対の角状突起があり、♀は頭部に先端が鋭い角1本と前胸背板前方に4隆起がある。

【執筆者：椋木 博昭】



提供：後藤 和夫(2016.8.22撮影)

生息・生育状況

4月～10月に山地や高原および牧草地に生息し、獣糞より見つまっている。

選定理由

牧場の牛糞や山地のシカ糞などに依存し、県内では採集例が少ない。

減少等の要因

牧場の衰退と餌料の変化による牛糞の軟便化が要因であると考えられる。

- 376 -

コウチュウ目 コガネムシ科 0801602110700 クロカナブン <i>Rhomborhina (Rhomborhina) polita</i> Waterhouse, 1875	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長26～33mm。体色は光沢のある黒色。中胸腹板突起は幅広で、後脚転節は左右が接合する。



提供：後藤 和夫(2015.8.28撮影)

生息・生育状況

平地の雑木林に生息し、成虫は7月～9月上旬にかけてクヌギの樹液などに見られる。

選定理由

県内の産地は、極めて局地的で個体数も少ない。

減少等の要因

雑木林の減少と樹液の減少によるクヌギが減少していることが考えられる。

コウチュウ目 コガネムシ科 0801602112100 オオチャイロハナムグリ <i>Osmoderma opicum</i> Lewis, 1887	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長26～36mm。体色は茶褐色で鈍い金属光沢がある。前胸背板は密に点刻され、中央には1対の縦隆起があるが、♀の隆起は弱く、点刻はより大きい。臭気を放つ。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

標高の高い、大木のある原生林に生息し、成虫は7月～8月に古木の樹洞内やその周囲に見られる。

選定理由

県内では岩国市で1例の記録があるだけであるが、標高の高い古木の樹洞で発生するため、そのような環境は極端に限られる。

減少等の要因

樹洞がある大木が残っている森林は、伐採により消失したことが要因と考えられる。

コウチュウ目 コガネムシ科 0801602112800 オオヒラタハナムグリ <i>Neovalgus fumosus</i> (Lewis, 1887)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長7～10mm。体は黒色で、♂は上翅の前半と前尾節板の後半および尾節板中央には鱗毛からなる黄色紋がある。♀は一樣に黒色または上翅に不明瞭な灰白紋があり、尾節板の先端に長い棘状突起がある。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

県内では、標高の高い山地の広葉樹林に生息し、7月～8月に♂はシシウドなどの花に集まり、♀は古木の樹洞内やその周辺で見つかる。

選定理由

標高の高い広葉樹林帯で古木の樹洞で発生するため、県内でそのような環境がある場所は極限される。

減少等の要因

樹洞がある大木が残っている森林は、伐採により消失したことが要因と考えられる。

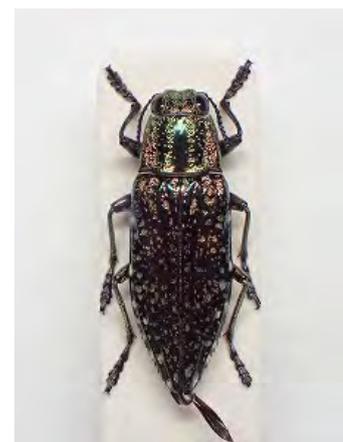
- 379 -

コウチュウ目 タマムシ科 0801602400300 クロマダラタマムシ <i>Nipponobuprestis (Nipponobuprestis) querceti</i> (E.Saunders, 1873)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長17～28mm。体色は暗赤褐色で上翅に大小の黄色紋を散布し、側縁部後方は鋸歯状。アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis amabilis* に似るが前胸背板の中央に幅広い黒色帯があること、上翅に2対の丸い陥没紋がないことで区別できる。



提供：下野 誠之

生息・生育状況

平地から低山地の照葉樹林に生息し、エノキの枯材につき、成虫は5月～7月に現れる。

選定理由

県内では山口市・萩市・岩国市での数例しか記録がない。県内に広く分布していると思われるが、エノキの立ち枯れや太い枝で発生しているため、極めて局所的で発生地での個体数も少ない。

減少等の要因

エノキの存在が不可欠であるが、エノキは公園や墓地などに多く、そのようなところでは枯木になるとすぐに伐採されて処分されるために、本種の食樹とならないことが考えられる。

- 380 -

コウチュウ目 タマムシ科 0801602403800 キンイロエグリタマムシ <i>Endelus (Endelus) collaris collaris</i> (E.Saunders, 1873)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	DD
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長4.5～6mm。頭部と前胸背板は赤銅色で上翅は暗緑色。前胸背板は中央前で広く、側縁は後角前で波曲し、中央に横長に幅広い溝がある。



提供：下野 誠之

生息・生育状況

平地から低山地のシダ類につき、成虫は5月に見られる。岩国市ではベニシダより採られている。

選定理由

県内では極限られた場所で確認されている。

減少等の要因

食草は広く分布しているが、本種が生息している場所は限られていて、その理由は不明である。

- 381 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609206300 フタコブルリハナカミキリ <i>Stenocorus (Eutoxotus) caeruleipennis</i> (Bates, 1873)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長17～25mm。体色は黒色で、上翅は青藍色で鈍い金属光沢がある。前胸背板の前後縁は黄色で、中央には2対のコブがある。脚は黒色から黄色まで変異があるが高地のものは黒色で、低地のものは黄色になる傾向がある。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

低山地から山地の温帯樹林に生息し、成虫は5月～7月にミズキ・シシウド・リョウブ・ノリウツギなどの樹木の白い花に集まる。

選定理由

県内に広く分布しているが、どの産地でも個体数は極めて少ない。

減少等の要因

竹や蔓性植物の勢力拡大により、山林が荒廃していることが考えられる。

- 382 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609211400 トラフカミキリ <i>Xylotrechus (Xyloclytus) chinensis kurosawai</i> Fujita, 2010	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
	環境省	2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長17～26mm。頭部・前胸背板前縁・脚・は黄褐色で、上翅は黄褐色の地色に小楯板より黒帯が3本斜めに入り、翅端より上部に1本の真っ直ぐな黒帯がはいる。



提供：後藤 和夫(2016.7.6撮影)

生息・生育状況

平地から低山地のクワ畑に生息する。成虫は6月～9月に見られ、クワの生木の幹に止る。

選定理由

本県では産地は極めて局地的で、美祢市・萩市・山口市・光市の限られた場所のみである。

減少等の要因

各地で行なわれていた養蚕業のクワの害虫として有名であったが、養蚕業が衰退しクワ畑も減少して、本種の生息地は極めて局地的になった。

- 383 -

コウチュウ目 カミキリムシ科 0801609225100 イッシキキモンカミキリ <i>Glenea (Glenea) centroguttata</i> Fairmaire, 1897	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
	環境省	2002 -
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長11～16mm。体色は黒色で上翅には4対のあざやかな黄色紋があるほか、肩後部と中央両側にも小紋があり、翅端も黄色で外角が棘状に突出する。



提供：五味 清(2018.8.2撮影)

生息・生育状況

山地の広葉樹林に生息し、成虫は6月～8月にヤマグワの葉を後食する。生態の詳細については不明。

選定理由

ヤマグワの葉に縦筋状の食痕を残すので調査は容易であるが、ヤマグワの木は減少していないのに食痕が見つからなく、減少しているものと思われる。

減少等の要因

生態が不明のため、減少の要因は分からない。

- 384 -

コウチュウ目 ハムシ科 0801609500900 キンイロネクイハムシ <i>Donacia japona</i> Chûjô et Goecke, 1956	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	DD
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長7～9mm。体色は金緑色。上翅には細い横シワがあり、前胸背板には強い点刻がある。上翅中央には赤銅色の縦条がある。



提供：後藤 和夫(2010.5.26撮影)

生息・生育状況

湿地生植物が茂る池沼に生息し、成虫は4月～10月まで見られ、ミクリの葉を後食する。

選定理由

池沼に自生するミクリ類に依存しているため生息地は限られるが、生息地での個体数は少なくない。

減少等の要因

生息地での個体数は多いが、池沼に自生するミクリ類に依存しているため、生息範囲は狭く、環境が急変すれば、その地域は絶滅する恐れもある。

- 385 -

コウチュウ目 ミツギリゾウムシ科 0801609800100 ミツギリゾウムシ <i>Baryrhynchus (Eupsalomimus) poweri</i> (Roelofs, 1880)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：椋木 博昭】

体長11～24mm。体色は光沢のある黒色。上翅は強く点刻され4対の赤紋がある。♂の大アゴは左右で0字状になり、♀の口吻は長い。



提供：椋木 博昭

生息・生育状況

低山地から山地の樹林に生息し、成虫は6月～9月に倒木上で見つかる。

選定理由

県内では下関市・山口市・宇部市・萩市・岩国市と広く分布しているが、個体数は多くない。

減少等の要因

林業が盛んであったころは、山の中に貯木場があり、積み上げられた木材には本種をよく見かけたが、近年は貯木場も見かけない。

- 386 -

アミメカゲロウ目 カマキリモドキ科 0801900500200 ツマグロカマキリモドキ <i>Austroclimaciella quadrituberculata</i> (Westwood, 1852)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：福田 竹美】

体長20～25mm程度。前翅長18mm前後で、開翅長は32mm内外。一般に♂は♀よりやや小さい。オオカマキリモドキに似るが、やや小型であることと前後翅の翅端部が暗褐色をしており、判別は比較的容易である。



提供：後藤 和夫(2016.7.6撮影)

生息・生育状況

主に明るく開けた草原に生息する。クヌギの若木やネムノキ、ススキやヨモギの葉あるいは草花に止まっているのがよく観察される。年1化性で、成虫は7月の半ば頃から出現し、9月の下旬まで見られる。昼行性でアシナガバチによく似ており、擬態しているものと思われる。

選定理由

産地が局地的で、山口県では秋吉台で確認されているだけであり、個体数も多くない。

減少等の要因

草原の維持管理不足などが影響している。

- 387 -

ハチ目 ギングチバチ科 0802004000200 ニッポンハナダカバチ <i>Bembix niponica</i> Smith, 1873	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	VU
	環境省	2019	VU

形態・生態

【執筆者：中村 孝】

♂♀とも体長20～24mm。体は黒色で黄白色の特異な斑紋が多い大型種である。翅は透明である。上唇が長く、突き出ているのが特徴で名前の由来となっている。成虫は夏季に見られ、きめの細かい砂地に営巣するため、主な生息環境は海岸や河岸、湖岸の水はけの良い砂浜や河川の堆砂地であるが、ときに内陸部の牧場や人家周辺にも生息することがある。幼虫の餌としてアブ、ニクバエ、キンバエ、ハナアブ、コウカアブ類が知られている。



提供：中村 孝(2016.7.30撮影)

生息・生育状況

山口市、萩市、阿武町で確認されている。いずれの生息地でも個体数は少ない。確認されている生息地のうち、工事による消滅のおそれのある場所があるが、ほかには現在のところ人為的な環境変化の懸念は多くないと考えられる。

選定理由

本種の生息適地が限られている上、工事や開発などの影響または洪水や海岸浸食などによる急激な改変に晒される不安定な環境であることから、近い将来絶滅の危惧が高まるおそれがある。

減少等の要因

護岸工事などによる砂地の減少など、近年の環境変化が本種減少の主要な原因と考えられる。

- 388 -

ハチ目 ギングチバチ科
0802004001100

キアシハナダカバチモドキ

Stizus pulcherrimus (Smith, 1856)

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	NT
環境省	2019	VU

形態・生態

体長17～22mmの大型種。頭部は黒色で両複眼内縁付近に淡黄斑をもつ。頭盾は黒色で前方部は黄色、胸部は黒色で前胸背板には黄色帯がある。腹部第1節から5節に黄白色から白色の斑紋がある。肢が赤褐色、翅は基部を残し、黒褐色を帯びる美麗種である。成虫は夏季に見られ、低地の河岸などに局所的に生息し、攪乱された裸地の地中に営巣する。川辺の土手に生えているヤブガラシの花に成虫が飛来したという記録がある。幼虫のえさとしてバツタ、ササキリ類が知られている。

【執筆者：中村 孝】



提供：後藤 和夫(2018. 8. 17撮影)

生息・生育状況

最近では岩国市と山口市で確認されているほか、宇部市にも古い記録がある。岩国市では夜間採集の際、LEDライトに照らされた白布に静止していた個体が採集されている。山口市ではここ数年学校のグラウンドで数個体、確認されている。いずれの生息地でも個体数は極めて少ない。

選定理由

本種の生息適地が限られている上、工事や開発などの影響または、洪水や海岸浸食などによる急激な改変に晒される不安定な環境であることから、近い将来絶滅の危惧が高まるおそれがある。

減少等の要因

護岸工事などによる砂地の減少など、近年の環境変化が本種減少の主要な原因と考えられる。

- 389 -

ハチ目 ミツバチ科
0802004110700

キバラハキリバチ

Megachile xanthothrix Yasumatsu & Hirashima, 1964

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	VU
環境省	2019	NT

形態・生態

体長♂15～16mm、♀16～18mm。体は黒色で腹部背面は黄褐色のピロード毛でおおわれる。覆面の毛は基部が金色で末端に向かい暗色となる。ほかのハキリバチとは一見して区別ができる。主に河川敷や海浜周辺に生息し、成虫は夏から秋にかけて出現する。砂地に穿孔して営巣する。

【執筆者：中村 孝】



提供：中村 孝(2016. 12. 12撮影)

生息・生育状況

最近では山口市と萩市で生息が確認されているほか、宇部市にも古い記録がある。いずれの生息地でも個体数は少ない。

選定理由

本種の生息適地が限られている上、工事や開発などの影響または、洪水や海岸浸食などによる急激な改変に晒される不安定な環境であることから、近い将来絶滅の危惧が高まるおそれがある。

減少等の要因

護岸工事などによる砂地の減少など、近年の環境変化が本種減少の主要な原因と考えられる。

- 390 -

ハエ目 ハナアブ科 0802302808900 オオシマハナアブ <i>Sericomyia sachalinica</i> Stackelberg, 1926	カテゴリ	
	山口県	2018 NT 2002 VU
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：柿沼 進】

体長15mm内外のやや大型のハナアブ。黒色で光沢があり、腹部に黄白色の横帯があるが第2節のそれは細く、しばしば中央で途切れる。翅の末端はやや暗色。触角刺毛は羽毛状。



提供：柿沼 進

生息・生育状況

山口県では岩国市錦町でのみ採集される。その場所では個体数は多くないものの繰り返し採集されている。

選定理由

山口県では生息地が局限されており、生息密度も高くないことから、少しの環境変化でも大きな影響を受ける可能性がある。

減少等の要因

もともと生息密度が高くないようであり、減少しているか否かは不明。

- 391 -

ハエ目 ニクバエ科 0802304901800 ゴヘイニクバエ <i>Sarcophila japonica</i> (Rohdendorf, 1962)	カテゴリ	
	山口県	2018 NT 2002 -
	環境省	2019 VU

形態・生態

【執筆者：柿沼 進】

体長7~10mm程度の小型のニクバエ。ずんぐりした体形で、腹部に「山」の字状の暗色の斑紋が並ぶ。海浜性で面積の広い砂丘に生息し、コウボウムギやハマボウフウなどの海浜植物が生える砂地に生息する。腐肉や獣糞に誘引される。幼虫期の生態はまったく不明。



提供：柿沼 進(2007.9.9撮影)

生息・生育状況

北海道から九州の主に日本海側の規模が大きな海浜砂丘に生息する。山口県では山陰の離島にのみ局限して生息している。当島では調査のたびに採集され、比較的安定している。

選定理由

規模の大きな自然度の高い砂丘を好むが、そのような環境は全国的に減少している。角島の産地は比較的安定しているが、非常に局所的に生息しており、少しの環境改変で大きな影響を受けやすい。

減少等の要因

山口県では産地が非常に狭い範囲に限定されているが、現時点では安定して発生している。

- 392 -

トビゲラ目 シマトビケラ科 0802400701100 シロフツヤトビケラ <i>Parapsyche maculata</i> (Ulmer, 1907)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：後藤 益滋】

終齢幼虫の体長は30mm程度で、近縁種では大型の部類に入る。成虫の前翅長は10mm程度で、白小斑が点在している。



提供：後藤 益滋

生息・生育状況

氷河期残存種で、主な生息地は標高が500m程度の山地溪流である。幼虫は、山地溪流の礫床に巣を形成し、初夏から晩秋にかけて羽化した個体は、生息地周辺を飛翔する。

選定理由

佐波川上流の支川のみが生息が確認されている。局所的な生息地のため、開発行為などによって生息場所が破壊される可能性が否定できない。

減少等の要因

原因は不明である。

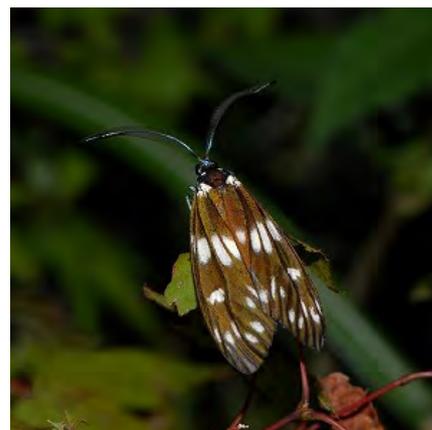
- 393 -

チョウ目(ガ) マダラガ科 0802503201000 オキナワルリチラシ <i>Eterusia aedeia</i> (Clerck, [1763])	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	VU
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：村田 淳】

開翅長60~70mm。その和名が示すように、前後翅をはじめ、触角・頭部・胸部・脚部に至るまで、部分的に瑠璃色の金属光沢を有する。産地により、色彩に変異があり、本州産の個体は、前翅の地色が緑味を帯びた赤褐色で、中央を白帯がはしり、外縁にかけて白斑が点在する。♂・♀ともに櫛状の触角だが♂の方が櫛歯は長く、扁平に広がる。幼虫は体にふれたり、危険を感じると、体表から毒物を分泌する習性があり、成虫も捕まえると、胸部から大量の泡状の液体をだす習性がある。



提供：重中 良之(2016.9.1撮影)

生息・生育状況

食餌植物はツバキ・サカキ・ヒサカキ・チャノキなどのツバキ類、ミミズバイ・ツツジなどの常緑広葉樹で、これらが豊かな山間部に生息している。昼飛性だが夜間も活動し、灯火によく飛来する。成虫の出現は9月で本州・四国・九州・隠岐・対馬・琉球列島に分布し、県内では萩市と山口市に記録がある。

選定理由

2002年に絶滅危惧Ⅱ類に選定後、山口市の山間部一帯で新たな産地が報告された。しかし、幼虫食餌植物は県内各地で豊富に自生するが分布域は当時の範囲内に留まり、個体数も安定しない。

減少等の要因

山口県内では、温暖ではない地域に生息しているため、気温の上昇傾向が生息に影響を与えるものと推測する。

- 394 -

チョウ目(ガ) ツトガ科 0802504304700 ハネホソトガリミズメイガ <i>Eristena</i> sp.	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	-

形態・生態

【執筆者：村田 淳】

開翅長20～25mmで前翅の翅頂はとがり、♂の後翅後縁の中心付近は強くえぐれる。夜間には灯火に飛来することもある。



提供：村田 淳(2016.9.19撮影)

生息・生育状況

生息地は水質の良い河川の上流域である。近年、河川改修により生息域近辺の土砂や繁茂した植物が除去されたものの、絶滅には至っていない。

選定理由

本州では山口県が唯一の産地であり、生息地は局所的で個体数が少ないため。

減少等の要因

水質の悪化、あるいは食餌植物の減少。

- 395 -

チョウ目(ガ) シャクガ科 0802505420800 アキヨシトガリエダシャク <i>Hypoxystis pulcheraria</i> (Herz, 1905)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	-
	環境省	2019	VU

形態・生態

【執筆者：重中 良之】

開翅長21～23mm。全身黄褐色の地色で、前後翅には細い茶褐色の条斑が走っている。その名が示すように、前翅の翅端部は尖る。♂の触角は櫛状で♀は糸状である。夜間の灯火へは弱い光にも誘引されやすい性質がみられる。



提供：重中 良之(2018.8.9撮影)

生息・生育状況

現在、生息確認されているのは、秋吉台と福岡県の平尾台のみで、いずれもカルスト草原であることから、石灰岩地帯特有の植物や環境に関係深い生態かもしれない。成虫は6月～7月と8月～9月に発生する年2化と推測されていたが4月にも確認されるなど、詳しい生態や幼虫食餌植物は不明である。

選定理由

国内では福岡県の平尾台と秋吉台でしか生息確認されていない。

減少等の要因

本種の生息する環境は、カルスト草原のみであり、石灰岩地帯特有の植物や環境に関係深い生態であることが推測されるが、草原の植生遷移の進行などによる影響が懸念される。

- 396 -

チョウ目(ガ) シヤチホコガ科
0802505504200

カバイロシヤチホコ

Ramesa tosta Walker, 1855

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	-
環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：重中 良之】

開翅長は38mm前後。前翅の地色は橙色がかった樺色で、前縁から後縁にかけて黒っぽく縁取られる。後翅は全体に淡褐色をしている。♂の触角は櫛歯状になっているが♀は細い糸状である。



提供：重中 良之(2017.6.11撮影)

生息・生育状況

1973年に岩国市美和町の記録があるが以降は記録はなく、現在は秋吉台のみで確認できる。食餌植物は、県内のどこにでも自生するイネ科のメヒシバが知られるが、本種は広大な草原にしか生息しない。年2化で成虫は5月～6月と7月～8月に発生する。

選定理由

1973年に岩国市美和町での記録があるが、以降は記録がない。現在確認できるのは秋吉台のみであるが、確認できる個体数は非常に少なく、生息数はきわめて少ないと推測される。

減少等の要因

食草はどこにでも自生するイネ科のメヒシバであるが、全国的に生息地は規模の大きな草原であることから、この草原のササ類の勢力拡大など、植生遷移の進行などによる影響が懸念される。

- 397 -

チョウ目(ガ) ヤガ科
0802506038000

ダイセンセダカモクメ

Cucullia mandschuriae Oberthür, 1884

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	DD
環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：重中 良之】

開翅長31～37mm。胸部背面に突き出す毛塊があり、前翅の地色は淡褐色で銀色ににぶく輝く。前翅中央に白い筋を配する。後翅は均一的にうすい茶褐色である。



提供：重中 良之(2017.8.29撮影)

生息・生育状況

火山性の草原やカルスト草原に生息する。成虫は9月に出現する。幼虫食餌植物はキク科のノコンギクとユウガギクが知られる。本州・九州に分布する。山口県では秋吉台でのみ生息確認されている。

選定理由

2002年に情報不足種として選定以降、注視されたが秋吉台以外では確認されていない。植生遷移の進行などによる影響が懸念される。

減少等の要因

全国的に草原が保存された場所ではしか生息しない本種であるが、秋吉台では食草のヨモギ類を淘汰すると懸念されるササ類の勢力拡大など、植生遷移の進行などによる影響が懸念される。

- 398 -

チョウ目(ガ) ヤガ科 0802506038200 ギンモンセダカモクメ <i>Cucullia jankowskii</i> Oberthür, 1884	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 DD
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：重中 良之】

開翅長は35mm前後。胸部背面に突き出す毛塊があり、前翅は光沢のある銀白色の地色に金褐色の斑紋が走り美しい。後翅は白色で、外縁部にむかって徐々に黒褐色に移行するが外縁を縁取る縁毛は純白である。



提供：重中 良之(2017.8.29撮影)

生息・生育状況

ヨモギ類の多い川土手や河川敷周辺、あるいは草原などに生息する。年1化で、成虫は8月～9月に出現する。キク科のヨモギやオオヨモギを食草にしている。山口県唯一の生息地である秋吉台ではサイヨウシャジンを好んで訪花することが知られている。北海道・本州・四国・九州と対馬に分布する。

選定理由

前・後述のセダカモクメ類と比較すると、安定しており発生数も多い。現時点での絶滅の危険性はないが、県内では秋吉台のみにしか生息しておらず、植生遷移の進行などによる影響が懸念される。

減少等の要因

秋吉台では、食草のヨモギ類を淘汰すると懸念されるササ類の勢力拡大など、植生遷移の進行などによる影響が懸念される。

- 399 -

チョウ目(ガ) ヤガ科 0802506038500 アオモンギンセダカモクメ <i>Cucullia argentea</i> (Hufnagel, 1766)	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 DD
	環境省	2019 NT

形態・生態

【執筆者：重中 良之】

開翅長は38mm前後。胸部背面に角かトサカのように突き出す毛塊があり、前翅は銀白色の地色にやや金属光沢のある抹茶色の太い網目状となった斑紋があざやかで美しい。後翅は白色で、外縁部にむかって徐々に黒褐色に移行するが外縁を縁取る縁毛は純白である。



提供：重中 良之(2016.9.10撮影)

生息・生育状況

ヨモギ類の多い川土手や河川敷周辺、あるいは草原などかなり限定的な環境に生息する。成虫は9月～10月に出現する。食草はキク科のカワラヨモギが知られる。山口県唯一の生息地である秋吉台では、サイヨウシャジン・サワヒヨドリ・ヤマハギへの訪花が確認されている。

選定理由

2002年に情報不足種として選定以降、注視されたが秋吉台以外では確認されていない。秋吉台においても確認されない年もあり、生息個体数は少ないと推測される。

減少等の要因

秋吉台では食草のヨモギ類を淘汰すると懸念されるササ類の勢力拡大など、植生遷移の進行などによる影響が懸念される。

- 400 -

チョウ目(チョウ) セセリチョウ科
0802600101100

スジグロチャバネセセリ

Thymelicus leoninus (Butler, 1878)

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	VU
環境省	2019	-

形態・生態

小型のセセリチョウで、表翅の地色は濃橙色で裏面はやや淡い。前後翅の翅脈と外縁は暗褐色をしている。♂は前翅中室下方に性標を有する。♀の斑紋色彩はヘリグロチャバネセセリと酷似し、判別には熟練を要する。年1回、7月上旬より出現する。明るい草原を好み、疎林や林縁部に多く、好天時には活発に飛翔し、ヒメジョオンやウツボグサなどの花を訪れて吸蜜する。また、溪流沿いの草地にも発生する。1齢幼虫で越冬する。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2016.7.5撮影)

生息・生育状況

平地から低山地の明るい草原を好み、疎林や林縁部に多い。岩国市・周南市・下松市・山口市・美祢市・萩市など県中央部から東、北部に生息地が集中している。

選定理由

産地は各所に点在するが、いずれも個体数は少なく、発生状況が不安定である。

減少等の要因

草地や疎林の放置により、植生遷移の進行のため生息環境が荒廃したことによる。

- 401 -

チョウ目(チョウ) シロチョウ科
0802600300400

スジボソヤマキチョウ

Gonepteryx aspasia Ménétrière, 1858

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	NT
環境省	2019	-

形態・生態

中型のシロチョウで、翅表は♂は濃黄色、♀は黄白色をしている。近縁種のヤマキチョウ(西日本には生息しない)と酷似するが、これに比べ全体に色調が淡い。年1回、6月上旬から下旬に出現し、しばらく活動したあと軽い夏眠に入り、秋季に活動を再開した後、引き続いて冬眠に入る。冬眠後の3月頃の成虫は翅の裏面に汚れが目立つ。山地の路傍や草原に咲くオカトラノオ・アザミなどの花を訪れ吸蜜する。♂は吸水や獣糞で吸汁することもある。食樹はクロウメモドキ科のコバノクロウメモドキ。成虫で越冬する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2015.6.4撮影)

生息・生育状況

山地性の種で、食餌の自生する落葉広葉樹林帯の溪谷部などに生息する。山口県では岩国市の山間部を中心に、山口市と周南市の県境部にも生息するが、確実な産地は中国山地沿いのみ。

選定理由

1980年代後半から減少傾向にある。岩国市錦町以外は確認事例が少ない。

減少等の要因

食樹の自生する山林が伐採され、そのあとに植林されたスギ、ヒノキの生育により、生息地が狭められた。

- 402 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600400500

ルーミスシジミ

Arhopala ganesa (Moore, [1858])

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	VU
環境省	2019	VU

形態・生態

小型のシジミチョウで、翅表面は明るい青藍色、裏面は灰色から灰褐色の輪状紋を備えている。ムラサキシジミに似ているが、一般に小型で、翅表の青藍色紋は明るく青味が強い。また裏面の地紋が鮮明で、輪状紋が目立つなどで区別できる。年1回、7月～8月に発生し、林縁の木陰の低い小木葉上などによく止まる。幼虫の食樹は、ウラジロガシ、イチイガシなどのカシ類で、成虫で越冬する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2017.11.9撮影)

生息・生育状況

カシ類などを主とした高木の茂る常緑広葉樹林中、日中でも強い日光が差し込まず、ところどころに木漏れ陽が当たるような場所に生息する。全国的に産地は極めて限られており、萩市と山口市の溪谷沿いは、数少ない生息地のひとつとして知られている。

選定理由

全国的にも、また地域個体群としても分布域が極めて限定される貴重な種であり、個体数も少ない。一時期生息地の伐採により生息環境は悪化したのが、伐採をしなくなって回復の兆候が見られる。

減少等の要因

生息環境である常緑自然林が伐採などで消失したことに加え、貴重種としての強い人気が集積圧に拍車をかける傾向にある。

- 403 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600400700

ウラキンシジミ

Ussuriana stygiana (Butler, 1881)

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	NT
環境省	2019	-

形態・生態

中型のシジミチョウで、翅表は無紋で黒褐色、裏面は黄金色で、中には暗化する個体もある。年1回、西日本の暖地では6月上旬より発生する。昼間はあまり飛ばず葉上で静止しているか、飛び立ってもゆるやかにすぐに葉上に止まるが、16時頃から活発に飛び回るようになり、17時から19時頃が活動のピークとなる。食樹はトネリコやアオダモなど。卵で越冬する。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2011.6.14撮影)

生息・生育状況

食樹が自生する落葉広葉樹林の溪谷沿いに生息する。日本特産種で、山口県では岩国市錦町の中国山地などを中心に生息している。

選定理由

岩国市錦町の限られた山塊に分布するが、近年は飛翔個体も少なく、個体数の減少が危惧されている。

減少等の要因

森林開発などでかなりの食樹が伐採され、その跡地にスギやヒノキを植林をしたことにより生息環境が消失している。また、採卵に伴う食樹伐採などの採集圧も原因となっている。

- 404 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600401400

ウラクロシジミ

Iratsume orsedice (Butler, [1882])

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	NT
環境省	2019	-

形態・生態

中型のシジミチョウで、斑紋は、翅裏面では♂♀ほぼ同じであるが、翅表では、♂は銀白色、♀は外縁部が広く黒色をしている。年1回、暖地では5月下旬～6月下旬に出現する。日中は葉上で静止している。♂の活動は15時頃から始まり、時間経過とともに数を増し、日没の頃が最盛期となる。飛翔は低木の間を縫いながら、まるで蝶道をたどるかのように、ほぼ一定の方向から次々に飛来する。越冬態は卵、幼虫の食樹は、マンサクである。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2012. 6. 17撮影)

生息・生育状況

食樹のマンサクが多く自生する渓谷沿いや谷あいの斜面に広がる落葉広葉樹林に生息する。山口県では県境の渓谷部に生息する。

選定理由

県内の生息地は、極めて局地的であり、環境変化などによりその個体数が減少してきており、一時期のような数多くの飛翔個体は確認できなくなっている。

減少等の要因

伐採による食樹の消失及び伐採後、放置された山に新たに植林されたスギやヒノキが繁茂し、本種の好む開放的な空間が消失したことなど生息環境の変化があげられる。

- 405 -

チョウ目(チョウ) シジミチョウ科
0802600403600

シルビアシジミ

Zizina emelina (de l'Orza, 1869)

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	VU
環境省	2019	EN

形態・生態

小型のシジミチョウで、♂の翅表は紫を帯びた青藍色をしており、♀は暗褐色をしているが、春と秋に出現する♀は基部に青藍色斑を生じる。ヤマトシジミに似ているが、やや小型で前翅裏面の奥に黒点がないことや、前後翅垂縁の斑紋列がくさび状を呈することで判別できる。大半の地域では4月中旬～11月にかけて5回から6回程度の発生を繰り返す。一般に個体数は春より夏から秋へと多くなる。食草のまわりを低く活発に飛び交い、♂は追飛する習性を持つが、縄張りは持たない。食草はミヤコグサである。越冬態は幼虫。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2018. 9. 6撮影)

生息・生育状況

食草が自生する川土手や河川敷、道路脇の土手や田畑の畔、あるいはため池周辺の草地など人の手が入った草丈の低い明るい草地を好む。生息地は、山陽小野田市、宇部市、美祢市、山口市などの県西部から中央部に集中する。最西端の下関、県東部、北部は局所的である。

選定理由

かつては県内各地に産地があったが、現在は古い既産地の多くで確認できなくなっている。一方、最近の調査で新たな生息地が次々と見つかっているが、いずれも規模は小さい。

減少等の要因

草地や田畑の放棄により明るい草地が減少している。また、各種開発工事や農地改良に伴う圃場整備、ほか野焼きによる食草の生育環境が悪化。

- 406 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600500700

オオウラギンスジヒョウモン

Argyronome ruslana (Motschulsky, 1866)

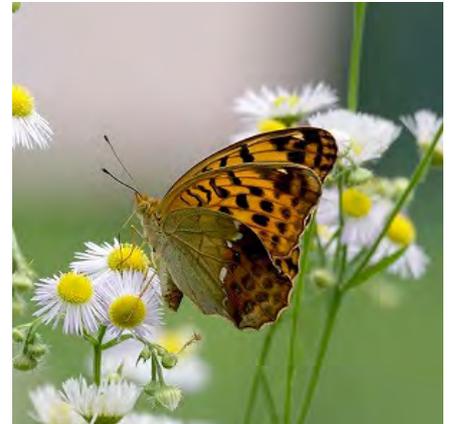
カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	-
環境省	2019	-

形態・生態

ヒョウモン類では大型の種で、斑紋に性差はないが、♂の翅表は濃橙色。♀はやや赤みの少ない橙色で、♀の翅表の黒斑は♂に比べて大きい。また、♀の前翅端近くには三角形の小白斑がある。ウラギンスジヒョウモンに似ているが、本種は前翅先端部の突出が強く、長細く見える。年1回の発生で、6月下旬頃から出現する。羽化後1ヶ月程度で夏眠(あるいは不活動状態)に入り、9月上旬～10月上旬にかけて活動を再開する。飛翔は非常に敏速で、行動範囲も広い。卵で越冬する。

【執筆者：五味 清】



提供：後藤 和夫(2015.7.11撮影)

生息・生育状況

日あたりのよい林縁部の草原や森林内の開けた空地、あるいは河畔林周辺など森林的環境に生息する。山口県では西部から東北部にかけての内陸域に局地的に分布している。

選定理由

生息環境の荒廃の度合いが増してきて、生息確認は困難になりつつある。

減少等の要因

植生遷移の進行により生息環境の荒廃と喪失。

- 407 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600501100

ウラギンヒョウモン

Fabriciana adippe ([Denis et Schiffermüller], 1775)

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	DD
環境省	2019	-

形態・生態

ヒョウモン類では平均的な大きさで、翅表斑紋に性差はないが、♀はより大型で翅形は幅広い。♀の裏面は♂に比べ地色は濃く、銀白紋はより大きく鮮明である。年1回の発生で、6月上旬頃出現する。盛夏の7月～8月に夏眠(あるいは不活動状態)に入り、9月中旬頃から再び現れる。日照に対しては極めて敏感で曇天時にはほとんど活動しない。飛翔は低く地面に平行に飛ぶことが多い。吸蜜のため、とくにアザミ類などキク科の花をよく訪れる。卵の状態越冬する。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2018.5.27撮影)

生息・生育状況

山間の明るい草原に多く、樹林の伐採跡や河原のような開けた環境にも生息する。山口県では低山地から高標高地まで広く生息地が点在するが個体数は少ない。

選定理由

県内の既産地全域で減少傾向にある。市街地では開発により早くから姿を消したが、山間部の里山でも多産地は次第に失われつつある。

減少等の要因

生息環境である明るい草原の荒廃または喪失。

- 408 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600503600

オオムラサキ

Sasakia charonda (Hewitson, [1863])

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	NT
環境省	2019	NT

形態・生態

大形のタテハチョウで、♂の前後翅表は基部から中央部が紫色に輝く。♀には紫色に輝く部分はなく、濃褐色の地色のまま。♀の翅形は丸みがあり♂よりひと回り大きい。年1回、6月中旬から下旬に出現する。晩秋に中齢幼虫は食樹を降り付近の落葉下で越冬する。成虫の飛翔は敏速で、ほとんど羽ばたかずに滑空旋回する。♂には占有性がある。クヌギ、ナラ類、タブなどの樹液に集まる。

【執筆者：稲田 博夫】



提供：稲田 博夫(2011.7.2撮影)

生息・生育状況

食樹であるエノキが自生し、人家や耕作地に近いクヌギ・コナラなどの二次林に生息することが多い。山口県では中央部から東、北部にかけて産地が点在しているが数は少ない。北部の産地では減少が激しく、県西部には記録がない。

選定理由

里山を代表する蝶で、国蝶としてもよく知られているが、現存する生息地でも個体数は少なく、安定的に観察できる場所は少ない。

減少等の要因

食樹のエノキのほか、クヌギやコナラなど樹液の供給源が伐採されて生息地の多くが失われてきた。幼虫採集されることも多く、既知産地でも存続が危ぶまれる。

- 409 -

チョウ目(チョウ) タテハチョウ科
0802600503800

ウラナミジャノメ

Ypthima multistriata Butler, 1883

カテゴリ

山口県	2018	NT
	2002	VU
環境省	2019	-

形態・生態

小型のジャノメチョウで、♂♀で色彩や斑紋に大差はなく、翅表面は茶褐色をしている。近縁種のヒメウラナミジャノメに比べやや大きめであることと、眼状紋が後翅裏面で3個、後翅表面には1個で、ヒメウラナミジャノメでは裏面は普通5個、表面は2個となっており識別は容易である。年2回の発生で、第1化は6月中旬～7月上旬、第2化は8月下旬～9月上旬に出現する。越冬態は幼虫。

【執筆者：五味 清】



提供：五味 清(2016.9.8撮影)

生息・生育状況

一般に明るい疎林や樹林周辺の乾性草地に生息するほか、人工植生である道路法面の草地でも発生する。山口県では新たな生息地が次々と確認されているが、いずれも個体数は少ない。

選定理由

主に里山を生息環境にしていることから、農地改良事業の影響などで、産地が消滅し、生息数も減少傾向にある。

減少等の要因

開発や植生遷移により生息環境である明るい疎林や乾性草原の喪失。

- 410 -

クモ目 トタテグモ科 0900100200100 キノボリトタテグモ <i>Conothele fragaria</i> (Dönitz 1887)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：増原 啓一】

体長はメス10～11mm、オス6～8mmで古い形態のクモである。全体黒紫、眼は頭胸部前方中央に集まる。上顎背面には、まぐわと呼ばれる樹皮を削る器官がある。スギ、ヒノキ、イチヨウ、モミ、スダジイなどの根本から2、3mまでの高さの樹上に棲む。厚い樹皮をまぐわで削り、戸蓋のついた2～3cmのピーナツ状の住居をつくる。住居の表面は樹皮やコケなどで偽装されている。



提供：増原 啓一(2001.9.1撮影)

生息・生育状況

生息地は、日が当たらず、風の流れが穏やかで、適度な湿度が保たれている場所に生える、古木の樹上である。神社林を中心に調査したが、県の中央部から西部では、樹皮の表面に多くの巣の痕跡が見られた。しかし確認された生体は10数個体でとても少ない。県の東部では、巣の痕跡さえもとても少ない。

選定理由

人里の樹上に生息しており、樹木の伐採など生息環境の人為的な改変の影響を容易に受ける種である。

減少等の要因

最も良好な生息地である神社林において、安易な古木の伐採や低木の除去などを控えるなどして、林の保全に努めることが求められる。

クモ目 トタテグモ科 0900100200200 キシノウエトタテグモ <i>Latouchia typica</i> (Kishida 1913)	カテゴリ		
	山口県	2018	NT
		2002	NT
	環境省	2019	NT

形態・生態

【執筆者：増原 啓一】

体長はメス11～15mm、オス9～12mmで古い形態のクモである。頭胸部は丸く濃黒褐色で光沢があり、眼は頭胸部前方中央に集まる。腹部は紫褐色で数条の薄い横班がある。地中に深さ5～7cm程度の、内側がすべて糸幕で裏打ちされ、入り口に蓋のついた住居をつくり棲む。戸蓋は、地表の土やコケで偽装されており見つけ難い。本種からはクモタケが発生する事が知られている。初夏の頃、住居の入り口から生えており、クモを発見する手掛かりとなる。



提供：増原 啓一(2001.7.17撮影)

生息・生育状況

国内では関東から四国、九州に分布するが、西日本では稀である。県内では、山口市では市内に古くからある公園2か所の土の切り通しで、光市では住宅の庭で複数の住居と、数個の生体が確認された。

選定理由

県内を含め、西日本では生息が確認された場所が稀である。また人里の土中に生息する為、工事や開発によって生息地が容易に失われる可能性が高い。

減少等の要因

既知の公園や宅地では、極めて狭い範囲に生息する。関係者の理解を求め、生息地の保全が求められる。

クモ目 ホラヒメグモ科 0900100900300 オフクホラヒメグモ <i>Nesticus akiyoshiensis ofuku</i> Yaginuma 1977	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：増原 啓一】

体長はオス、メスともに3.5mm前後。体色は淡黄色、背甲中央に黒の縦条、腹部腹面には複数の対になった横筋斑がある。歩脚は淡黄色で薄い黒の環斑があり、長さは体長の3倍以上ある。低温、高湿な地中環境に適応した種であり、地上では長く生きられない。地中の小空間に簡単な不規則網を張って生活している。オス触肢小杯葉の形態は本属の分類にとっても重要である。西中国地方に分布するものには、特定のパターンの地理的変異が見られ、この地域のホラヒメグモ属の種分化を考察する上で重要である。



提供：増原 啓一(2006.4.2撮影)

生息・生育状況

厚東川と三隈川を結ぶ線から西の山口県に生息している。西秋吉台の洞窟では普通に見られる。洞窟以外では、崖錐と呼ばれる急な山腹が崩壊して形成された、厚い岩礫の堆積地などで確認された。クモは、堆積地内部の外の乾いた空気に近い場所で、地中環境が保たれた石と石の間の隙間に棲んでいる。

選定理由

本種の模式産地の洞窟がある西秋吉台では、大規模な石灰岩の採掘によって、生息地である洞窟が急速に消滅している。

減少等の要因

- 413 -

クモ目 ヒメグモ科 0900101003400 ホシヒメグモモドキ <i>Theridula gonygaster</i> (Simon 1873)	カテゴリ	
	山口県	2018 NT
		2002 NT
	環境省	2019 -

形態・生態

【執筆者：増原 啓一】

体長はオス・メスとも2mm前後と微小なクモ。南西諸島以南には広く分布している南方系のクモであるが、本土では、東京都、静岡・三重・徳島・宮崎の各県で数頭ずつ確認されているだけである。



提供：増原 啓一

生息・生育状況

県内で確認されているのは秋吉台の草原だけであるが、比較的容易に見つける事ができる。8月から9月上旬に、ネザサやススキなどの葉裏に、小さくて簡単な不規則網を張って生活しており、毎年確認される事から、秋吉台で世代交代を繰り返していると考えられる。

選定理由

毎年行なわれる秋吉台の山焼きによって、人為的に形成され維持されている草原環境に適応したクモである。

減少等の要因

秋吉台では、他の草地とは違う特別な草原環境があり、本種の生息にとって良好な場所となっている。これからも毎年、途切れる事なく山焼きが行われる事が求められる。

- 414 -

昆虫類参考文献一覧

■ トンボ目

・種指定文献リスト

- 池田 寛, 1988. トンボ目. pp.7-15, pp.60-65., 山口県の昆虫. 山口県立山口博物館 (編), 山口. (アオハダトンボ)
- 池田 寛・沢野十蔵, 1965. 山口県下のコフキヒメイトトンボの新産地とその生態. TOMB O, 8 (1/4) : 18-22.
- 川元 裕, 2010. 萩市でサラサヤンマを確認. 山口のむし, (9) : 142.
- 管 哲郎, 2005. 低山域に行動するルリボシヤンマの観察例. 山口のむし, (4) : 93-95.
- 管 哲郎, 2007. 冬期に於ける成虫越冬トンボ2種の記録. 山口のむし, (6) : 88. (オツネイトンボ)
- 管 哲郎, 2009. 長門市油谷の日本海側にもコバネアオイトトンボが生息. 山口のむし, (8) : 113.
- 管 哲郎, 2010. 長門市油谷町のため池にて確認した主なトンボ (2009). 山口のむし, (9) : 140-142. (コバネアオイトトンボ)
- 管 哲郎, 2011. 山口県におけるヒメサナエの生息状況について. 山口のむし, (10) : 99-104. (アキアカネ)
- 管 哲郎, 2012a. キイロサナエ止水域での確認例. 山口のむし, (11) : 125.
- 管 哲郎, 2012b. コバネアオイトトンボの新産地を発見. 山口のむし, (11) : 120-121.
- 管 哲郎, 2012c. 山口県内でのオグマサナエの記録. 山口のむし, (11) : 112-116.
- 管 哲郎, 2017a. キイロサナエの産卵を撮影. 山口のむし, (16) : 134.
- 管 哲郎, 2017b. ムカシヤンマの羽化について. 山口のむし, (16) : 135-138.
- 管 哲郎, 2017c. モートンイトトンボの羽化を撮る. 山口のむし, (16) : 131-133.
- 管 哲郎, 2018. サラサヤンマ羽化の撮影記録. 山口のむし, (17) : 156-159.
- 管 哲郎, 2019a. 萩市見島で確認したトンボ類. 山口のむし, (18) : 119-124. (アキアカネ)
- 管 哲郎, 2019b. ルリボシヤンマ羽化の記録. 山口のむし, (18) : 125-130.
- 管 哲郎・稲田博夫, 2018. ハッチョウトンボの新たな発見地. 山口のむし, (17) : 151.
- 小坂一章, 2005. 山で配偶行動をするミヤマサナエ. 山口のむし, (4) : 91.
- 小坂一章, 2006. 吉祥三千年の冬虫夏草. 山口のむし, (5) : 71-73. (アキアカネ)
- 小坂一章, 2007a. 本州西限のヒメイトトンボ〈木屋川个体群〉. 山口のむし, (6) : 76-79.
- 小坂一章, 2007b. 樫野川のキイロヤマトンボ追録. 山口のむし, (6) : 70.
- 小坂一章・今井 全, 2019. 長府藩勝山御殿跡に居すハッチョウトンボ. 山口のむし, (18) : 131-132.
- 後藤和夫, 2013. 2012年に確認したハッチョウトンボの新たな記録. 山口のむし, (12) : 100.
- 沢野十蔵・池田 寛, 1965. コフキヒメイトトンボを山口県で発見. TOMB O, 7 (3/4) : 27.
- 下野誠之, 2016. 周南市でモートンイトトンボを確認. 山口のむし, (15) : 156.
- 乗松克也, 2004. ハネビロエゾトンボを岩国市で採集. 山口のむし, (3) : 85.
- 伴 一利, 2005. 山口市でハネビロエゾトンボを採集. 山口のむし, (4) : 107.
- 伴 一利, 2007. 阿東町におけるコサナエの記録. 山口のむし, (6) : 81-82.
- 伴 一利, 2008. 阿東町におけるコサナエの記録 (2007年). 山口のむし, (7) : 96.
- 伴 一利・後藤和夫ほか, 2004. 山口県立きらら浜自然観察公園の昆虫相 (2001年~2002年). 中国昆虫, (17) : 39-54. (アキアカネ)
- 弘津義擴, 2002. 宇部市でのキイロヤマトンボの記録. 山口県の自然, (62) : 41.
- 山口むしの会保全委員会昆虫調査班, 2014. 美祢市美東町長登地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (13) : 121-149. (サラサヤンマ)
- #### ・共通文献リスト (二種以上)
- 阿部友哉, 2005. 楠町と美祢市で採集したトンボ数例. 山口のむし, (4) : 108. (ネアカヨシヤンマ, ハネビロエゾトンボ)
- 岩国市の自然改訂編纂委員会 (編), 2011. 岩国市の自然. 293pp., 岩国市教育委員会 科学センター, 岩国. (ネアカヨシヤンマ, サラサヤンマ, ルリボシヤンマ, ミヤマサナエ, キイロサナエ, アオサナエ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, ハネビロエゾトンボ, キイロヤマトンボ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮, 2012. 日本のトンボ. 531pp., 文一総合出版, 東京. (全種に適用)
- 川元 裕, 2018. 岡田雅裕氏所蔵昆虫標本について. 山口のむし, (17) : 204-207. (ネアカヨシヤンマ, ルリボシヤンマ, オグマサナエ, ムカシヤンマ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 管 哲郎, 2003. 長野山周辺で見たトンボ数例. 山口のむし, (2) : 66. (ルリボシヤンマ, ミヤマサナエ, アキアカネ)

- 管 哲郎, 2006. コバネアオイトトンボとアジアイトトンボの新産地について. 山口のむし, (5) : 86.
(コバネアオイトトンボ, アジアイトトンボ)
- 管 哲郎, 2007. 宇部市(旧厚狭郡楠町)で確認したトンボ類. 山口のむし, (6) : 89-96.
(オツネントンボ, アジアイトトンボ, ネアカヨシヤンマ, アオサナエ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, アキアカネ)
- 管 哲郎, 2008. 宇部市(旧楠町)で追加したトンボ類. 山口のむし, (7) : 108.
(サラサヤンマ, キイロサナエ, アジアイトトンボ, アキアカネ)
- 管 哲郎, 2011. トンボ類レッドリスト対象種の記録. 山口のむし, (10) : 110-115.
(アオハダトンボ, コフキヒメイトトンボ, モートンイトトンボを除く全種に適用)
- 管 哲郎, 2016. 2011年から2015年に山口県で確認したトンボ. 山口のむし, (15) : 136-155.
(アオハダトンボ, コフキヒメイトトンボ, モートンイトトンボ, キイロヤマトンボを除く全種に適用)
- 管 哲郎, 2018a. 萩市大島で確認したトンボ類. 山口のむし, (17) : 152-155.
(アジアイトトンボ, サラサヤンマ, アキアカネ)
- 管 哲郎, 2018b. 2016年, 17年に山口県で確認したトンボのレッドリスト種. 山口のむし, (17) : 160-162.
(オツネントンボ, アオハダトンボ, コフキヒメイトトンボ, ミヤマサナエ, ムカシヤンマ, ハネビロエゾトンボ, キイロヤマトンボを除く全種に適用)
- 小坂一章, 2006. 本州西限のベッコウトンボ. 山口のむし, (5) : 66-70. (アオヤンマ, ベッコウトンボ)
- 里原康夫・伴 一利, 2003. 岩国市のトンボ調査報告(2002年). 山口のむし, (2) : 67-69.
(アジアイトトンボ, アキアカネ)
- 水情報国土データ管理センター, 2015. 河川環境データベース. 入手先, 河川環境データ ベースシステム,
<http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/03/index.htm>. (参照2016-01-11).
(モートンイトトンボ, アジアイトトンボ, サラサヤンマ, アオサナエ, ミヤマサナエ, ホンサナエ, キイロサナエ, ムカシヤンマ, キイロヤマトンボ,
アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 杉村光俊・小坂一章・吉田一夫・大浜祥治, 2008. 中国・四国のトンボ図鑑. 255pp., ミナミヤンマ・クラブ,
東京. (全種に適用)
- 角田正明, 2015. 山口県産所蔵標本のリストについて. 山口のむし, (14) : 162-169. (アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 田中 浩, 2015. 住田紘昆虫コレクション標本目録. 山口県立山口博物館研究報告, (41) : 9-26.
(サラサヤンマ, ミヤマサナエ, ムカシヤンマ, アキアカネ)
- 原 隆, 2002. 小野田市菩提寺山トンボ相についての調査結果. 山口のむし, (1) : 55-56.
(オツネントンボ, アジアイトトンボ, サラサヤンマ, アキアカネ)
- 伴 一利, 2003. 自宅周辺で採集したトンボ. 山口のむし, (2) : 71. (サラサヤンマ, ネアカヨシヤンマ)
- 伴 一利, 2004a. 岩国市で採集したトンボ(2003年). 山口のむし, (3) : 82. (ムカシヤンマ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2004b. 柳井市で採集したトンボ数種の記録. 山口のむし, (3) : 84. (エゾトンボ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2005a. 山口県で採集したトンボ(2004年). 山口のむし, (4) : 101-103.
(サラサヤンマ, ルリボシヤンマ, アオサナエ, ミヤマサナエ, ムカシヤンマ, エゾトンボ)
- 伴 一利, 2005b. 岩国市で採集したトンボ(2004年). 山口のむし, (4) : 106.
(サラサヤンマ, ルリボシヤンマ, ムカシヤンマ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2006a. 山口県で採集したトンボ(2005年). 山口のむし, (5) : 87-89.
(サラサヤンマ, ネアカヨシヤンマ, アオサナエ, ムカシヤンマ, キイロヤマトンボ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2006b. 阿東町のコサナエと共に確認したトンボ類. 山口のむし, (5) : 90-91.
(サラサヤンマ, アオサナエ, コサナエ, ムカシヤンマ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2008. 山口県で確認したトンボ(2007年). 山口のむし, (7) : 97-100.
(サラサヤンマ, ネアカヨシヤンマ, ルリボシヤンマ, アオサナエ, キイロサナエ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2009. 山口県で確認したトンボ(2008年). 山口のむし, (8) : 103-106.
(サラサヤンマ, ルリボシヤンマ, アオサナエ, キイロサナエ, アキアカネ)
- 伴 一利, 2010. 山口県で確認したトンボ(2009年). 山口のむし, (9) : 143-144.
(ネアカヨシヤンマ, ハネビロエゾトンボ, アキアカネ)
- 伴 一利, 2011a. 山口県で確認したトンボ(2009年以前). 山口のむし, (10) : 93-94.
(オツネントンボ, コバネアオイトトンボ, オオイトトンボ, ヒスマイトトンボ, サラサヤンマ, アオヤンマ, ネアカヨシヤンマ, アオサナエ, オグマ
サナエ, ミヤマサナエ, ホンサナエ, キイロサナエ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, ハネビロエゾトンボ, キイロヤマトンボ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2011b. 山口県で確認したトンボ(2010年). 山口のむし, (10) : 95-96.
(ミヤマサナエ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)

- 伴 一利, 2012. 山口県で確認したトンボ (2011年). 山口のむし, (11): 97-100.
(オツネントンボ, アジアイトトンボ, サラサヤンマ, アオヤンマ, ミヤマサナエ, ムカシヤンマ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2013. 山口県で確認したトンボ (2012年). 山口のむし, (12): 93-96.
(サラサヤンマ, アオサナエ, エゾトンボ)
- 伴 一利, 2014. 2012年及び2013年に山口県で確認したトンボ. 山口のむし, (13): 95-100.
(アジアイトトンボ, サラサヤンマ, ルリボシヤンマ, アオサナエ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, ハネビロエゾトンボ)
- 伴 一利, 2015. 山口県で確認したトンボ (2014年). 山口のむし, (14): 100-103.
(オツネントンボ, ヒスマイトトンボ, アジアイトトンボ, サラサヤンマ, ネアカヨシヤンマ, ルリボシヤンマ, アオサナエ, ミヤマサナエ, ホンサナエ, ムカシヤンマ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 伴 一利, 2015a. 標本箱の中に眠っていたトンボのデータ. 山口のむし, (14): 104-117.
(アオハダトンボ, コフキヒメイトトンボ, モートンイトトンボを除く全種に適用)
- 伴 一利, 2016b. 山口県のトンボ目録 (2015). 山口のむし, (15): 127-135. (全種に適用)
- 伴 一利, 2017. 山口県で確認したトンボ (2016年). 山口のむし, (16): 123-128.
(オツネントンボ, モートンイトトンボ, ヒスマイトトンボ, アジアイトトンボ, サラサヤンマ, アオヤンマ, ネアカヨシヤンマ, ルリボシヤンマ, アオサナエ, ミヤマサナエ, ホンサナエ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, アキアカネ, ハッチョウトンボ, ベッコウトンボ)
- 伴 一利, 2018. 山口県で確認したトンボ (2017). 山口のむし, (17): 141-146.
(ヒスマイトトンボ, アジアイトトンボ, サラサヤンマ, アオヤンマ, ルリボシヤンマ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, アキアカネ, ハッチョウトンボ, ベッコウトンボ)
- 伴 一利, 2019. 山口県で確認したトンボ(2018). 山口のむし, (18): 113-118.
(オオイトトンボ, モートンイトトンボ, サラサヤンマ, ルリボシヤンマ, アオサナエ, ミヤマサナエ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, アキアカネ, ハッチョウトンボ, ベッコウトンボ)
- 福田竹美・五味 清, 2015. 光市文化センター所蔵の昆虫標本. 山口のむし, (14): 144-161.
(アジアイトトンボ, サラサヤンマ, アオヤンマ, ムカシヤンマ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 保阪健市・優菜・明歩, 2006. 自由研究で採集した山口県産トンボの採集記録 (2003年～2005年). 山口のむし, (5): 93-98.
(アオハダトンボ, オオイトトンボ, コフキヒメイトトンボ, モートンイトトンボを除く全種に適用)
- 椋木博昭, 2012. 萩市周辺のトンボ. 山口のむし, (11): 101-103.
(オオイトトンボ, サラサヤンマ, ルリボシヤンマ, ムカシヤンマ, エゾトンボ, アキアカネ, ハッチョウトンボ)
- 山口県立山口博物館 (編), 2006. 山口県のトンボ. 52pp., 山口県立山口博物館, 山口. (全種に適用)
- 山口県立山口博物館 (編). 山口県立山口博物館収蔵昆虫標本目録2016年度版. Version 1.00, 山口, 2016. (CD-R).
コフキヒメイトトンボ含む (アオハダトンボ, ヒスマイトトンボを除く全種に適用)
- 山口むしの会保全委員会昆虫調査班, 2014. 美祢市美東町長登地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (13): 121-149.
(サラサヤンマ)
- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会 (編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会.
(全種に適用)
- 山口むしの会昆虫目録制作委員会 (編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 84pls., 2049pp., 山口むしの会.
(全種に適用)

■ ナナフシ・バツタ・カマキリ目 ・種指定文献リスト

- 伊ヶ崎伸彦, 2017. 美祢市岩永台で採集したカマキリ2種. 山口のむし, (16): 150. (ヒナカマキリ, ヒメカマキリ)
- 伊ヶ崎伸彦, 2018. 下関市豊田町華山でヒメカマキリを採集. 山口のむし, (17): 138.
- 柿沼 進, 2009. 海岸でみられる直翅類3種の分布調査 (2007～2008年). 山口のむし, (8): 120.
(ヤマトマダラバツタ)
- 河原宏之, 2017. 周防大島町でヒナカマキリを確認. 山口のむし, (16): 150.
- 管 哲郎, 2018. ヒメカマキリ・ペアの観察記録. 山口のむし, (17): 137.
- 久我 立・川野敬介, 2011. ハネナシコロギの生態的知見. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (3): 29-36.
- 後藤和夫, 2012. 萩市のヒメカマキリ2例. 山口のむし, (11): 134.
- 後藤和夫, 2013. 秋吉台でヒメカマキリを確認. 山口のむし, (12): 104.
- 後藤和夫, 2014. 夜間調査で確認したヒメカマキリ. 山口のむし, (13): 110.
- 後藤和夫, 2015a. 2014年に確認したヒメカマキリ. 山口のむし, (14): 131.
- 後藤和夫, 2015b. 美東町でヤスマツトビナナフシを確認. 山口のむし, (14): 131.

- 後藤和夫, 2016. 2015年に確認したヤスマツトビナナフシ. 山口のむし, (15): 188.
- 後藤和夫, 2018. 長門市三隅でヤスマツトビナナフシを採集. 山口のむし, (17): 138.
- 後藤和夫, 2019. 豊北町角島の対岸でもヤマトマダラバッタの生息を確認. 山口のむし, (18): 109.
- 重中良之, 2015. 柳井市のヒメカマキリの観察事例. 山口のむし, (14): 132.
- 角田正明, 2016. ヒナカマキリの卵鞘の記録. 山口のむし, (15): 187.
- 角田正明, 2013. 秋吉台麓でヒナカマキリ, ウスバカマキリの産卵の記録. 山口のむし, (12): 104.
- 水情報国土データ管理センター, 2015. 河川環境データベース. 入手先, 河川環境データベースシステム.
<http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/03/index.htm>. (参照 2016-01-11) (カワラバッタ)
- 高橋 元, 2005. スオウササキリモドキを錦町河津峡で採集. 山口のむし, (4): 110.
- 伴 一利, 2013. ヒナカマキリの採集記録. 山口のむし, (12): 103.
- 福田竹美, 2018a. カワラバッタの分布調査. 山口のむし, (17): 133-134.
- 福田竹美, 2018b. ヤマトマダラバッタの分布調査. 山口のむし, (17): 132.
- 福田竹美, 2019. ヒメカマキリ山口市での確認事例. 山口のむし, (18): 111.
- 福田竹美・五味 清, 2015. 光市文化センター所蔵の昆虫標本. 山口のむし, (14): 144-161.
 (ヤマトマダラバッタ)
- ヘイウッドカイト, 2019. 下関市豊田町で確認したヒメカマキリ. 山口のむし, (18): 110.
- Mitoki, T. 1999. in Kanô, Y. et al., Japanese Brachypterous Meconematinae (Orthoptera: Tettigoniidae).
 Tettigonia 1(2): 1-81. (pp. 21-22. Figs. 91-99.) (スオウササキリモドキ)

・ 共通文献 (二種以上)

- 岩国市の自然改訂編纂委員会 (編), 2011. 岩国市の自然. 293pp., 岩国市教育委員会 科学センター, 岩国.
 (カワラバッタ, スオウササキリモドキ, ヒメカマキリ)
- 田中 浩, 2016. 山口県立山口博物館所蔵山口県産直翅目 (昆虫綱) 標本目録. 山口県立山口博物館研究報告書,
 (42): 11-25. (全種に適用)
- 日本直翅類学会 (編), 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 685pp., 北海道大学出版会, 札幌.
 (全種に適用)
- 日本直翅類学会 (編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 384pp., 学研プラス, 東京. (全種に適用)
- 村井貴史・伊藤ふくお, 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 449pp., 北海道大学出版会, 札幌.
 (全種に適用)
- 山口県立山口博物館, 2016. 山口県立山口博物館収蔵昆虫標本目録 2016 年度版. Version 1.00, 山口.
 (CD-R). (全種に適用)
- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会 (編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会.
 (全種に適用)
- 山口むしの会昆虫目録制作委員会 (編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 84pls., 2049pp., 山口むしの会.
 (全種に適用)

■ カメムシ目

・ 種指定文献リスト

- 相本篤志, 2019. 2018年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (18): 159-166. (タガメ)
- 伊ヶ崎伸彦, 2017. ヒラタトガリカメムシが山口県に定着・分布拡大か?. 山口のむし, (16): 147.
- 伊ヶ崎伸彦, 2018. ヒラタトガリカメムシを十種ヶ峰で採集・山口県に分布拡大. 山口のむし, (17): 175.
- 稲田博夫, 2012. タガメ岩国市での確認例. 山口のむし, (11): 132.
- 稲田博夫, 2013. 岩国市のタガメ確認例. 山口のむし, (12): 106.
- 大木克行, 2001. 山口県におけるイトアメンボの産地および同所で得られた水生・半水生半翅類. Rostria,
 (58): 43-46.
- 大木克行, 2003a. 長野山で採集された半翅類の記録. 山口のむし, (2): 73-74. (エゾハルゼミ)
- 大木克行, 2003b. 学校プールでオオミズムシが発生. 山口のむし, (2): 78-79.
- 河野悠希, 2019. タガメの生態観察についての報告. 山口のむし, (18): 147-150.
- 後藤和夫, 2007. 灯火に飛来したエゾハルゼミ. 山口のむし, (6): 100.
- 後藤和夫, 2012. 萩市田床山でハルゼミを確認. 山口のむし, (11): 131.
- 後藤和夫・五味 清, 2019. 岩国市周東町の水生昆虫類について. 山口のむし, (18): 146. (タガメ)

- 後藤和夫・管 哲郎, 2018. 山口県東部地方のタガメの新産地と若干の考察. 山口のむし, (17) : 176.
- 重中良之, 2018. 岩国市沿岸部におけるコオイムシ科2種の記録. 山口のむし, (17) : 177. (タガメ)
- 辻 雄介, 2015. 岩国市で採集したタガメの記録. 山口のむし, (14) : 130.
- 辻 雄介, 2018. ケシウミアメンボを岩国市で採集. 山口のむし, (17) : 180.
- 田島 実, 2014. 周南市八代のタガメ. 山口のむし, (13) : 107.
- 田中 馨, 2004. 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし, (3) : 96-110. (ハルゼミ)
- 田中 馨, 2013. ヒラタトガリカメムシを山口県で採集. 月刊むし, (514) : 3-4.
- 田中 馨, 2014. 山口県でヒラタトガリカメムシが異常発生. 月刊むし, (526) : 21.
- 田中星丞, 2012a. タガメの飼育と観察例. 山口県の自然, (72) : 1-6.
- 田中星丞, 2012b. 柳井市で発見したタガメ. 山口県の自然, (72) : 7-8.
- 徳本浩之・上尾庸子・田中劉屋, 2011. 岩国市で発見されたタガメの幼虫. 山口県の自然, (71) : 37.
- 福田竹美・五味 清, 2015. 光市文化センター所蔵の昆虫標本. 山口のむし, (14) : 144-161. (ハルゼミ)

・ 共通文献 (二種以上)

- 相本篤志, 2018. 2017年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (17) : 184-190. (エサキアメンボ, タガメ, オオミズムシ)
- 朝比奈正二郎, 石原 保, 安松 京三, 2001. 原色昆虫大図鑑 (第III巻). 358pp., 北隆館, 東京. (全種に適用)
- 伊ヶ崎伸彦, 2016a. 山口県で確認したカメムシ類 (2012年~2014年). 山口のむし, (15) : 127-128. (クチブトカメムシ, タガメ)
- 伊ヶ崎伸彦, 2016b. 山口県で確認したカメムシ類 (2015年). 山口のむし, (15) : 165-173. (シロヘリツチカメムシ, クチブトカメムシ)
- 伊ヶ崎伸彦, 2016c. 山口県で情報不足のカメムシ四種. 山口のむし, (15) : 174. (シロヘリツチカメムシ, ヒラタトガリカメムシ)
- 伊ヶ崎伸彦, 2017. 山口県レッドリスト選定種のカメムシを確認. 山口のむし, (16) : 145-146. (オオミズムシ, シロヘリツチカメムシ, クチブトカメムシ)
- 伊ヶ崎伸彦, 2018. 山口県レッドリスト選定種のカメムシを確認. 山口のむし, (17) : 173-174. (エサキアメンボ, オオミズムシ, クチブトカメムシ)
- 石川 忠・高井幹夫・安永智秀 (編), 2012. 日本原色カメムシ図鑑 (第3巻). 574pp., 全国農村教育協会, 東京. (シロヘリツチカメムシ, クチブトカメムシ)
- 岩国市の自然改訂編纂委員会 (編), 2011. 岩国市の自然. 293pp., 岩国市教育委員会 科学センター, 岩国. (タガメ, ハルゼミ, エゾハルゼミ, エゾゼミ)
- 伴 一利, 2012. 山口県で確認したセミ (2011年). 山口のむし, (11) : 129-130. (ハルゼミ, エゾゼミ, エゾハルゼミ)
- 伴 一利, 2017. 山口県で確認したセミ (2016年). 山口のむし, (16) : 141. (ハルゼミ, エゾゼミ)
- 伴 一利, 2018. 山口県で確認したセミ (2017年). 山口のむし, (17) : 169-170. (ハルゼミ, エゾゼミ, エゾハルゼミ)
- 平嶋義宏・森本 桂 (監修), 2008. 新訂原色昆虫大図鑑第III巻. 654pp., 北隆館, 東京. (全種に適用)
- 田中 馨, 2011. 山口県産カメムシ目 (半翅目) の記録. 山口のむし, (10) : 116-128. (ハルゼミ, エゾゼミ, エゾハルゼミ, オオミズムシ, クチブトカメムシ)
- 安永智秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫 (編), 2001. 日本原色カメムシ図鑑. 380pp., 全国農村教育協会, 東京. (シロヘリツチカメムシ, クチブトカメムシ)
- 山口県立山口博物館 (編), 2016. 山口県立山口博物館収蔵昆虫標本目録 2016年度版. Version 1.00. 山口. (イトアメンボ, ケシウミアメンボ, エサキアメンボ, ババアメンボ, タガメ, オオミズムシ, シロヘリツチカメムシ, クチブトカメムシ)
- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会 (編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会. (全種に適用)
- 山口むしの会昆虫目録制作委員会 (編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 84pls., 2049pp., 山口むしの会. (全種に適用)

■ コウチュウ目

・ 種指定文献リスト

- 足立一夫, 1976a. モンクロベニ遂にそのベールを脱ぐー山口県十種ヶ峰でコナラ材中より成虫を採集. カミキリニュース九州版, 9 (18) : 30. (モンクロベニカミキリ)
- 足立一夫, 1976 b. モンクロベニ採集合戦ナノダ. カミキリニュース九州版, 9 (19) : 73. (モンクロベニカミキリ)

- 足立一夫, 1985. 山口県野道山のフタスジカタビロハナカミキリについて. 北九州の昆虫, 2 (32) : 114.
- 伊ヶ崎伸彦, 2014. 防府市大平山でフタコブリハナカミキリを確認. 山口のむし, (13) : 87.
- 池田一喜, 2012. 光市におけるヨツボシカミキリの採集記録. 山口のむし, (11) : 91.
- 井手芳郎, 1980. 春の船平山を訪ねて. 北九州の昆虫, 3 (27) : 112. (フタスジカタビロハナカミキリ)
- 井村有希・水沢清行, 2013. 日本産オサムシ図説. 368pp., 昆虫文献 六本脚, 東京. (セアカオサムシ)
- 柿沼 進, 2007a. 山口県でシロヘリハンミョウを採集. 月刊むし, (440) : 48.
- 柿沼 進, 2007b. ヨドシロヘリハンミョウ新産地の報告, および山口県における生息状況. 山口のむし, (6) : 43-44.
- 加藤重和, 2004a. 山口県のアカジマトラカミキリの記録. 山口のむし, (3) : 60.
- 加藤重和, 2004b. 山口県の高ゲジロホソコバナカミキリの記録. 山口のむし, (3) : 50.
- 川野啓介, 2005a. 豊田町の止水性水生昆虫 (水生半翅類・甲虫類). 山口のむし, (4) : 37-47. (クロゲンゴロウ)
- 川野敬介, 2008. 山口県におけるホタル類とその分布. 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (1) : 1-23. (スジグロボタル)
- 川野敬介・椋木博昭, 2009. 下関市豊田町のカミキリムシについて. 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (2) : 49-72. (セダカコブヤハズカミキリ)
- 川元 裕, 2007. 秋吉台においてセアカオサムシを採集. 山口のむし, (6) : 46.
- 川元 裕, 2012. 山口県におけるルリボシカミキリの採集記録. 山口のむし, (11) : 96.
- 川元 裕, 2015. 2014年西中国山地におけるオサムシの採集記録. 山口のむし, (14) : 92-93. (セアカオサムシ)
- 川元 裕, 2016. 2015年中国山地におけるオサムシ・ゴミムシの採集記録. 山口のむし, (15) : 115-116. (セアカオサムシ)
- 川元 裕, 2019. 美祢市でアオカミキリを採集. 山口のむし, (18) : 80.
- 北村英忠, 1986. 山口県徳佐地方のカミキリ採集品目録 (1985). 北九州の昆虫, 33 (1) : 49. (フタスジカタビロハナカミキリ)
- 小坂一章, 2017. 下関市の諸処で捕らえられたコガタノゲンゴロウ. 山口のむし, (16) : 113-115.
- 後藤和夫, 2006. アイヌハンミョウ錦川沿いで採集. 山口のむし, (5) : 51-52.
- 後藤和夫, 2007. 錦川沿いのアイヌハンミョウ. 山口のむし, (6) : 51.
- 後藤和夫, 2009. 秋吉台林縁部で確認したトラフカミキリ. 山口のむし, (8) : 76.
- 後藤和夫, 2013a. アイヌハンミョウ鹿野の渋川で確認. 山口のむし, (12) : 82.
- 後藤和夫, 2013b. トラフカミキリ秋吉台周辺部での記録. 山口のむし, (12) : 82.
- 後藤和夫, 2013c. キンイロネクイハムシの新たな記録. 山口のむし, (12) : 83.
- 後藤和夫, 2014. クロソンホソハナカミキリ今富ダムで確認. 山口のむし, (13) : 88.
- 後藤和夫, 2016a. 山口県東北部で確認したクロカナブン. 山口のむし, (15) : 110.
- 後藤和夫, 2016b. 山口県内のコガタノゲンゴロウについて. 山口のむし, (15) : 117.
- 後藤和夫, 2016c. 2015年に確認したゲンゴロウ数種. 山口のむし, (15) : 118-119. (クロゲンゴロウ)
- 後藤和夫, 2016d. キンボシハネカクシ山陽小野田市で確認. 山口のむし, (15) : 126. (キンボシマルズオオハネカクシ)
- 後藤和夫, 2017a. 2016年に確認したトラフカミキリ. 山口のむし, (16) : 103.
- 後藤和夫, 2017b. 山口県のコガタノゲンゴロウの状況. 山口のむし, (16) : 112.
- 後藤和夫, 2017c. 2016年に確認したゲンゴロウ数種. 山口のむし, (16) : 103. (クロゲンゴロウ)
- 後藤和夫, 2018a. 萩市須佐高山で確認したアオカミキリ. 山口のむし, (17) : 96.
- 後藤和夫, 2018b. コガタノゲンゴロウ 2017年の調査結果と気づき. 山口のむし, (17) : 112-113.
- 後藤和夫, 2018c. 2017年に確認したゲンゴロウ数種と気づき. 山口のむし, (17) : 115-116. (クロゲンゴロウ)
- 後藤和夫, 2019a. コガタノゲンゴロウ 2018年の調査結果と気づき. 山口のむし, (18) : 105.
- 後藤和夫, 2019b. 2018年に確認したゲンゴロウ数種と気づき. 山口のむし, (18) : 106. (クロゲンゴロウ)
- 五味 清, 2012. 周南市太華山でミツオホシハナノミを確認. 山口のむし, (11) : 90-91.
- 五味 清, 2019. イッシキキモンカミキリの記録. 山口のむし, (18) : 78.
- 佐伯真一, 2014. 宇部市二俣瀬のイネネクイハムシ. 山口のむし, (13) : 90.
- 酒井 香・藤岡昌介, 2007. 日本産コガネムシ上科図説第2巻食葉群 I. 173pp., 昆虫文献 六本脚, 東京.
- 篠崎研介, 2010. 柳井市におけるコガタノゲンゴロウの採集報告. 山口のむし, (9) : 113-114.
- 下野誠之, 2013a. 椎の朽木で確認した甲虫類. 山口のむし, (12) : 80. (コカブトムシ)

- 下野誠之, 2013b. 岩国市で確認されたネプトクワガタ. 山口のむし, (12) : 81.
- 下野誠之, 2014a. 山口県のクロマダラタマムシについて. 山口のむし, (13) : 82-83.
- 下野誠之, 2014b. タマムシ3種の記録. 山口のむし, (13) : 84. (キンイロエグリタマムシ)
- 下野誠之, 2014c. カミキリムシ2種の記録. 山口のむし, (13) : 85. (アオカミキリ)
- 下野誠之, 2015a. チャイロチビヒラタカミキリの採集記録. 山口のむし, (14) : 82.
- 下野誠之, 2015b. 山口県における近年のコガタノゲンゴロウの動向について. 山口のむし, (14) : 84-90.
- 下野誠之, 2016. ルイスハンミョウの記録と漂着の可能性について. 山口のむし, (15) : 108.
- 下野誠之・辻 雄介, 2017. 岩国市でチビクワガタを採集. 山口のむし, (16) : 101.
- 杉村智幸・田中 馨, 2003. ミツノエンマコガネが豊北町角島に豊産か. 山口のむし, (2) : 58.
- 杉本博之・宗野俊平, 2018. 低標高地で確認したルリボシカミキリの記録. 山口のむし, (17) : 94.
- 角田正明, 2011. 山口市でベーツヒラタカミキリを採集. 山口のむし, (10) : 90.
- 角田正明, 2014. 灯火に飛来したベーツヒラタカミキリの記録. 山口のむし, (13) : 92.
- 角田正明, 2017. コガタノゲンゴロウの採集記録. 山口のむし, (16) : 116.
- 角田正明, 2018. コガタノゲンゴロウの採集記録. 山口のむし, (17) : 114.
- 高桑正敏・田中 馨・椋木博昭・小林敏男, 2015. 山口県のセダカコブヤハズカミキリに関する知見. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (8) : 9-18.
- 田中 馨, 1975. 山口県のカミキリ (1). 昆虫と自然, 1 (10) : 19-22. (フタスジカタビロハナカミキリ)
- 田中 馨, 2000. 阿武町の甲虫類 (主に大木克行氏採集による). ちょうしゅう, (12) : 13-19. (オオルリハムシ)
- 田中 馨, 2003a. オオルリハムシ終齢幼虫の飼育失敗の記. 山口のむし, (2) : 51.
- 田中 馨, 2003b. 山口県のフタコブルリハナカミキリの記録. 山口のむし, (2) : 57.
- 田中 馨, 2003c. 山口県のホソコバナカミキリ属2種の記録. 山口県の自然, (63) : 49-50.
- 田中 馨, 2004. オオルリハムシの羽脱死骸を5月に室内で確認. 山口のむし, (3) : 50.
- 田中 馨, 2005. 山口県のコウチュウ類分布資料 (2004年). 山口のむし, (4) : 56. (ヒメゴマダラオトシブミ)
- 田中 馨, 2006. 5歳の“昆虫少年”お手柄2題. 山口のむし, (5) : 44. (ヨツボシシロオビゴマフカミキリ)
- 田中 馨, 2007. 宇部市の昆虫類分布資料 (2005~2006年). 山口のむし, (6) : 47-48. (アカサビシギゾウムシ)
- 田中 馨・伴 一利, 2006. 屋代島 (周防大島町) のコウチュウ目録. 山口のむし, (5) : 31-42.
- 田中伸一, 2003. 山口県のゲンゴロウ採集記録. 山口のむし, (2) : 47. (クロゲンゴロウ)
- 田中伸一・椋木博昭・川野敬介, 2014. 山口県産ゾウムシ上科の分布記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (6) : 31-103. (ミツギリゾウム)
- 田原美桜, 2018. 宇部市二俣瀬の江で確認された水生昆虫. 山口のむし, (17) : 182-183. (コガタノゲンゴロウ)
- 辻 雄介, 2016. 岩国市で獲られたゴミムシ類3種の採集記録. 山口のむし, (15) : 114. (ウミホソチビゴミムシ)
- 辻 雄介, 2017a. 山口県におけるネクイハムシ類2種の記録. 山口のむし, (16) : 100. (イネネクイハムシ)
- 辻 雄介, 2017b. 周南市で実施された観察会で確認された水生昆虫 (コウチュウ目・カメムシ目). 山口のむし (16) : 121-122. (クロゲンゴロウ)
- 辻 雄介, 2018a, 2017年に山口県で採集したネクイハムシ類3種の記録. 山口のむし, (17) : 102-103. (キンイロネクイハムシ)
- 辻 雄介, 2018b. 岩国市で採集したコガネムシ科2種の記録. 山口のむし, (17) : 105. (コカブトムシ)
- 福田竹美, 2015a. 周南市大字鹿野下でイッシキキモンカミキリを採集. 山口のむし, (14) : 97.
- 福田竹美, 2015b. 光市におけるヨツボシカミキリの採集例. 山口のむし, (14) : 97.
- 福田竹美, 2016. 周南市大字鹿野下でアオカミキリを採集. 山口のむし, (15) : 109.
- 福田竹美, 2018. ルリボシカミキリの採集記録. 山口のむし, (17) : 93.
- 松永善明, 1988. 山口県で採集した象鼻虫及び天牛. すかしば, (30) : 11-17. (フタスジカタビロハナカミキリ)
- 三好和雄, 1954. 滑採集記. 山口生物, (4) : 13-19. (ヒゲナガカミキリ)
- 三好和雄, 1965 b. 萩市における昆虫採集目録. 山口県の自然, (14) : 12-17. (オオルリハムシ)
- 三好和雄, 1966. 山口県産金花虫科目録. 山口県の自然, (15) : 12-16. (オオルリハムシ)
- 三好和雄, 1972. 山口県のカミキリ. 月刊むし, (15) : 10-14. (フタスジカタビロハナカミキリ)
- 三好和雄, 1996. ハラアコブカミキリとフタスジカタビロハナカミキリ. 月刊むし, (301) : 1.
- 椋木博昭, 2003a. 山口県で採集したネクイハムシ. 山口のむし, (2) : 59. (キンイロネクイハムシ)
- 椋木博昭, 2003b. ヒメビロウドカミキリ秋吉台での記録. 山口県の自然, (63) : 53.

- 椋木博昭, 2003c. 山口県長門峡でのコルリクワガタに記録. 月刊むし, (385) : 44-45. (ニシコルリクワガタ)
 椋木博昭, 2005a. 萩市でクビアカモモトホソカミキリを採集. 山口のむし, (4) : 74.
 椋木博昭, 2005b. オオクロカミキリの記録. 山口のむし, (4) : 75.
 椋木博昭, 2006a. 錦町河津峡でオオチャイロハナムグリを採集. 山口のむし, (5) : 48.
 椋木博昭, 2006b. 木谷峡でフタコブリリハナカミキリの記録. 山口のむし, (5) : 48.
 椋木博昭, 2008a. 山口県初記録のウミズギワゴミムシを採集. 山口のむし, (7) : 64.
 椋木博昭, 2008b. 約半世紀ぶりに見つかったクロソンホソハナカミキリ. 山口のむし, (7) : 65.
 椋木博昭, 2008c. 白滝山でタキグチモモトホソカミキリが採れる. 山口のむし, (7) : 66.
 椋木博昭, 2008d. 錦町のクロカナブン. 山口のむし, (7) : 66.
 椋木博昭, 2009. ヨツボシシロオビゴマフカミキリの記録. 山口のむし, (8) : 72.
 椋木博昭, 2011a. 萩市周辺のゾウムシ類. 山口のむし, (10) : 67-83. (ミツギリゾウムシ)
 椋木博昭, 2011b. ヨドシロヘリハンミョウの追加記録. 山口のむし, (10) : 84.
 椋木博昭, 2018. オオクワガタの記録. 山口のむし, (17) : 97.
 椋木博昭・田中 馨, 2011. 角島で採集した甲虫類. 山口のむし, (3) : 51-58. (ミツノエンマコガネ)
 椋木博昭・藤村哲也・下野誠之, 2016. マダラクワガタの採集記録. 山口のむし, (15) : 111.
 吉原太一, 2019. 自宅のベランダに飛来したコガタノゲンゴロウの記録. 山口のむし, (18) : 101.

・ 共通文献リスト (二種以上)

- 相本篤志, 2018. 2017年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (17) : 184-190.
 (クロゲンゴロウ, コガタノゲンゴウ, キンイロネクイハムシ)
 相本篤志, 2019. 2018年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (18) : 159-166.
 (クロゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ)
 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. 206pp., 有限会社むし社, 東京.
 (クロマダラタムシ・キンイロエグリタマムシ)
 尾園 暁, 20014. ハムシ ハンドブック. 104pp., 文一総合出版, 東京. (キンイロネクイハムシ・オオルリハムシ)
 柿沼 進, 2008. 山口県の海岸で採集した甲虫類 I (2006, 2007年調査). 山口のむし, (7) : 40-43.
 (ヨドシロヘリハンミョウ・シロヘリハンミョウ・キバナガミズギワゴミムシ)
 柿沼 進, 2009. 山口県の甲虫類分布記録-2008年調査-. 山口のむし, (8) : 71-72.
 (アイヌハンミョウ・ヨツボシカミキリ)
 加藤重和, 2003. 山口県産カミキリムシ数種の記録. 山口のむし, (2) : 65.
 (アオカミキリ・セダカコブヤハズカミキリ・イッシキキモンカミキリ)
 川井信夫ほか, 2008. 日本産コガネムシ上科図説第1巻食糞群. 197pp., 昆虫文献 六本脚, 東京.
 (ダイコクコガネ・ゴホンダイコクコガネ・ツノコガネ)
 川野敬介, 200b. 豊田町におけるネクイハムシの記録. 山口のむし, (4) : 48.
 (キンイロネクイハムシ, イネネクイハムシ)
 川元 裕, 2009. 山口県北部におけるカミキリムシの記録. 山口のむし, (8) : 54.
 (セダカコブヤハズカミキリ, アオカミキリ)
 久保田 孝・久保田光矢, 2002. 十種ヶ峰で採集した甲虫2種について. 山口のむし, (1) : 54.
 (セダカコブヤハズカミキリ, クロカナブン)
 久保田 孝・光矢・文子, 2003. 2002年に家族で採集した山口県の甲虫類. 山口のむし, (2) : 49-50.
 (ジャクチサンヌレチゴミムシ, トラフカミキリ)
 久保田 孝・後藤和夫・田中 馨, 2005. 小野田市のコウチュウ類. 山口のむし, (4) : 57-68.
 (キンボンマルズオオハネカクシ・オオクワガタ・ミツノエンマコガネ・クビアカナガクチキ)
 後藤和夫, 2015. 2014年に確認したゲンゴロウ数種. 山口のむし, (14) : 94. (クロゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ)
 後藤和夫・五味 清, 2019. 岩国市周東町の水生昆虫類について. 山口のむし, (18) : 146.
 (クロゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ)
 杉本浩一, 2012. 山口県産カミキリムシ採集記録 (2007年~2011年). 山口のむし, (11) : 92-93.
 (フタコブリリハナカミキリ, ルリボシカミキリ, アオカミキリ, トラフカミキリ, イッシキキモンカミキリ)
 杉本博之・宗野俊平, 2012. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011に掲載されている甲虫の記録. 山口のむし, (11) : 83-84.
 (セダカコブヤハズカミキリ, ルリボシカミキリ, ミツギリゾウムシ)
 杉本博之・宗野俊平・清水和也, 2014. レッドリスト甲虫の採集記録. 山口のむし, (13) : 93-94.

- 田中 馨, 2002a. 山口県の甲虫分布資料Ⅱ (田中伸一氏採集). 山口のむし, (1) : 46-47.
(イッシキキモンカミキリ, ミツギリゾウムシ)
- 田中 馨, 2002 b. 旧阿知須干拓の甲虫類資料 (主に 1995 年~2000 年調査). 山口のむし, 47-51.
(オオキノコムシ・セダカコブヤハズカミキリ)
- 田中 馨, 2019. 宇部市の高層マンションに飛来したコウチュウ類 (2010~2018). 山口のむし, (18) : 93-100.
(キンボシマルズオオハネカクシ, アカサビシギゾウムシ)
- 田中 馨・棕木博昭, 2002. 2001 年に寂地山彙で採集した甲虫類. 山口のむし, (1) : 31-45.
(ジャクチサンヌレチゴミムシ・オオダイオオナガゴミムシ・ダイセンナガゴミムシ・ダイセンミズナガゴミムシ・アオアシナガハナムグリ)
- 田中 馨・棕木博昭・田中伸一・後藤和夫・久保田 孝, 2004. 徳地町・長者ヶ原の甲虫類. 山口のむし,
(3) : 39-50. (クロゲンゴロウ・アオカミキリ・トラフカミキリ・ヒメゴマダラオトシブミ)
- 伴 一利・後藤和夫・原 隆ほか, 2004. 山口県きらら浜自然観察公園の昆虫相 (2001 年~2002 年). 中国昆虫,
(17) : 39-54. (ジュウクホシテントウ, ムツモンコミズギワコホミムシ, ドウイロハマベゴミムシ, ハマベゴミムシ)
- 林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔, 2003. 中国山地およびその周辺地域における湿地性ハム
シ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, (6) : 1-25.
(キンイロネクイハムシ, イネネクイハムシ) オオルリハムシ)
- 保阪健市, 2007. 2006 年に山口県各地で採集したコウチュウ類. 山口のむし, (6) : 33-41.
(アイヌハンミョウ・タキグチモモトホソカミキリ・セダカコブヤハズカミキリ・ミツギリゾウムシ)
- 保阪健市, 2008. 2007 年に山口県各地で採集したコウチュウ類. 山口のむし, (7) : 47-63.
(ヨドシロヘリハンミョウ・トウキョウヒメハンミョウ)
- 保阪健市, 2010. 2009 年に山口県各地で採集したコウチュウ類. 山口のむし, (9) : 82-95.
(ゴホンダイコクコガネ・ツノコガネ)
- 保阪健市, 2018. 山口県各地で 2009 年から 2017 年に採集した記録の少ない甲虫類. 山口のむし, (17) : 125-131.
(ルリボシカミキリ・アオカミキリ・タキグチモモトホソカミキリ)
- 本多英文, 1968. 山口県寂地山彙のカミキリムシ追記. 山口県の自然, 19 (9) : 29-31.
(フタスジカタビロハナカミキリ・ツマキトラカミキリ)
- 三好和雄, 1965a. 山口県産天牛目録. 山口県の自然, (14) : 12-17. (フタスジカタビロハナカミキリ・モウセンハナカミ
キリ・クロソンホソハナカミキリ・ヒゲジロホソコバネカミキリ・ヨツボシカミキリ・アオカミキリ・ルリボシカミキリ・チャイロチビヒラタカミ
キリ・モンクロベニカミキリ・セダカコブヤハズカミキリ・ヒメビロウドカミキリ・イッシキキモンカミキリ)
- 棕木博昭, 2004. 豊田町で採集された甲虫類. 山口のむし, (3) : 57-58.
(オオヒラタハナムグリ・アオカミキリ・ミツギリゾウムシ)
- 棕木博昭, 2006c. 萩市のカミキリムシ目録. 萩博物館研究報告, (2) : 5-14.
(ベーツヒラタカミキリ・オオクロカミキリ・フタコブルリハナカミキリ・モウセンハナカミキリ・オガサワラチャイロカミキリ・アオカミキリ・トラ
フカミキリ・アカジマトラカミキリ・クビアカモモトホソカミキリ)
- 棕木博昭, 2008e. 萩市のカミキリムシ目録Ⅱ. 萩博物館調査研究報告, (4) : 9-18.
(ヨツボシシロオビゴマフカミキリ・セダカコブヤハズカミキリ・イッシキキモンカミキリ)
- 棕木博昭・田中 馨・田中伸一・久保田 孝, 2003. 2002 年に採集した長野山山系の甲虫. 山口のむし,
(2) : 29-45. (ルリクワガタ・オオダイセマダラコガネ・オオキノコムシ)
- 村上幸一, 1986. 山口県徳佐周辺のカミキリ (1). 北九州の昆虫, 2 (33) : 119-121.
(フタスジカタビロハナカミキリ・フタコブルリハナカミキリ・ルリボシカミキリ・チャイロホソヒラタカミキリ・イッシキキモンカミキリ)
- 山口県立山口博物館 (編), 2016. 山口県立山口博物館収蔵昆虫標本目録 2016 年度版. Version 1.00. 山口.
(全種に適用)
- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会(編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会.
(全種に適用)
- 山口むしの会昆虫目録制作委員会(編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 38pls., 2049pp., 山口むしの会.
(全種に適用)

■ アミメカゲロウ目

・種指定文献リスト

- 稲田博夫, 2009. 岩国市錦町宇佐でキバネツノトンボを確認. 山口のむし, (8) : 115.

- 稲田博夫, 2011. 岩国市美和町でキバネツノトンボの大量発生を確認. 山口のむし, (10) : 128.
 岩国市の自然改訂編纂委員会 (編), 2011. 岩国市の自然. 293pp., 岩国市教育委員会 科学センター, 岩国.
 (キバネツノトンボ)
- 後藤和夫, 2013. 2012年に確認したカマキリモドキ三種. 山口のむし, (12) : 111. (ツマグロカマキリモドキ)
- 後藤和夫, 2018. 秋吉台のツマグロカマキリモドキについて. 山口のむし, (17) : 202.
- 福田竹美, 2018. キバネツノトンボ美和町のその後. 山口のむし, (17) : 202.
- 三好和雄, 1973. 山口県下のツノトンボ科. 山口県の自然, (29) : 20. (キバネツノトンボ)
- 三好和雄, 1975. 美和町の昆虫相について (その一). 山口県の自然, (33) : 22-35. (キバネツノトンボ)

・ 共通文献リスト (二種以上)

- 平嶋義宏・森本 桂 (監修), 2008. 新訂原色昆虫大図鑑第Ⅲ巻. 654pp., 北隆館, 東京. (全種に適用)
- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会(編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会.
 (ツマグロカマキリモドキ・キバネツノトンボ)
- 山口むしの会昆虫目録制作委員会 (編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 84pls., 2049pp., 山口むしの会.
 (ツマグロカマキリモドキ・キバネツノトンボ)

■ ハチ目

・ 種指定文献リスト

- 川元 裕, 2018. 2017年の山口県におけるハチ目昆虫の採集記録について. 山口のむし, (17) : 193.
 (キオビホオナガスズメバチ)
- 管 哲朗, 2016. 阿武町でニッポンハナダカバチを観察. 山口のむし, (15) : 192.
- 後藤和夫, 2010. ウマノオバチを秋芳町で確認. 山口のむし, (9) : 154.
- 後藤和夫, 2013a. ウマノオバチとヒメウマノオバチの記録. 山口のむし, (12) : 112.
- 後藤和夫, 2013b. キオビホオナガスズメバチを徳地で確認. 山口のむし, (12) : 115.
- 後藤和夫, 2014. ウマノオバチ調査報告 (2013年). 山口のむし, (13) : 111.
- 後藤和夫, 2015. ウマノオバチ調査報告 (2014年). 山口のむし, (14) : 133.
- 後藤和夫, 2016. ウマノオバチ県内の分布状況について. 山口のむし, (15) : 189-190.
- 後藤和夫, 2017. ウマノオバチの追加記録. 山口のむし, (16) : 159.
- 後藤和夫, 2018a. 2017年に確認したウマノオバチ. 山口のむし, (17) : 198.
- 後藤和夫, 2018b. ヨウロウアシトハバチの確認 2例. 山口のむし, (17) : 200-201.
- 後藤和夫, 2019a. 2018年に確認したニッポンハナダカバチ. 山口のむし, (18) : 152.
- 後藤和夫, 2019b. キアシハナダカバチモドキを山陽小野田市で確認. 山口のむし, (18) : 154.
- 下野誠之, 2007. セナガアナバチの採集記録. 山口のむし, (6) : 117. (サトセナガアナバチ)
- 下野誠之, 2012. フクイアナバチの採集記録. 山口のむし, (11) : 135.
- 下野誠之, 2013. キアシハナダカバチモドキの採集記録. 山口のむし, (12) : 115-116.
- 杉本博之・宗野俊平・清水和也, 2014. タイワンヒラアシキバチの採集記録. 山口のむし, (13) : 113-114.
- 杉本博之・宗野俊平・清水和也, 2015. ナラ枯れ枯死木からタイワンヒラアシキバチの採集記録. 山口のむし,
 (14) : 136-137.
- 多田内 修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 480pp., 文一総合出版, 東京. (キバラハキリバチ)
- 田中 馨, 2005. ニッポンハナダカバチとスミゾメハキリバチの記録. 山口のむし, (4) : 127.
 (ニッポンハナダカバチ)
- 中村 孝, 2014. 山口市秋穂二島でキアシハナダカバチモドキを採集. 山口県の自然, (74) : 59-60.
- 中村 孝, 2015. 山口県のハチ類採集記録. 山口のむし, (14) : 139-142. (キアシハナダカバチモドキ)
- 山口むしの会保全委員会昆虫調査班, 2014. 美祢市美東町長登地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (13) : 121-149.
 (シロスジフトハナバチ)

・ 共通文献リスト (二種以上)

- 岩国市の自然改訂編纂委員会 (編), 2011. 岩国市の自然. 293pp., 岩国市教育委員会 科学センター, 岩国.
 (オオナギナタハバチ, ヨウロウヒラクチハバチ, パバシロアシマルハバチ, オオツマジロハバチ, ジョウノハバチ, オオシロモンハバチ, ハコネハバチ,
 トゲムネアオハバチ, フタツバトゲセイボウ, ムネアカアリバチ, マルヤマクモバチ, コモンツチバチ, キオビホオナガスズメバチ, サトセナガ
 アナバチ, ヘロスギングチ, イシハラヒメハナバチ, マイマイツツハナバチ)

- 川元 裕・中村 孝, 2017. 2016年の山口県におけるハチ目昆虫の採集記録について. 山口のむし, (16):153-155.
(マルモンツチスガリ, ヤマトスナハキバチ, コモンツチバチ, ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 川元 裕, 2018. 2017年の山口県におけるハチ目昆虫の採集記録について. 山口のむし, (17):193.
(ヨウロウヒラクチハバチ, キオビホオナガスズメバチ)
- 下野誠之, 2015. 再びフクイアナバトとキアシハナダカバチモドキ. 山口のむし, (14):135.
- 田中伸一, 2007. 山口県の有剣類. つねきばち (12):39-48.
(フトコツチバチ, カゲロウギングチ, ニッポンツチスガリ, ソボツチスガリ)
- 田中伸一, 2010. 伴氏採集の有剣類. 山口のむし, (9):159-161. (フクイアナバチ, コガタウツギヒメハナバチ)
- 田中伸一, 2011. 山口県産有剣類のデータ集. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (3):65-98.
(フタツバトゲセイボウ, ホンドツヤセイボウ, トゲムネアリバチ, ムネアカアリバチ, マルヤマクモバチ, マエアカクモバチ, アケボノクモバチ, ヒラカタクモバチ, フトコツチバチ, シロオビハラナガツチバチ, コモンツチバチ, カバオビドロバチ, キオビホオナガスズメバチ, サトセナガアナバチ, モンキジガバチ, キゴシジガバチ, フクイアナバチ, ヤマトスナハキバチ, カゲロウギングチ, ウスキギングチ, ヘロスギングチ, コシブトジガバチモドキ, マルモンツチスガリ, ニッポンツチスガリ, ソボツチスガリ, オオムカシハナバチ, イシハラヒメハナバチ, コガタウツギヒメハナバチ, ミズホヤドリコハナバチ, ネジロハキリバチ, イマイツツハナバチ, マイマイツツハナバチ, ツツハナバチ, シロスジフトハナバチ, ウスルリモンハナバチ, ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 田中伸一, 2015. 山口県産ハバチ・キバチ類目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (7):27-44.
(オオナギナタハバチ, シリグロチュウレンジ, ヨウロウヒラクチハバチ, マツノクロホシハバチ, ツマグロシダハバチ, ムモンムネアカハバチ, ババシロアシマルハバチ, オオツマジロハバチ, ツノジロナアカハバチ, ジョウノハバチ, オオセグロアハバチ, オオシロモンハバチ, ハコネハバチ, トゲムネアハバチ)
- 田中伸一・田中 馨, 2007. 山口県のハバチ類. 山口のむし, (6):101-114.
(オオナギナタハバチ, シリグロチュウレンジ, マツノクロホシハバチ, ツマグロシダハバチ, ムモンムネアカハバチ, ババシロアシマルハバチ, オオツマジロハバチ, ツノジロナアカハバチ, ジョウノハバチ, オオセグロアハバチ, オオシロモンハバチ, ハコネハバチ, トゲムネアハバチ)
- 田中伸一・田中 馨, 2008. 山口県の有剣類. 山口のむし, (7):112-129.
(フタツバトゲセイボウ, ホンドツヤセイボウ, トゲムネアリバチ, ムネアカアリバチ, マルヤマクモバチ, マエアカクモバチ, アケボノクモバチ, ヒラカタクモバチ, フトコツチバチ, シロオビハラナガツチバチ, コモンツチバチ, カバオビドロバチ, キオビホオナガスズメバチ, サトセナガアナバチ, モンキジガバチ, キゴシジガバチ, フクイアナバチ, ヤマトスナハキバチ, カゲロウギングチ, ウスキギングチ, ヘロスギングチ, コシブトジガバチモドキ, マルモンツチスガリ, ニッポンツチスガリ, ソボツチスガリ, オオムカシハナバチ, イシハラヒメハナバチ, コガタウツギヒメハナバチ, ミズホヤドリコハナバチ, ネジロハキリバチ, イマイツツハナバチ, マイマイツツハナバチ, ツツハナバチ, ウスルリモンハナバチ)
- 田仲義弘, 2012. 狩蜂生態図鑑. 192pp., 全国農村教育協会, 東京.
(ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 寺山 守・須田博之, 2016. 日本産有剣ハチ類図鑑. 737pp., 東海大学出版, 東京.
(ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 中村 孝, 2018. 2017年に確認したハチ類. 山口のむし, (17):194-196.
(ニッポンツチスガリ, ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ)
- 椋木博昭, 2007. 萩市大島の昆虫相. 山口のむし, (6):118-124.
(キゴシジガバチ, ニッポンハナダカバチ, キバラハキリバチ)
- 水情報国土データ管理センター, 2015. 河川環境データベース. 入手先, 河川環境データベースシステム,
<http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/03/index.htm>. (参照2016-01-11).
(キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 三好和雄, 1988. 膜翅目. pp.46, 187-197., 山口県の昆虫. 山口県立山口博物館(編), 山口.
(ムモンムネアカハバチ, ハコネハバチ, トゲムネアハバチ, アケボノクモバチ, ヒラカタクモバチ, コモンツチバチ, カバオビドロバチ, キオビホオナガスズメバチ, モンキジガバチ, キゴシジガバチ, マルモンツチスガリ, ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 山口県環境生活部自然保護課(編), 2003. レッドデータブックやまぐち(普及版). 188pp., 山口.
(オオナギナタハバチ, ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 山口県立山口博物館(編), 2016. 山口県立山口博物館収蔵昆虫標本目録2016年度版. Version 1.00, 山口.
(CD-R). (ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会(編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト2011. 198pp., 山口むしの会.
(ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)
- 山口むしの会昆虫目録制作委員会(編), 2018. 山口県の昆虫目録2018. 84pls., 2049pp., 山口むしの会.
(ニッポンハナダカバチ, キアシハナダカバチモドキ, キバラハキリバチ)

■ ハエ目

・種指定文献リスト

- 池田 寛, 1967. 徳地町長者ヶ原の昆虫. 山口県の自然, (17) : 23-25. (キンメアブ)
- 柿沼 進, 2008a. ゴヘイニクバエを角島で採集. 山口のむし, (7) : 136-137.
- 柿沼 進, 2008b. 山口県の海浜で採集したムシヒキアブ. 山口のむし, (7) : 137-139. (ヒラタムシヒキ)
- 柿沼 進, 2008c. モモボソヒラズムシヒキを錦町で採集. 山口のむし, (7) : 140.
- 柿沼 進, 2008d. 山口県でトゲヒメヒラタアブを採集. はなあぶ, (25) : 23. (トゲヒメヒラタアブ)
- 柿沼 進, 2009a. 山口県のニクバエⅡ. 山口のむし, (8) : 129-130. (ヒメニクバエ)
- 柿沼 進, 2009b. 山口市の海浜でシママメヒラタアブを採集. 山口のむし, (8) : 130-131.
- 柿沼 進, 2009c. ツバメに捕獲されたと思われるスズキベッコウハナアブ. 山口のむし, (8) : 131.
- 柿沼 進, 2009d. 山口県・島根県海浜性ツルギアブ分布記録. はなあぶ, (27) : 54-55. (ハマツルギアブ)
- 柿沼 進, 2010. 山口県のアブ科分布記録. 山口のむし, (9) : 162-163. (マルガタアブ)
- 柿沼 進, 2011a. ヤドリトリキンバエを山口県で採集. はなあぶ, (29) : 41. (ヤドリトリキンバエ)
- 柿沼 進, 2011b. 山口県のニクバエ科目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (3) : 55-64. (トゲニクバエ)
- 佐伯真一・管 哲郎, 2018. ケンランアリノスアブを宇部市で確認. 山口のむし, (18) : 101.

下野誠之, 2014. トワダオオカとヒサマツハチモドキハナアブの採集記録. 山口のむし, (13) : 116.

(ヒサマツハチモドキハナアブ)

末永 敏・下釜 勝・河合潜二, 1964. ハエ類の生態学的研究9. 中部及び南西日本各地で魚 肉金網トラップによって採集されたハエ群衆の比較. 長崎大学風土病紀要, (6) : 34-47. (トゲニクバエ)

角田正明, 2015. 山口県産所蔵標本のリストについて. 山口のむし, (14) : 162-169. (スズキベッコウハナアブ)

田中 馨, 2005. ヒラヤマミズアブとオガサワラツリアブの記録. 山口のむし, (4) : 127. (ヒラヤマミズアブ)

田中 馨, 2008. タイワンオオヒラタアブを宇部市で再記録. 山口のむし, (7) : 141.

田中伸一, 2002. 山口県より見つかった希なハナアブ科3種. はなあぶ, (14) : 8. (ワタリムツボシヒラタアブ)

田中伸一, 2003. 山口県の大翅目3種の記録. はなあぶ, (15-1) : 62. (エダヒゲムシヒキ)

田中伸一, 2006. 山口県初記録のトゲモンハナアブを採集. 山口のむし, (5) : 107.

田中伸一, 2008a. 山口県における *Eumerus* 属 (ハイジマ型ハナアブ) について. 山口のむし, (7) : 130.

(イイダハイジマハナアブ)

田中伸一, 2008b. 山口県産クロハナアブ属 (A群) について. 山口のむし, (7) : 130-131. (オモゴクロハナアブ)

辻 雄介・辻 春香, 2019. 岩国市でハマダラハルカを確認. 山口のむし, (18) : 152.

福田竹美・五味 清, 2015. 光市文化センター所蔵の昆虫標本. 山口のむし, (14) : 144-161. (ハキナガミズアブ)

三好和雄, 1963a. 岩国昆虫採集記. 山口県の自然, (8) : 16-18. (ミズアブ)

三好和雄, 1963b. 須佐における昆虫採集記録. 山口県の自然, (10) : 42-44. (ヨスジキンメアブ)

三好和雄, 1970. 防府市向島における昆虫採集記録. 山口県の自然, (24) : 28-30. (ハチモドキハナアブ)

三好和雄・佐古正彦, 1962. 青海島昆虫採集目録. 山口県の自然, (6) : 25-26. (ヨスジキンメアブ)

三好和雄, 1997. 続光市産昆虫目録・付 続光市虹ヶ浜の昆虫相. 21pp., 自刊. (ハチモドキハナアブ)

三好和雄, 2002. 続光市産昆虫目録No.3 付続光市虹ヶ浜の昆虫相No.3. 16pp., 自刊. (トゲヒメヒラタアブ)

・共通文献リスト (二種以上)

池田 寛・松田 賢・吉田浩史・岡本 生, 1998. 山口県佐波川流域の昆虫. 防府市青少年科学館研究紀要, (1) : 23-42. (ミズアブ, アシナガムシヒキ, シママメヒラタアブ)

岩国市の自然改訂編纂委員会 (編), 2011. 岩国市の自然. 293pp., 岩国市教育委員会 科学センター, 岩国.

(モモボソヒラズムシヒキ, オオシマハナアブ)

柿沼 進, 2009. ミズアブ科, シギアブ科およびナガレアブ科の分布記録. 山口のむし, (8) : 128.

(*Chrysopilus morimotoi*, クロモンナガレアブ, ハマダラナガレアブ)

柿沼 進, 2010a. 山口県のニクバエⅢ. 山口のむし, (9) : 164-166.

(サタニクバエ, ホオザワニクバエ, ウエモトニクバエ, スマニクバエ, トゲニクバエ)

柿沼 進, 2010b. 山口県の大翅類分布記録 (アブ科・ニクバエ科以外). 山口のむし, (9) : 167.

(ハマダラハルカ, マルガタアブ)

柿沼 進, 2011a. 山口県のクロバエ. 山口のむし, (10) : 135-138.

(クマモトトラフバエ, ヤドリトリキンバエ)

- 柿沼 進, 2011b. 山口県双翅目分布記録 (2010). 山口のむし, (10) : 131-140.
(ヨスジキンメアブ, シロスネアブ, トラツリアブ, *Allognosta flavimaculata*, ハマダラナガレアブ, マルガタアブ, ニセアカウシアブ, シバカワツ
リアブ, ヤマシロツリアブ, シママメヒラタアブ, イイダハイジマハナアブ, マツダマダラヒロクチバエ)
- 柿沼 進, 2011c. 山口県のニクバエ IV (完). 山口のむし, (10) : 139-140.
(シロオビギンガクヤドリニクバエ, ウベホソニクバエ)
- 柿沼進, 2016. 山口県双翅目分布記録 (2015). 山口のむし, (15) : 184-187.
(*Chrysopilus morimotoi*, ハマダラハルカ)
- Kurahashi H., 2010. Two new species of Goniophyto from Honshu, Japan (Diptera: Sarcophagidae). *Med. Entomol. Zool*, 61(4) : 375-382.
(カキヌマホソニクバエ, ウベホソニクバエ)
- 三枝豊平, 2008. ハエ目. 新訂原色昆虫大圖鑑Ⅲ. pp. 255-458, 北隆館, 東京. (全種に適用)
- 下野誠之, 2013. 双翅目 2種の記録. 山口のむし, (12) : 116. (ネグロクサアブ, ハチモドキハナアブ)
- 双翅目談話会, 2002. データアップ図鑑 日本のハナアブ Ver. 1. 228pp., 双翅目談話会「図鑑 日本のハナア
ブ」編集委員会 (編), 京都. (ハナア
ブ科全種)
- 田中 馨, 1988. 双翅目. pp. 43, 117-126. 山口県の昆虫. 山口県立山口博物館 (編), 山口.
(ハマダラナガレアブ, ヨコモンヒラタアブ, ハチモドキハナアブ, オオズグロメバエ)
- 田中 馨, 1974. 山口県のアブ類. 昆虫と自然, (9) : 21-24. (ニセアカウシアブ, シロスネアブ, トラツリアブ, オ
オシマハナアブ, ヒメルリミズアブ, ヒラヤマミズアブ, ミズアブ, マルガタアブ, キンメアブ, ヤマシロアブ, オタネガワイシアブ, ツマグロヒ
ゲボソムシヒキ, タイワンオオヒラタアブ, ヨコモンヒラタアブ, イイダハイジマハナアブ, ヒメルリイロアリノスアブ)
- 田中 馨・田中伸一, 2003. 山口県のアブ類. 山口のむし, (2) : 85-92. (オオシマハナアブ, ケンランアリノスアブ,
タイワンオオヒラタアブ, ヨコモンヒラタアブ, キオビハラボソヒラタアブ, ワタリムツボシヒラタアブ, スズキベッコウハナアブ, ナガモモト
ハナアブ, カワムラモモトハナアブ, ハチモドキハナアブ, スルスミシマハナアブ, キョウトハナアブ (ムモンハナアブ), キバラナガハナアブ,
コシアキオオモモトハナアブ, マツムラナガハナアブ, モモトチビハナアブ, ヨコジマナガハナアブ, クロアシハラナガハナアブ, クロハラナ
ガハナアブ, ミヤマルリイロハラナガハナアブ, ヒメルリイロアリノスアブ)
- 田中 馨・田中伸一・椋木博昭, 2003. 中国地方ハナアブ科の分布資料. はなあぶ, (16) : 43-44.
(キョウトハナアブ (ムモンハナアブ), オオフタモンハナアブ, キガオモモトハナアブ, コシアキオオモモトハナアブ, ヒサマツケバカハラナ
ガハナアブ, クロアシハラナガハナアブ)
- 田中伸一, 2009. 山口県産ハナアブの変更・追加について. 山口のむし, (8) : 124-126.
(シバカワオビヒラタアブ, コマバクロハナアブ)
- 田中伸一・田中 馨, 2009. 山口県のメバエ. はなあぶ, (27) : 70-71.
(キアシクロメバエ, *Thecophra atra*, *Thecophora pusilla*)
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2004. 山口県のムシヒキアブ. 山口のむし, (3) : 88-91.
(コーカサスイシアブ, カタナクチイシアブ, オタネガワイシアブ, エダムゲムシヒキ, カワムラヒゲボソムシヒキ, ツマグロヒゲボソムシヒキ, ハタ
ケヤマヒゲボソムシヒキ)
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2005a. 山口県のアブ類 (Part2). 山口のむし, (4) : 115-126.
(ウスグロオビヒラタアブ, ノラヒラタアブ (ホソオビヒラタアブ), クロイワオビヒラタアブ, ニセツマグロハナアブ, キオビハラボソヒラタアブ,
ナガモモトハナアブ, カワムラモモトハナアブ, ケコヒラタアブ, ヒサマツハチモドキアブ, ハチモドキハナアブ, ケバカハチモドキハナアブ,
タテジマクロハナアブ, スルスミシマハナアブ, トゲミケハラブトハナアブ, キョウトハナアブ (ムモンハナアブ), オオフタモンハナアブ, キガオ
モモトハナアブ, コシアキオオモモトハナアブ, マツムラナガハナアブ, ヨコジマナガハナアブ, ヒサマツケバカハラナガハナアブ, クロアシ
ハラナガハナアブ, クロハラナガハナアブ, ヒメルリイロアリノスアブ, オオシマハナアブ)
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2005b. 山口県のアブ類 (Part.2.1). はなあぶ, (20) : 93-100.
(ウスグロオビヒラタアブ, ノラヒラタアブ (ホソオビヒラタアブ), クロイワオビヒラタアブ, ニセツマグロハナアブ, キオビハラボソヒラタアブ,
ワタリムツボシヒラタアブ, ナガモモトハナアブ, カワムラモモトハナアブ, ケコヒラタアブ, ヒサマツハチモドキアブ, ハチモドキハナアブ,
ケバカハチモドキハナアブ, タテジマクロハナアブ, スルスミシマハナアブ, トゲミケハラブトハナアブ, オオフタモンハナアブ, キガオモモト
ハナアブ, キバラナガハナアブ, コシアキオオモモトハナアブ, マツムラナガハナアブ, ヨコジマナガハナアブ, ヒサマツケバカハラナガハナア
ブ, クロアシハラナガハナアブ, クロハラナガハナアブ, ヒメルリイロアリノスアブ)
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2006a. 山口県のアブ類. 山口のむし, (5) : 103-104.
(ヒゲナガキアブモドキ, トラキアブモドキ, ケジロキアブ, シマクサアブ, ネグロクサアブ, ハダカキアブ, ヒロクツルギアブ, ショージツ
ルギアブ, ハタケヤマヒゲボソムシヒキ)
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2006b. 山口県のアブ類. 山口のむし, (5) : 104-105. (キバラトゲナシミズアブ,
ヒメルリミズアブ, ヒラヤマミズアブ, ハキナガミズアブ, ヒメキイロコウカアブ, ヒメミズアブ, ミズアブ, *Chorisops maculiala*)

田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2006c. 山口県のムシヒキアブ (Part2). 山口のむし, (5) : 106-107.

(オタネガワイシアブ, エダヒゲムシヒキ, アシナガムシヒキ, カワラムシヒキ, カワムラヒゲボソムシヒキ, ツマグロヒゲボソムシヒキ)

田中伸一・椋木博昭・田中 馨, 2004. 長者ヶ原で採集したハナアブの記録. 山口のむし, (3) : 91-93.

(クロイワオビヒラタアブ, ハチモドキハナアブ)

水情報国土データ管理センター, 2015. 河川環境データベース. 入手先, 河川環境データベースシステム, <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/03/index.htm>. (参照 2016-01-11). (ミズアブ, キバトゲナシミズアブ,

クロモンナガレアブ, アシナガムシヒキ, ハタケヤマヒゲボソムシヒキ, シママメヒラタアブ, モモトチビハナアブ, ヒメニクバエ)

三好和雄, 1970. 鹿野町とその周辺の昆虫 (完). 山口県の自然, (23) : 33-38. (シロスネアブ, トラツリアブ)

山口むしの会稀少昆虫類選定委員会(編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会.

(全種に適用)

山口むしの会昆虫目録制作委員会(編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 84pls., 2034pp., 山口むしの会.

(全種に適用)

山口むしの会保全委員会昆虫調査班, 2014. 美祢市美東町長登地区の昆虫調査. 山口のむし, (13) : 121-149.

(ヒラヤマミズアブ, イイダハイジマハナアブ, ハチモドキハナアブ)

■ トビケラ目

・種指定文献リスト

岩国市の自然改訂編纂委員会(編), 2011. 岩国市の自然. 293pp., 岩国市教育委員会 科学センター, 岩国.

後藤益滋, 1999. 錦川水系にて確認されたカタツムリトビケラについて. 山口県の自然, (59) : 31-33.

後藤益滋, 2009. 山口県におけるカタツムリトビケラ. 山口のむし, (8) : 123.

平嶋義宏・森本 桂(監修), 2008. 新訂原色昆虫大図鑑第Ⅲ巻. 654pp., 北隆館, 東京. (シロフツヤトビケラ)

・共通文献リスト (二種以上)

後藤益滋, 2016. 1997~2015年に山口県内で採集したカゲロウ目, カワゲラ目, トビケラ目について. 山口のむし, (15) : 196-200. (シロフツヤトビケラ・カタツムリトビケラ)

三好和雄, 1988. 毛翅目. pp.28, 81-83., 山口県の昆虫. 山口県立山口博物館(編), 山口.

(シロフツヤトビケラ・カタツムリトビケラ)

山口むしの会昆虫目録制作委員会(編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 84pls., 2049pp., 山口むしの会.

(シロフツヤトビケラ・カタツムリトビケラ)

水情報国土データ管理センター, 2015. 河川環境データベース. 入手先, 河川環境データベースシステム, <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/03/index.htm>. (参照 2016-01-11).

■ チョウ目 (ガ類)

・種指定文献リスト

伊藤靖子, 2004. 長者ヶ原で採集された蛾類. 山口のむし, (3) : 21-29. (オキナワリチラス)

伊藤靖子, 2008. 山口県におけるフジキオビの新産地. 山口のむし, (7) : 34.

稲田博夫, 2007. サツマニシキ岩国市内で確認される. 山口のむし, (6) : 30.

稲田博夫, 2008. 岩国市横山のサツマニシキ. 山口のむし, (7) : 34.

枝 恵太郎・岸田泰則, 2014. 山口県秋吉台で採集された日本未記録の *Heliochilus bimaculata* (Moore) アキヨシアカスジャガ (新称) について. 蛾類通信, (272) : 562-563.

岡村元昭, 2015. 秋吉台で日本未記録のタバコガを採集. 山口のむし, (14) : 72. (アキヨシアカスジャガ)

後藤和夫, 2005. オキナワリチラス阿東町で採集. 山口のむし, (4) : 32.

後藤和夫, 2007. フチグロトゲエダシャクを山口県で採集. 月刊むし(439) : 41.

後藤和夫, 2010a. フチグロトゲエダシャクの追加記録. 山口のむし, (9) : 79-80.

後藤和夫, 2010b. オキナワリチラスの追加記録. 山口のむし, (9) : 79.

後藤和夫, 2012. フチグロトゲエダシャクの追加記録 (2011). 山口のむし, (11) : 74.

後藤和夫, 2013a. フチグロトゲエダシャクの追加報告と動向. 山口のむし, (12) : 73.

後藤和夫, 2013b. 本州初記録のミズメイガ亜科ほか数種について. 山口のむし, (12) : 74.

(ハネホソトガリミズメイガ)

後藤和夫, 2015. 山口県阿東のオキナワリチラス. 山口のむし, (14) : 76.

五味 清, 2014. フチグロトゲエダシャクの交尾行動観察. 山口のむし, (13) : 81.

- 佐藤力夫・岡耿一郎・柴原克己・仲田幸樹・佐々木公隆, 2002. 日本未記録種アキヨシトガリエダシヤク (新称)の発見. 誘蛾燈 : (167) : 1-7.
- 重中良之, 2008. 皇座山で確認した蛾類. 山口のむし, (7) : 33. (オオミノガ)
- 重中良之, 2018. オオミノガとオオミノガヤドリバエ寄生ミノの記録. 山口のむし, (17) : 83.
- 重中良之・村田 淳, 2017. 山口県のサツマニシキ (2016) . 山口のむし, (16) : 94.
- 重中良之・村田 淳, 2018a. 山口県のサツマニシキ追加記録. 山口のむし, (17) : 84.
- 重中良之・村田 淳, 2018b. 前翅前縁部が橙色になるマエアカヒトリを秋吉台で採集. 山口のむし, (17) : 85.
- 角田正明, 2015. 山口県産所蔵標本のリストについて. 山口のむし, (14) : 162-168. (サツマニシキ)
- 白水房江, 2010. ヒヨドリバナで吸蜜をするサツマニシキの記録. 山口のむし, (9) : 70.
- 田中 馨, 2005. フジキオビを寂地山で採集. 山口のむし, (4) : 36.
- T.Hirowatari・H.Yamamoto, 2004. Dyscovery of *Nemophora smaragdapis* (Meyrick) (Adelidae) . *Tinea*, 18 (1) : 30-35. (アキヨシヒゲナガ)
- 中西 淳, 2007. サツマニシキ下関市内で定着か. 山口のむし, (6) : 31.
- 中西 淳, 2008. マエアカヒトリ秋吉台で確認される. 山口のむし, (7) : 31.
- 中西 淳, 2009a. オキナワリチラシの新産地. 山口のむし, (8) : 52.
- 中西 淳, 2009b. フチグロエダシヤクの新産地. 山口のむし, (8) : 52-53.
- 中西 淳, 2011a. 秋吉台における蛾類採集記録. 山口のむし, (10) : 64. (マエアカヒトリ)
- 中西 淳, 2011b. エンスイミズメイガを採集. 山口のむし, (10) : 65.
- 中西 淳, 2012. 阿知須干拓地でスゲドクガを採集. 山口のむし, (11) : 64.
- 中西 淳, 2013. 山口県でハネホソトガリミズメイガを採集. 誘蛾灯, (211) : 40-41.
- 那須芳次, 広渡俊哉, 岸田康則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑IV. 553pp., 学研教育出版, 東京. (ハネホソトガリミズメイガ)
- 福田竹美・五味 清, 2015. 光市文化センター所蔵の昆虫標本. 山口のむし, (14) : 144-161. (オオミノガ)
- 藤川 匠, 2005. サツマニシキを山口県下関市で採集. 月刊むし, (410) : 44.
- 水情報国土データ管理センター, 2015. 河川環境データベース. 入手先, 河川環境データベースシステム, <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/03/index.htm>. (参照 2016-01-11) (オオミノガ)
- 三好和雄, 1976. 美和町の昆虫相について (その二). 山口県の自然, (34) : 22-33. (カバイロシャチホコ)
- 椋木博昭, 2018. マエアカヒトリ萩市の記録. (18) : 86.
- 村田 淳・重中良之, 2018. アキヨシヒゲナガの新産地. 山口のむし, (17) : 87.
- 山本匡章, 2017. 下関市内自宅庭でサツマニシキ確認. 山口のむし, (16) : 92.
- 山本匡章, 2019. 下関市内のサツマニシキ. 山口のむし, (18) : 66.
- 渡辺一雄・中西 淳・後藤和夫・管 哲郎・岡村元昭, 2012. フチグロトゲエダシヤク ー山口県南西部における記録と生態. 山口のむし, (11) : 57-71.

・ 共通文献リスト (二種以上)

- 池ノ上利幸, 2005. 山口県東部における蛾類の訪花活動 追録 I. 誘蛾燈, (181):89-105. (ギンモンセダカモクメ, アオモンギンセダカモクメ, ダイセンセダカモクメ)
- 岡村元昭・中西 淳, 2013. 秋吉台国定公園の蛾類調査報告 (その1) . 山口のむし, (12) : 55-70. (アキヨシトガリエダシヤク, キンモンセダカモクメ, アオモンギンセダカモクメ, ダイセンセダカモクメ, カバイロシャチホコ, マエアカヒトリ)
- 川元 裕, 2015. 秋吉台の秋季の蛾類について. 山口のむし, (14) : 73-74. (ギンモンセダカモクメ, アオモンギンセダカモクメ)
- 岸田泰則 (編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 I, 353pp., 学研教育出版, 東京. (アキヨシトガリエダシヤク, フチグロトゲエダシヤク)
- 岸田泰則 (編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 II, 416pp., 学研教育出版, 東京. (カバイロシャチホコ, ギンモンセダカモクメ, アオモンギンセダカモクメ, ダイセンセダカモクメ)
- 後藤和夫・五味 清, 2019. 山口県の昆虫類 R D L (2018) 蛾類・蝶類の選定種について. 日本鱗翅学会中国支部会報, (20) : 2-9. (全種に適用)
- 重中良之, 2010. 山口県東部で採集した蛾類の記録. 山口のむし, (9) : 71-73. (オオミノガ, シロオビフユシヤク)
- 重中良之, 2017. 柳井市で採集した情報不足の蛾 2 種. 山口のむし, (16) : 95. (シロオビフユシヤク, スゲドクガ)

- 谷田昌也・石川和宏(編), 2013. 六虫会 25 周年記念誌 六虫会と中国地方の蛾類. 六虫会で得られた蛾類データ集, pp.79-95., 大阪. (ギンモンセダカモクメ, ダイセンセダカモクメ)
- 中西 淳, 2007. カルバート照明灯に集まる蛾類. 山口のむし, (6) : 32. (オオミノガ, シロオビフユシヤク)
- 中西 淳, 2010. 秋吉台夜間蛾類調査. 山口のむし, (9) : 76-77. (アキヨシヒゲナガ, アキヨシトガリエダシヤク)
- 那須義次, 広渡俊哉, 岸田泰則(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑IV, 553pp., 学研教育出版, 東京. (エンスイミズメイガ, ハネホソトガリミズメイガ)
- 広渡俊哉, 那須義次, 坂巻祥孝, 岸田泰則(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑III, 359pp., 学研教育出版, 東京. (オオミノガ, オキナワリチラシ, サツマニシキ)
- 山口県立山口博物館, 2016. 山口県産蛾類収集データ集 2016 年度版. Version 1.00, 山口, 2016. (CD-R). (オオミノガ, アキヨシトガリエダシヤク, ギンモンセダカモクメ, アオモンギンセダカモクメ, ダイセンセダカモクメ)
- 山口県立山口博物館, 2016. 山口県立山口博物館収蔵昆虫標本目録 2016 年度版. Version 1.00, 山口, (CD-R). (オオミノガ, オキナワリチラシ, アキヨシトガリエダシヤク, ギンモンセダカモクメ, アオモンギンセダカモクメ, ダイセンセダカモクメ)
- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会(編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会. (オオミノガ, オキナワリチラシ, サツマニシキ, フチグロトゲエダシヤク, アキヨシトガリエダシヤク, ギンモンセダカモクメ, アオモンギンセダカモクメ, ダイセンセダカモクメ, カバイロシヤチホコ)

■ チョウ目 (チョウ類)

・種指定文献リスト

- 有田 斉・前田善広(編), 2013. 珠玉の標本箱. シジミチョウ科③, 37pp., NRC 出版. (クロシジミ)
- 有田 斉・前田善広(編), 2014. 珠玉の標本箱. アゲハチョウ科②, 61pp., NRC 出版. (ギフチョウ)
- 有田 斉・前田善広(編), 2016. 珠玉の標本箱. シジミチョウ科⑨, 75pp., NRC 出版. (ヒメシジミ)
- 有田 斉・前田善広(編), 2016. 珠玉の標本箱. ジャノメチョウ亜科①, 45pp., NRC 出版. (ヒメヒカゲ)
- 有田 斉・前田善広(編), 2017. 珠玉の標本箱. ジャノメチョウ亜科②, 33pp., NRC 出版. (ウラナミジャノメ)
- 有田 斉・前田善広(編), 2018. 珠玉の標本箱. ジャノメチョウ亜科④, 85pp., NRC 出版. (クロヒカゲモドキ)
- 阿部友哉・博明, 2006. オオウラギンヒョウモンの異常個体. 山口のむし (5) : 26.
- 阿部由佳・咲江, 2007. ギフチョウの羽化不全個体を確認. 山口のむし, (6) : 29.
- 伊ヶ崎伸彦, 2016. 岩国市錦町河津峡でスジボソヤマキチョウを確認. 山口のむし, (15) : 78.
- 伊藤 寿, 2007. 広島県境付近のホシミスジの分布について. 山口のむし, (6) : 23-24.
- 稲田博夫, 2007. 岩国市平田でツマグロキチョウを撮影・採集. 山口のむし, (6) : 28.
- 稲田博夫, 2010. 自宅の庭で確認した蝶. 山口のむし, (9) : 41-44. (スジグロチャバネセセリ)
- 稲田博夫, 2012. 岩国市内でオオウラギンヒョウモンを確認. 山口のむし, (11) : 44.
- 稲田博夫, 2013. 岩国市街地でのオオムラサキ確認例. 山口のむし, (12) : 44.
- 稲田博夫, 2014a. 岩国市高照寺山山塊部一帯の蝶類, 追加報告. 山口のむし, (13) : 59 (オオムラサキ)
- 稲田博夫, 2014b. オオヒカゲを岩国市羅漢高原で採集. 山口のむし, (13) : 60.
- 稲田博夫, 2015. 下松市でオオウラギンヒョウモンを確認. 山口のむし, (14) : 60.
- 稲田博夫, 2016. 岩国市小瀬, 美和町でのウラギンヒョウモン確認例. 山口のむし, (15) : 78.
- 稲田博夫, 2018. 和木町の蝶類. 山口のむし, (17) : 21-27. (ホシミスジ)
- 稲田博夫, 2019. 錦町羅漢高原でミヤマチャバネセセリを確認. 山口のむし, (18) : 49.
- 稲田博夫・廣中智春, 2017. 玖珂郡和木町でホシミスジ確認. 山口のむし, (16) : 73.
- 大木克行, 2002. 灯火に飛来したウラキンシジミ. 山口のむし, (1) : 17.
- 奥野 進, 2002. 下関で採集したツマグロキチョウ. 山口のむし, (1) : 14.
- 神垣健司, 2012. 冠高原のミナミアカシジミについて. 日本鱗翅学会中国支部会報, (13) : 14-15.
- 川元 裕, 2010. ウラギンヒョウモンの早い発生. 山口のむし, (9) : 48.
- 川元 裕, 2010. 山口県北部におけるスジグロチャバネセセリの採集記録. 山口のむし, (9) : 47-48.
- 川元 裕, 2016. 美祢市でスジグロチャバネセセリを採集. 山口のむし, (15) : 79.
- 川元 裕, 2018. 下松市におけるスジグロチャバネセセリの記録. 山口のむし, (17) : 66.
- 小坂一章, 2005. 2月に羽化したクロツバメシジミ. 山口のむし, (4) : 22.
- 後藤和夫, 1999a. 山口県下のカシワアカシジミ(ミナミアカシジミ)の記録. わたしたちの自然史, (69) : 22-23.
- 後藤和夫, 1999b. 山口県下のクロツバメシジミ最近の状況について. 北九州の昆蟲, 46(1) : 60-62.
- 後藤和夫, 2000. 冠高原におけるアカシジミ属について. 月刊むし, (348) : 56. (カシワアカシジミ)
- 後藤和夫, 2001. 山口県下のクロヒカゲモドキ. わたしたちの自然史, (75) : 22-23.

- 後藤和夫, 2002a. クロヒカゲモドキの一食草について. 月刊むし, (371) : 46.
- 後藤和夫, 2002b. シルビアシジミの遅い記録. 山口のむし, (1) : 6-8.
- 後藤和夫, 2002c. 旭村でオオムラサキを確認. 山口のむし, (1) : 9-10.
- 後藤和夫, 2002d. 宇部市とその近郊で確認したシルビアシジミ. 山口のむし, (1) : 5-6.
- 後藤和夫, 2002e. 宇部市北部で確認したウラナミジャノメ. 山口県の自然, (62) : 40.
- 後藤和夫, 2003a. 角島の蝶類. 山口のむし, (2) : 1-4. (シルビアシジミ)
- 後藤和夫, 2003b. シルビアシジミ異常型2例. 蝶研フィールド, (204) : 30-31.
- 後藤和夫, 2003c. 宇部市のウラナミジャノメ分布状況. 山口県の自然, (63) : 41-44.
- 後藤和夫, 2003d. 山口県の錦川沿いでホシミスジの生息を確認. 月刊むし, (393) : 40-45.
- 後藤和夫, 2003e. 寂地山山頂でオオヒカゲの採集例. 山口のむし, (2) : 6.
- 後藤和夫, 2003f. 宇部市のシルビアシジミ分布状況. 山口のむし, (2) : 13-17.
- 後藤和夫, 2003g. ギンイチモンジセセリ採集地2例. 山口のむし, (2) : 17.
- 後藤和夫, 2003h. ウラナミジャノメ川上村で確認. 山口のむし, (2) : 19.
- 後藤和夫, 2004a. 山口県光市で1960年代初めに採集されたオオウラギンヒョウモン. 月刊むし, (396) : 45-46.
- 後藤和夫, 2004b. 錦川のホシミスジ生態と分布調査. 山口のむし, (3) : 1-3.
- 後藤和夫, 2004c. 美祢市桜山で確認した蝶類. 山口のむし, (3) : 4-6.
- 後藤和夫, 2004d. シルビアシジミ生息地10数例. 山口のむし, (3) : 7.
- 後藤和夫, 2004e. 県内のミヤマチャバネセセリ若干の知見. 山口のむし, (3) : 8-9.
- 後藤和夫, 2004f. ウラナミジャノメ生息地10数例. 山口のむし, (3) : 9-11.
- 後藤和夫, 2004g. 県東部のオオムラサキ. 山口のむし, (3) : 11.
- 後藤和夫, 2004h. 大島郡のホシミスジがユキヤナギで発生. 山口のむし, (3) : 12.
- 後藤和夫, 2004i. 山口県錦川沿いで発見したホシミスジについて. 日本鱗翅学会中国支部会報, (5) : 2-4.
- 後藤和夫, 2005a. ウラギンスジヒョウモン覚え書き. 山口県の自然, (65) : 41-44.
- 後藤和夫, 2005b. ウラナミジャノメの新たな生息地. 山口のむし, (4) : 14.
- 後藤和夫, 2005c. ギフチョウの産卵行動観察例. 山口のむし, (4) : 16.
- 後藤和夫, 2005d. スギタニルリシジミの新産地. 蝶研フィールド, (232) : 24.
- 後藤和夫, 2005e. ツマグロキチョウの追加記録. 山口のむし, (4) : 15.
- 後藤和夫, 2005f. ミヤマチャバネセセリの新たな記録. 山口のむし, (4) : 13.
- 後藤和夫, 2006a. 宇部市霜降岳の蝶類. 山口のむし, (5) : 11-14. (シルビアシジミ)
- 後藤和夫, 2006b. ウラナミジャノメの新たな生息地(2005年). 山口のむし, (5) : 18-19.
- 後藤和夫, 2006c. オオヒカゲを犬戻狭付近で採集. 山口のむし, (5) : 24.
- 後藤和夫, 2006d. シルビアシジミの新たな生息地(2005年). 山口のむし, (5) : 19-20.
- 後藤和夫, 2006e. ツマグロキチョウの採集記録. 山口のむし, (5) : 21-22.
- 後藤和夫, 2006f. 山口県内のクロシジミ新産地と既産地の動向. 蝶研フィールド, (246) : 14-18.
- 後藤和夫, 2007a. ウラナミジャノメの新たな生息地(2006). 山口のむし, (6) : 15.
- 後藤和夫, 2007b. シルビアシジミの新たな生息地(2006). 山口のむし, (6) : 16.
- 後藤和夫, 2007c. クロシジミ白化型の確認例. 蝶研フィールド, (250) : 34.
- 後藤和夫, 2007d. スジボソヤマキチョウ旧鹿野町で確認. 山口のむし, (6) : 19.
- 後藤和夫, 2007e. 奇形ヒョウモン類2例. 山口のむし, (6) : 20. (オオウラギンヒョウモン)
- 後藤和夫, 2008a. 3枚翅で羽化したギンイチモンジセセリ. 蝶研フィールド, (259-260) : 97-98.
- 後藤和夫, 2008b. 下関市豊北町白滝山の蝶類. 山口のむし, (7) : 7-11. (クモガタヒョウモン)
- 後藤和夫, 2008c. ホシミスジ東部県境側で分布拡大. 山口のむし, (7) : 12.
- 後藤和夫, 2008d. ツマグロキチョウの新たな確認地. 山口のむし, (7) : 13.
- 後藤和夫, 2008e. ウラナミジャノメの新たな生息地(2007). 山口のむし, (7) : 14.
- 後藤和夫, 2008f. シルビアシジミの新たな生息地(2007). 山口のむし, (7) : 14.
- 後藤和夫, 2008g. 暖冬により発生の早まった蝶3題. 山口のむし, (7) : 17. (シルビアシジミ)
- 後藤和夫, 2009a. イノシシ除け防護網の中で羽化したウラナミジャノメ. 山口のむし, (8) : 26.
- 後藤和夫, 2009b. ウラナミジャノメの新たな生息地(2008年). 山口のむし, (8) : 20-21.
- 後藤和夫, 2009c. シルビアシジミの新たな生息地(2008年). 山口のむし, (8) : 21-22.
- 後藤和夫, 2009d. ツマグロキチョウの新たな確認地(2008年). 山口のむし, (8) : 22-23.
- 後藤和夫, 2009e. ヘリグロチャバネセセリ青海島に生息. 山口のむし, (8) : 25.

- 後藤和夫, 2010a. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2009年). 山口のむし, (9): 27-28.
- 後藤和夫, 2010b. シルビアシジミの新たな生息地 (2009年). 山口のむし, (9): 28-30.
- 後藤和夫, 2010c. ツマグロキチョウの新たな確認地 (2009年). 山口のむし, (9): 30-31.
- 後藤和夫, 2011a. 長門市油谷半島に生息する蝶類. 山口のむし, (10): 15-23. (シルビアシジミ)
- 後藤和夫, 2011b. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2010年). 山口のむし, (10): 33.
- 後藤和夫, 2011c. シルビアシジミの新たな生息地 (2010年). 山口のむし, (10): 34.
- 後藤和夫, 2011d. スギタニルリシジミの新たな生息地. 山口のむし, (10): 38.
- 後藤和夫, 2011e. スジグロチャバネセセリの新たな生息地を確認. 山口のむし, (10): 37-38.
- 後藤和夫, 2011f. ツマグロキチョウの新たな確認地 (2010年). 山口のむし, (10): 35.
- 後藤和夫, 2012a. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2011年). 山口のむし, (11): 21-22.
- 後藤和夫, 2012b. シルビアシジミの新たな生息地 (2011年). 山口のむし, (11): 22-23.
- 後藤和夫, 2012c. スジグロチャバネセセリの追記 (2011年). 山口のむし, (11): 27.
- 後藤和夫, 2012d. ツマグロキチョウの新たな確認地 (2011年). 山口のむし, (11): 24.
- 後藤和夫, 2012e. 蝶類斑紋異常形態三例. 山口のむし, (11): 29. (シルビアシジミ)
- 後藤和夫, 2013a. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2012年). 山口のむし, (12): 25.
- 後藤和夫, 2013b. キバネセセリ錦町の最奥部で採集. 山口のむし, (12): 29.
- 後藤和夫, 2013c. ギンイチモンジセセリの奇形, 二度目の確認例. 山口のむし, (12): 28.
- 後藤和夫, 2013d. シルビアシジミの新たな生息地 (2012年). 山口のむし, (12): 26.
- 後藤和夫, 2013e. スジグロチャバネセセリの追加記録 (2012年). 山口のむし, (12): 29.
- 後藤和夫, 2013f. ヒョウモンチョウ類の翅表白紋出現個体2例. 山口のむし, (12): 30. (オオウラギンヒョウモン)
- 後藤和夫, 2013g. ツマグロキチョウの新たな確認地 (2012年). 山口のむし, (12): 30.
- 後藤和夫, 2013h. ルーミスシジミ訪花二例. 山口のむし, (12): 32.
- 後藤和夫, 2014a. 美祢市桂木山山塊部一帯の蝶類. 山口のむし, (13): 21-31. (クモガタヒョウモン)
- 後藤和夫, 2014b. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2013年). 山口のむし, (13): 32.
- 後藤和夫, 2014c. シルビアシジミの新たな生息地 (2013年). 山口のむし, (13): 33-34.
- 後藤和夫, 2014d. ツマグロキチョウ夏型の遅い記録. 山口のむし, (13): 37.
- 後藤和夫, 2014e. 錦町平家ヶ岳山麓のスギタニルリシジミ. 山口のむし, (13): 36.
- 後藤和夫, 2015a. 山陽小野田市松岳山一帯の蝶類. 山口のむし, (14): 15-24. (シルビアシジミ)
- 後藤和夫, 2015b. ウラナミジャノメの新たな生息地. 山口のむし, (14): 25.
- 後藤和夫, 2015c. シルビアシジミの新たな生息地 (2014年). 山口のむし, (14): 26-27.
- 後藤和夫, 2015d. ツマグロキチョウの新たな確認地 (2014年). 山口のむし, (14): 31.
- 後藤和夫, 2015e. 山口県阿東のオオヒカゲ. 山口のむし, (14): 29.
- 後藤和夫, 2015f. 山口県西限のスギタニルリシジミ. 山口のむし, (14): 31-32.
- 後藤和夫, 2016a. 山口市一の坂ダム地域一帯の蝶類. 山口のむし, (15): 3-12. (クモガタヒョウモン)
- 後藤和夫, 2016b. ウラナミジャノメの新たな生息地と県内の分布 (2015). 山口のむし, (15): 58-59.
- 後藤和夫, 2016c. シルビアシジミの新たな生息地と県内の分布 (2015). 山口のむし, (15): 60-62.
- 後藤和夫, 2016d. ツマグロキチョウの新たな確認地と分布と動向 (2015). 山口のむし, (15): 65-67.
- 後藤和夫, 2016e. 県内のスギタニルリシジミと分布. 山口のむし, (15): 71-72.
- 後藤和夫, 2016f. 山口県のオオヒカゲの生態と既産地の動向. 山口のむし, (15): 73-77.
- 後藤和夫, 2017a. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2016). 山口のむし, (16): 57.
- 後藤和夫, 2017b. シルビアシジミの新たな生息地 (2016). 山口のむし, (16): 58.
- 後藤和夫, 2017c. ツマグロキチョウの新たな確認地 (2016). 山口のむし, (16): 59.
- 後藤和夫, 2017d. 徳地飯ヶ岳山麓のスギタニルリシジミ. 山口のむし, (16): 61.
- 後藤和夫, 2017e. 須佐高山のヘリグロチャバネセセリと青海島の動向. 山口のむし, (16): 62.
- 後藤和夫, 2017f. 阿武町でオオヒカゲを採集. 山口のむし, (16): 63.
- 後藤和夫, 2017g. 萩市伏馬のギンイチモンジセセリ. 山口のむし, (16): 68.
- 後藤和夫, 2018a. シルビアシジミの新たな生息地 (2017). 山口のむし, (17): 59-60.
- 後藤和夫, 2018b. ツマグロキチョウの新たな確認地 (2017). 山口のむし, (17): 61.
- 後藤和夫, 2018c. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2017). 山口のむし, (17): 63.
- 後藤和夫, 2018d. 周東町で確認したクロヒカゲモドキと現状について. 山口のむし, (17): 64.
- 後藤和夫, 2018e. 萩市むつみのギンイチモンジセセリ. 山口のむし, (17): 65.

- 後藤和夫, 2018f. スジグロチャバネセセリが下関市蓋井島に分布. 山口のむし, (17) : 66.
- 後藤和夫, 2018g. 越冬したルーミスジミ 5 月下旬の確認例など. 山口のむし, (17) : 67.
- 後藤和夫, 2018h. 萩市むつみのウラギンスジヒョウモンと現状について. 山口のむし, (17) : 68.
- 後藤和夫, 2019a. シルビアシジミの新たな生息地 (2018). 山口のむし, (18) : 43.
- 後藤和夫, 2019b. クロツバメシジミ響灘産の状況について. 山口のむし, (18) : 44.
- 後藤和夫, 2019c. 山口県内のカラスシジミの動向. 山口のむし, (18) : 45.
- 後藤和夫, 2019d. 萩市福栄でウラギンスジヒョウモンを確認. 山口のむし, (18) : 46.
- 後藤和夫, 2019e. 下関市内でウラギンヒョウモンを確認. 山口のむし, (18) : 46.
- 後藤和夫, 2019f. 阿東産オオヒカゲのその後について. 山口のむし, (18) : 47.
- 後藤和夫, 2019g. 県内のヘリグロチャバネセセリについて. 山口のむし, (18) : 48.
- 後藤和夫, 2019h. 防府市向島で確認したツマグロキチョウ. 山口のむし, (18) : 51.
- 後藤和夫・稲田博夫, 2007. 柳井市平郡島で確認した蝶類. 山口のむし, (6) : 1-4. (ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫・安富健児, 2003. 宇部市迫条地区の蝶類. 山口のむし, (2) : 7-8. (シルビアシジミ)
- 後藤和夫・安富大樹, 2004. 宇部市迫条地区の蝶類追加報告. 山口のむし, (3) : 15-17. (ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫・岡村元昭, 2006. 岩場の忍者クロツバメシジミ 11 月の観察例. 山口のむし, (5) : 17.
- 後藤和夫・川元 裕, 2008. 山口県におけるスギタニルリシジミの分布調査結果 (1). 山口のむし, (7) : 18.
- 後藤和夫・福田竹美, 2006. ホシミスジの新たな生息地を発見. 山口のむし, (5) : 15-16.
- 五味 清, 2008. クロシジミの遅い発生. 山口のむし, (7) : 21.
- 五味 清, 2011. 周南市烏帽子岳山塊の蝶類. 山口のむし, (10) : 39-44. (オオムラサキ)
- 五味 清, 2013. 周南市太華山一帯で確認した蝶類, 追加報告. 山口のむし, (12) : 48-50. (ウラナミジャノメ)
- 五味 清, 2016. スジグロチャバネセセリの追加記録. 山口のむし, (15) : 79.
- 五味 清, 2018. 周南市大津島の蝶類. 山口のむし, (17) : 52-58. (ツマグロキチョウ)
- 五味 清, 2019a. 周南市緑地公園の蝶類. 山口のむし, (19) : 29-35. (ツマグロキチョウ)
- 五味 清, 2019b. 周東町と太華山におけるスジグロチャバネセセリの記録. 山口のむし, (18) : 48.
- 小林啓一・後藤和夫, 2003. 美東町のシルビアシジミ新棲息地. 山口のむし, (2) : 5.
- 重中良之, 2004. シルビアシジミ柳井市で確認. 山口のむし, (3) : 18.
- 重中良之, 2007. 屋代島 (周防大島町) のクロツバメシジミ. 山口のむし, (6) : 25.
- 下野誠之, 2014. 岩国市錦町傍示ヶ峠においてスジボソヤマキチョウを採集. 山口のむし, (13) : 77.
- 白水房江, 2010. 秋吉台でのツマグロキチョウの記録. 山口のむし, (9) : 69.
- 住田 紘, 2009a. 下関・井田のオオウラギンスジヒョウモン. 山口のむし, (8) : 29.
- 住田 紘, 2009b. 華山のウラギンヒョウモン. 山口のむし, (8) : 29.
- 住田 紘, 2010. 下関旧市内でシルビアシジミを採集. 山口のむし, (9) : 66.
- 田中伸一, 2004. 周東半島でツマグロキチョウ採集. 山口のむし, (3) : 19-20.
- 田中正文, 1974. 山口県でミヤマカラスシジミを採集. 昆虫と自然, 9(14) : 14.
- 田中正文, 1979. 山口県でカラスシジミを採集. 昆虫と自然, 14(8) : 33.
- 田中正文, 2004. ギンイチモンジセセリの 3 化. 山口県の自然, (64) : 29.
- 田中正文, 2005. オオムラサキ、スギタニ型. 山口県の自然, (65) : 53.
- 藤川 匠, 2007. 下関市綾羅木でクロツバメシジミを採集. 山口のむし, (6) : 22.
- 藤田一夫・三戸雅就・福田竹美, 1995. 山口県東和町でクロツバメシジミを採集. 蝶研フィールド, (109) : 22.
- 安富大樹, 2007. オオヒカゲを寂地峡入り口で採集. 山口のむし, (6) : 29.
- 山本弘三, 2014. 周防大島町の蝶類 (2013 年). 山口のむし, (13) : 71-72. (ホシミスジ)
- 渡辺一雄・淀江賢一郎・難波道孝・山中捷二・後藤和夫, 2000. 中国地方におけるギフチョウ一分布図および分布論. ホシザキグリーン財団研究報告. (4) : 225-237.

・共通文献リスト (二種以上)

- 有田 齊・前田善広 (編), 2015. 珠玉の標本箱. シジミチョウ科⑦, 43pp., NRC 出版. (ミヤマカラスシジミ, ルーミスジミ)
- 板野 隆, 2008. 柳井市のシルビアシジミとギフチョウ. 山口のむし, (7) : 24. (シルビアシジミ, ギフチョウ)
- 稲田博夫, 2013. 岩国市高照寺山山塊部一帯の蝶類. 山口のむし, (12) : 35-43. (ギフチョウ, オオウラギンスジヒョウモン, スジグロチャバネセセリ)

- 稲田博夫, 2015. 岩国市銭壺山, 大將軍山一帯の蝶類. 山口のむし, (14) : 52-59.
(ギフチョウ, ツマグロキチョウ, ウラギンスジヒョウモン, オオムラサキ, ウラナミジャノメ, ミヤマチャバネセセリ)
- 稲田博夫, 2016. 岩国市城山一帯の蝶類. 山口のむし, (15) : 21-28. (ツマグロキチョウ, オオムラサキ)
- 稲田博夫, 2017. 岩国市弥栄ダム周辺の蝶類. 山口のむし, (16) : 18-27.
(ツマグロキチョウ, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, ホシミスジ, ウラナミジャノメ, スジグロチャバネセセリ)
- 稲田博夫, 2018. 岩国市羅漢高原一帯の蝶類. 山口のむし, (17) : 13-20.
(オオウラギンスジヒョウモン, ウラギンヒョウモン, オオヒカゲ, スジグロチャバネセセリ, ヒメシジミ)
- 稲田博夫, 2019. 岩国市美川町の蝶類. 山口のむし, (18) : 10-18.
(ツマグロキチョウ, オオウラギンスジヒョウモン, ウラギンヒョウモン)
- 稲田博夫・山本弘三, 2012. 周防大島(屋代島)の蝶類. 山口のむし, (11) : 31-43.
(ツマグロキチョウ, ウラギンヒョウモン, ホシミスジ, ウラナミジャノメ)
- 岩国市の自然改定編纂委員会(編), 2011. 岩国市の自然. 293pp., 岩国市教育委員会 科学センター, 岩国.
(クロシジミ, クロツバメシジミ, オオウラギンヒョウモンを除く種に適用)
- 岩下貴文, 2012. 林直哉氏寄贈昆虫標本について. 防府市青少年科学館研究報告書ソラール紀要, (14) : 34-58.
(ギフチョウ, ツマグロキチョウ, ルーミスジミ, ウラクロシジミ, クロシジミ, カラスシジミ, クロツバメシジミ, シルビアシジミ, ヒメシジミ, ウラギンヒョウモン, ウラギンスジヒョウモン, オオウラギンスジヒョウモン, オオウラギンヒョウモン, クモガタヒョウモン, オオムラサキ, ホシチャバネセセリ, ギンイチモンジセセリ, コキマダラセセリ, ヒメヒカゲ, ウラナミジャノメ)
- 宇部自然環境調査委員会(編), 2002. 宇部市自然環境調査報告書. 256pp., 宇部市環境部環境共生課, 宇部.
(シルビアシジミ, ウラナミジャノメ)
- 宇部自然環境調査委員会(編), 2009. 宇部市自然環境調査報告書(楠地域). 187pp., 宇部市環境部環境共生課, 宇部.
(シルビアシジミ, ウラナミジャノメ)
- 川元 裕, 2010. 萩市・阿武町で観察した昆虫類について. 山口のむし, (9) : 170-172.
(ツマグロキチョウ, ウラギンヒョウモン, ウラナミジャノメ, スジグロチャバネセセリ)
- 川元 裕, 2018. 岡田雅裕氏所蔵昆虫標本について. 山口のむし, (17) : 204-207. (ギフチョウ, ウラクロシジミ, ツマグロキチョウ, シルビアシジミ, オオウラギンスジヒョウモン, オオムラサキ, ウラナミジャノメ, スジグロチャバネセセリ)
- 後藤和夫, 2000a. 羅漢高原の蝶に想う. 北九州の昆蟲, 2 (47) : 1p1., 115-120.
(ヒメシジミ, オオウラギンスジヒョウモン, ウラギンヒョウモン, オオヒカゲ, ヒメヒカゲ, コキマダラセセリ, スジグロチャバネセセリ, ヘリグロチャバネセセリ, ホシチャバネセセリ, ギンイチモンジセセリ)
- 後藤和夫, 2000b. 錦町深谷川渓谷部の蝶. 山口県の自然, (60) : 29-35.
(スジボソヤマキチョウ, ウラギンシジミ, ウラクロシジミ, ミヤマカラスシジミ, スギタニルリシジミ, オオウラギンスジヒョウモン)
- 後藤和夫, 2004. 美祢市桜山で確認した蝶類. 山口のむし, (3) : 4-6. (ウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン)
- 後藤和夫, 2005a. 山口県の蝶類目録. 山口のむし, (4) : 1-5. (ミドリシジミ, ヒョウモンモドキ, ヒメヒカゲ)
- 後藤和夫, 2005b. 徳地町飯ヶ岳の山地性の蝶. 山口のむし, (4) : 6-8. (クモガタヒョウモン, オオムラサキ)
- 後藤和夫, 2005c. 小野田市江汐公園の蝶類. 山口のむし, (4) : 9-12. (シルビアシジミ, ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫, 2006a. 秋吉台国定公園の蝶類. 山口のむし, (5) : 1-7.
(クロシジミ, シルビアシジミ, ウラギンスジヒョウモン, オオウラギンヒョウモン, ギンイチモンジセセリ)
- 後藤和夫, 2006b. 萩市見島で確認した蝶類. 山口のむし, (5) : 8-10. (シルビアシジミ, ウラギンスジヒョウモン)
- 後藤和夫, 2007a. 下関市豊田町華山の蝶類. 山口のむし, (6) : 5-10.
(シルビアシジミ, ウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン)
- 後藤和夫, 2007b. 宇部市荒滝山の蝶類. 山口のむし, (6) : 11-14. (シルビアシジミ, ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫, 2007c. 山口県内の蝶類の動向(2006). 日本鱗翅学会中国支部会報, (8) : 9-11.
(クロシジミ, シルビアシジミ, オオヒカゲ, ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫, 2009a. 北長門海岸国定公園青海島の蝶. 山口のむし, (8) : 7-12.
(ウラナミジャノメ, ヘリグロチャバネセセリ)
- 後藤和夫, 2009b. 山口県中央部の名山, 西鳳凰山の蝶類. 山口のむし, (8) : 13-19.
(ツマグロキチョウ, オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン)
- 後藤和夫, 2009c. 山口県の鱗翅目の動向(2008). 日本鱗翅学会中国支部会報, (10) : 6-9.
(ホシミスジ, シルビアシジミ, ウラナミジャノメ, ヘリグロチャバネセセリ)
- 後藤和夫, 2010. 萩市(旧須佐町)高山山塊の蝶類. 山口のむし, (9) : 19-26.
(シルビアシジミ, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, オオムラサ, ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫, 2011a. 十種ヶ峰山塊部一帯の蝶類. 山口のむし, (10) : 7-14.

- (ツマグロキチョウ, オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2011b. 山口市徳地長者ヶ原の蝶類. 山口のむし, (10) : 24-32.
- (ツマグロキチョウ, ウラギンヒョウモン, オオムラサキ)
- 後藤和夫, 2012a. 萩市田床山山塊部一帯の蝶類. 山口のむし, (11) : 3-12. (ツマグロキチョウ, シルビアシジミ, ウラギン
スジヒョウモン, オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラナミジャノメ, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2012b. 防府市向島の蝶類. 山口のむし, (11) : 13-20. (シルビアシジミ, ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫, 2013a. 萩市男岳山塊部一帯の蝶類. 山口のむし, (12) : 5-14.
(ツマグロキチョウ, ウラギンスジヒョウモン, オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, スジグロチャバネセリ, ミヤマチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2013b. 宇部市平原岳一帯の蝶類. 山口のむし, (12) : 15-24. (シルビアシジミ, ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫, 2013c. 2012年度の調査から県内で注目される蝶類について. 山口のむし, (12) : 33-341.
(クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン)
- 後藤和夫, 2015a. 山口県の蝶類目録 (2014). 山口のむし, (14) : 1-4. (全種に適用)
- 後藤和夫, 2015b. 山口市宮野上山間部一帯の蝶類. 山口のむし, (14) : 5-14.
(ツマグロキチョウ, クモガタヒョウモン, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2015c. 2014年度の調査から県内で注目される蝶類について. 山口のむし, (14) : 70-71.
(オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, オオムラサキ, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2016a. 2015年度の調査から県内で注目される蝶類について. 山口のむし, (15) : 87-89.
(オオウラギンヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, ホシミスジ, オオムラサキ, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2016b. 日本海を渡るチョウ4種について. 日本鱗翅学会中国支部会報, (17) : 38-44.
(カシワアカシジミ, クロツバメシジミ, オオヒカゲ, ヘリグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2017a. 萩市見島で追加した蝶と希少種について. 山口のむし, (16) : 69.
(シルビアシジミ, ウラギンスジヒョウモン)
- 後藤和夫, 2017b. 2016年度の調査から県内で注目される蝶類について. 山口のむし, (17) : 85-86.
(シルビアシジミ, オオウラギンスジヒョウモン, ウラギンヒョウモン, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2018a. 下関市蓋井島で確認した蝶類. 山口のむし, (17) : 28-32. (クロツバメシジミ, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2018b. 2017年度の調査から県内で注目される蝶類について. 山口のむし, (17) : 78-80.
(ギフチョウ, クロシジミ, クロツバメシジミ, スギタニルリシジミ, オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, オオ
ウラギンヒョウモン, ギンイチモンジセリ, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫, 2019a. 萩市見島の蝶類. 山口のむし, (18) : 1-8. (シルビアシジミ, ウラギンスジヒョウモン)
- 後藤和夫, 2019b. 2018年度の調査から県内で注目される蝶類について. 山口のむし, (18) : 57-59.
(ギフチョウ, クロシジミ, シルビアシジミ, ウラギンヒョウモン, オオウラギンヒョウモン, ギンイチモンジセリ, スジグロチャバネセリほか)
- 後藤和夫・稲田博夫. 2008. 皇座山山塊一帯で確認した蝶類. 山口のむし, (7) : 1-6.
(オオムラサキ, ウラナミジャノメ)
- 後藤和夫・稲田博夫. 2010. 防府市大平山山塊一帯の蝶類. 山口のむし, (9) : 9-18.
(ツマグロキチョウ, ウラギンヒョウモン, ウラナミジャノメ, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫・五味 清, 2015. 錦川中流域の蝶類. 山口のむし, (14) : 35-49.
(ツマグロキチョウ, スギタニルリシジミ, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, ホシミスジ, スジグロチャバネセリ)
- 後藤和夫・五味 清, 2019. 山口県の昆虫類RDL (2018) 蛾類・蝶類の選定種について. 日本鱗翅学会中国支
部会報, (20) : 2-9. (全種に適用)
- 五味 清, 2012. 周南市太華山一帯で確認した蝶類. 山口のむし, (11) : 45-52. (ツマグロキチョウ, ウラナミジャノメ)
- 五味 清, 2014. 下松市笠戸島の蝶類. 山口のむし, (13) : 63-70. (ツマグロキチョウ, ウラナミジャノメ)
- 五味 清, 2016. 周南市高瀬湖周辺の蝶類. 山口のむし, (15) : 29-39.
(ツマグロキチョウ, オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, スジグロチャバネセリ)
- 五味 清, 2017. 石ヶ岳山塊の蝶類. 山口のむし, (16) : 28-40.
(ツマグロキチョウ, オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, スジグロチャバネセリ)
- 五味 清, 2019a. 徳地大原湖周辺の蝶類. 山口のむし, (18) : 19-28.
(ツマグロキチョウ, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン)
- 五味 清, 2019b. 周東町導仙自然公園内の蝶類. 山口のむし, (18) : 36-40.
(ウラギンヒョウモン, オオウラギンスジヒョウモン, スジグロチャバネセリ)
- 五味 清・福田竹美. 2018. 馬糞岳山塊の蝶類. 山口のむし, (17) : 1-12.
(ツマグロキチョウ, オオウラギンスジヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, クロヒカゲモドキ, スジグロチャバネセリ)

- 重中良之, 2015. 柳井市で確認した蝶類. 山口のむし, (14) : 66-68.
(ギフチョウ, シルビアシジミ, オオムラサキ, ウラナミジャノメ)
- 白水 隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 336pp., 学習研究社, 東京. (全種に適用)
- 住田 紘, 2006. 下関市のチョウと環境問題. 249pp., 弦書房, 福岡.
(ツマグロキチョウ, クロシジミ, クロツバメシジミ, シルビアシジミ, ウラナミジャノメ)
- 福田竹美・五味 清, 2015. 光市文化センター所蔵の昆虫標本. 山口のむし, (14) : 144-161.
(ギフチョウ・ツマグロキチョウ・スジボソヤマキチョウ・ハヤシミドリシジミ・シルビアシジミ・クモガタヒヨウモン・ウラギンヒヨウモン・オオウラギンヒヨウモン・ホシミスジ・オオムラサキ・ウラナミジャノメ・ギンイチモンジセセリ・ミヤマチャバネセセリ)
- 福田竹美, 2016. 周南市金峰山山塊一帯の蝶類. 山口のむし, (15) : 40-57.
(ツマグロキチョウ, オオウラギンスジヒヨウモン, クモガタヒヨウモン, ウラギンヒヨウモン, オオムラサキ, スジグロチャバネセセリ)
- 福田竹美, 2017. 光市石城山山塊一帯の蝶類. 山口のむし, (16) : 41-56.
(ツマグロキチョウ, シルビアシジミ, オオムラサキ, ウラナミジャノメ)
- 藤川 匠・後藤和夫, 2005. 下関市の蝶類追加報告. 山口のむし, (4) : 23.
(クモガタヒヨウモン, ウラナミジャノメ, ミヤマチャバネセセリ)
- 矢後勝也・平井規央・神保宇嗣 (編), 2016. 日本産チョウ類の衰亡と保護 第7集. 351pp., 日本鱗翅学会, 東京. (全種に適用)
- 山口県環境生活部自然保護課 (編), 2002. 昆虫類・クモ類. pp.197-293., レッドデータブックやまぐち, 山口. (全種に適用)
- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会 (編), 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会. (全種に適用)
- 山口むしの会 (編), 2012. 秋吉台自然環境体験学習事業調査報告書. pp.113-149. 山口県環境生活部自然保護課, 山口. (ツマグロキチョウ, シルビアシジミ, オオウラギンスジヒヨウモン, ウラギンヒヨウモン, オオウラギンヒヨウモン, オオウラギンスジヒヨウモン, オオムラサキ, ウラナミジャノメ, ギンイチモンジセセリ)
- 山口むしの会保全委員会調査班 (編), 2012. 宇部市検小野地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (9) : 173-178.
(シルビアシジミ, ウラギンヒヨウモン, ウラナミジャノメ)
- 山口むしの会昆虫目録制作委員会 (編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 84pls., 2049pp., 山口むしの会. (全種に適用)

● そのほか

- 山口県環境生活部自然保護課 (編), 2002. レッドデータブックやまぐち. 512pp., 山口県環境生活部自然保護課, 山口. (全昆虫に適用)
- 山口県立山口博物館 (編), 1988. 山口県の昆虫. 198pp., 山口県立山口博物館, 山口. (全昆虫に適用)